

重要	再生できるディスクの種類 155ページ
	ディスクの操作について 155ページ

必ずお読みください

目次

はじめに

共通の基本操作

基本的な操作

機能設定メニューを使う

音の調整

音質・音場の調整

DVDの設定

システム設定

初期設定

便利な機能

付録

7.0型ワイドVGAインダッシュTV/DVD-A/DVD-V/
VCD/CD/チューナー・6.1 ch対応・WMA/MP3/AAC/
DivX/JPEG対応・DSPメインユニット

AVH-P90DVA

目次 4ページ

必ずお読みください

安全のために必ずお守りください

必ずお読みください

絵表示について

この取扱説明書、取付説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

- 表示内容を無視して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。



注意

この表示の欄は、「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

- お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



このような絵表示は、注意（警告を含む）しなければならない内容です。



このような絵表示は、禁止（やってはいけないこと）の内容です。



このような絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。

安全上のご注意（別冊の「安全上のご注意」もお読みください）

 **警告**

[使用方法]

運転中に操作をしない



画面を長く見る必要がある複雑な機能は、自動車の運転中に操作をしないでください。前方不注意となり交通事故の原因となります。操作は、必ず安全な場所に車を停車させて行ってください。また運転中、画面を注視する時間は必要最低限としてください。

走行中にテレビやDVDなどを見ない



運転者がテレビやDVDなどを見るときは、必ず安全な場所に車を停車させてください。走行中にテレビやDVDなどを見ると前方不注意となり、交通事故の原因となります。

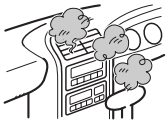
[異常時の処置]

故障のまま使用しない



画面が映らない、音が出ないなどの故障の状態で使用しないでください。必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままで使用になると事故・火災・感電の原因となります。

異常のまま使用しない



万一、煙が出る・変なにおいがする・内部に異物が入った・水がかかったなど異常が起きましたら、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままで使用になると事故・火災・感電の原因となります。

ヒューズは規定容量のヒューズを使用する



ヒューズを交換するときは、必ず表示された規定容量のヒューズをご使用ください。規定容量以上のヒューズを使用すると、火災の原因となります。

 **注意**

[使用方法]

モニター部にヒーターの熱などを当てない



モニター部にエアコンのクーラーの冷気やヒーターの熱を当てないでください。そのままで使用になると故障や火傷の原因となることがあります。

目次

必ずお読みください 2

- 安全のために必ずお守りください 2
- 安全上のご注意 3

はじめに 10

- この取扱説明書のみかた 10
 - 章の切り分け 10
 - ページ内の構成 11
- 本機の特徴 12
 - タッチパネル操作対応 12
 - DVDメニュー
 - ダイレクトタッチ対応 12
 - DVDオーディオ再生対応 12
 - DVDビデオ再生対応 12
 - ビデオCDのPBC対応 12
 - CD再生対応 12
 - CD TEXT再生対応 12
 - WMA/MP3/AACファイル
 - 再生対応 12
 - DivX®再生対応 12
 - JPEGファイル再生対応 12
 - ドルビーデジタルEX対応 13
 - DTS-ES対応 13
 - Bluetoothアダプター対応 13
 - iPodコントロール対応 13
 - 50枚型マルチCDプレーヤーの使用について 13
- 安全走行のために 14
 - リアモニターについて 14
 - 携帯電話をお使いになる際のご注意 14
- バッテリー上がりを防ぐために 14
- 著作権について 14
- 本機で再生できるファイルについて 15
 - WMAについて 15
 - MP3について 15
 - AACについて 15
 - DivXについて 16
- デモモードについて 16
- 本機のリセットについて 17
- ナビゲーションユニットと組み合わせた場合 17
- 地上デジタルテレビ放送について 18
 - 地上デジタルTVチューナーについて 18
 - 地上デジタルTVチューナーの設定について 18

- リモコンの準備 19
 - リモコンに電池を入れる 19
 - リモコンの操作モードについて 19
- 本体・モニター 20
 - リモコン 22

共通の基本操作 24

- フロントパネルの取り外しかた/取り付けかた 24
 - フロントパネルを取り外す 24
 - フロントパネルを取り付ける 25
 - フロントパネルを固定する 25
- 電源のON/OFF 26
 - 電源ON 26
 - 電源OFF 26
- 情報プレートの見かた 26
- タッチキーの基本操作 27
 - タッチキーを表示する 27
- ソースのON/OFF 27
 - ソースON 27
 - ソースOFF 29
- 音量を調節する 30
- モニターの操作 30
 - モニターの収納 30
 - モニターの角度調節 30
 - モニターを一時的に手前に倒す 31
- ディスクの出し入れ 31
 - ディスクの入れかた 31
 - ディスクの取り出しかた 31
- 本機のサブディスプレイについて 32
 - サブディスプレイに表示される情報 32
 - サブディスプレイの表示を切り換える 33

基本的な操作 34

- FMラジオ/AMラジオ 34
 - 基本的なFM/AMラジオ画面の見かた 34
 - リモコンでの基本的な操作 34
 - タッチキーでの基本的な操作 35
- DVDビデオ 36
 - 基本的なDVDビデオ画面の見かた 36
 - リモコンでの基本的な操作 36
 - タッチキーでの基本的な操作 37
- DVDオーディオ 38
 - 基本的なDVDオーディオ画面の見かた 38
 - リモコンでの基本的な操作 38
 - タッチキーでの基本的な操作 39

ビデオCD、CD、ROM-Audio、 DivX®、JPEG	40	CMを飛ばして再生する	58
基本的な画面の見かた (例：CD)	40	オートプレイを設定する	58
リモコンでの基本的な操作	40	再生中に音声や言語を切り換える	58
タッチキーでの基本的な操作	41	再生中に字幕言語を切り換える	59
テレビ	42	再生中にアングルを切り換える	59
基本的なテレビ画面の見かた	42	ブックマークを登録する	60
リモコンでの基本的な操作	42	見たい (聞きたい) 場所を 指定して再生する	60
マルチCD (別売)	44	タイトル (グループ) の ダイレクトサーチ	61
基本的なマルチCD画面の見かた	44	PBCメニューの操作	61
リモコンでの基本的な操作	44	ディスクを選ぶ	61
タッチキーでの基本的な操作	45	曲を探す	62
iPod (別売)	46	データ運動放送を見る	62
基本的なiPod画面の見かた	46	番組内容を確認する	62
リモコンでの基本的な操作	46	受信中のチャンネルの番組表を見る ..	63
タッチキーでの基本的な操作	47	現在放送中の番組一覧を見る	63
携帯電話・BTオーディオ (別売)	48	ワンセグ放送やデータ放送を見る	63
基本的な画面の見かた (例：携帯電話)	48	チャンネルリストで選局する	63
リモコンでの基本的な操作	48	映像を切り換える	64
タッチキーでの基本的な操作	49	音声を切り換える	64
地上デジタルテレビ (別売)	50	字幕を切り換える	64
基本的な地上デジタルテレビ 画面の見かた	50	音声操作で電話をかける	64
リモコンでの基本的な操作	50	かかってきた電話に出る	65
タッチキーでの基本的な操作	51	かかってきた電話に出る	65
ナビゲーションユニット (別売)	52	通話中にかかってきた 別の電話に出る (割込通話)	65
タッチキーでの基本的な操作	52	かかってきた電話を切る (着信拒否)	65
バンドを切り換える	53	かかってきた電話を切る	65
放送局を選ぶ	53	通話中にかかってきた電話を切る	66
プリセットチャンネル選局	53	電話番号を入力して電話をかける	66
マニュアル選局	54	プリセットダイヤルで電話をかける ..	66
プリセットチャンネルリストへ 登録する	54	電話帳を使う	66
情報プレートの 表示内容を切り換える	54	電話帳から電話をかける	66
リストから選んで再生する	55	電話帳編集画面を表示する	67
静止画を切り換える	56	電話帳データの 名前や電話番号を編集する	67
コマ送り／スロー再生する	56	履歴から電話をかける	67
コマ送り再生	56		
スロー再生	56		
DVDディスクの ディスクメニューを操作する	57		
ディスクメニュー用 タッチキーを使った操作	57		
DVDメニューダイレクト タッチ機能を使った操作	57		

機能設定メニューを使う 68

機能設定メニューを表示する	68
機能設定メニュー一覧	68
リピート再生する	72
ランダム再生する	73
スキャン再生する	73
音声の出力方法を切り換える	74
受信状態の良い放送局を 自動で登録する	74
放送局名を選ぶ	75
受信状態の良い放送局を 自動で登録する (BSSM)	75
音声多重放送の音声を切り換える	76
ITSを使う	76
ITSリストを作る	76
ITSリストから再生する	77
ITSリストから曲の指定を解除する	77
音を聞きやすくする (COMP/DBE)	78
地上デジタル放送の チャンネルを登録する	78
番組情報取得を設定する	78
ワンセグ放送の 受信方法を設定する	79
選局モードを切り換える	79
文字情報の表示内容を設定する	79
放送延長時の 番組追従設定を切り換える	79
緊急警報放送の受信方法を設定する ..	80
地域名を入力して 使用する地域を設定する	80
郵便番号を入力して 使用する地域を設定する	80
更新プログラムの ダウンロード設定を行う	80
ダウンロード設定をONにしたとき	81
放送中の番組情報を自動で取得する ..	81
地上デジタルTVチューナーの 設定内容を消去する	81
お知らせメッセージを表示する	82
地上デジタルTVチューナーの バージョン情報を表示する	82
携帯電話を接続する	82
接続可能な携帯電話を 検索して接続する	82
携帯電話をから接続する	83

Bluetooth接続を解除する	83
携帯電話を登録する	83
登録されている 携帯電話を接続する	84
登録されている携帯電話を 自動で接続する	84
登録されている携帯電話を 自動で接続する	84
携帯電話の登録を削除する	84
携帯電話の電話帳を転送する	85
電話帳の表示方法を切り換える	85
データを消去する	85
着信拒否を設定する	86
着信音をON/OFFする	86
自動着信を設定する	86
通話中の ノイズやエコーを軽減する	86
本システムの デバイス情報を確認する	87
Bluetooth対応機器を接続する	87
Bluetooth接続を解除する	87

音の調整 88

本機のオーディオ設定
 機能について 88
 効果的な音質調整のために 88
 本機のDSPモードについて 88
 本機の出力モードについて 88
 ソース別グループについて 88

本機のSOUND SETTING
 メニューについて 89
 高品質な音質・音場調整のために 89
 オートTA&EQについて 89
 CUSTOM SETTINGについて 89

効果的なオーディオ設定の順序 90
 スタンダードモードで
 使用しているとき 90
 ネットワークモードで
 使用しているとき 90
 必要に応じて使用する機能 91

オーディオ設定
 メニューを表示する 91

オーディオ設定モード一覧 92

前後左右の
 音量バランスを調節する 93

各ソースの音量をそろえる 93

オリジナルの音声で聞く 94

小さな音を聞きやすくする 94

ダウンミックス機能を使う 95

サラウンド音響で聞く 95
 Dolby Pro Logic II・
 Dolby Digital EXと
 DTS Neo : 6を切り換える 95
 Dolby Pro Logic II・
 Dolby Digital EXを調整する 96
 Dolby Pro Logic II・
 Dolby Digital EXの
 MUSICを調整する 97
 DTS Neo : 6を調整する 98
 DTS Neo : 6のMUSICを調整する 98

2チャンネル音声とマルチ
 チャンネル音声を切り換える 99

音質・音場の調整 100

SOUND SETTINGの
 設定内容を切り換える 100

SOUND SETTINGの
 調整メニューを表示する 100

SOUND SETTING
 設定モード一覧 101

タッチキーで
 各項目に直接移動する 103

音場の中心で聞く 104

13バンド グラフィック
イコライザーを使う 105
 音質を手軽に調節する 105
 13バンド グラフィックイコライザーを
 細かく調整する 106

3バンドパラメトリック
イコライザーを使う 108
 音質を手軽に調節する 108
 3バンドパラメトリックイコライザーを
 細かく調整する 109

各スピーカーの有無と
サイズを設定する 111
 各スピーカーの有無と
 サイズを設定する 111
 調整した内容を選ぶ 113

スピーカーどうしの
音のつながりを調整する 114
 各スピーカーの
 カットオフ周波数を調整する 114
 調整した内容を選ぶ 117

タイムアライメントを調整する 118
 タイムアライメントを調整する 118
 調整した内容を選ぶ 119

スピーカーの
出力レベルを調整する 120
 テストトーンを聞きながら
 調整する 120
 実際の音を聞きながら調整する 121
 調整した内容を選ぶ 123

AUTO TA&EQ設定を
ON/OFFする 123

SOUND SETTINGの
 名称を変更する 124

DVDの設定 125

DVD設定メニューを表示する 125

DVD設定モード一覧 125

字幕言語を設定する 126

 字幕言語の一覧から選択する 126

 「その他」から選択する 126

音声言語を設定する 127

 音声言語の一覧から選択する 127

 「その他」から選択する 127

メニュー言語を設定する 128

 メニュー言語の一覧から選択する 128

 「その他」から選択する 128

アシスト字幕の
表示/非表示を切り換える 129

マルチアングルマークの
表示/非表示を切り換える 129

テレビアスペクトを設定する 130

視聴制限（パレンタルロック）
を設定する 130

 暗証番号とレベルを設定する 131

 レベルを変更する 131

ポーズモードを切り換える 132

ボーナスグループを再生する 132

DivX VODの
登録コードを確認する 133

システム設定 134

システム設定メニューを表示する .. 134

システム設定モード一覧 134

AV入力を設定する 135

バックカメラの極性を設定する 135

モニターの自動開閉を設定する 136

モニターの
セットバックを設定する 136

時計を設定する 137

リアモニターの表示を設定する 137

夜間のサブディスプレイの
明るさを切り換える 138

サブディスプレイの
コントラストを切り換える 138

初期設定 139

初期設定メニューを表示する 139

初期設定モード一覧 139

フロントパネルの
外し忘れを警告する 140

外部機器を使う 140

 外部機器の音声を聞く 140

 外部機器の名称を入力する 141

音の歪みを補正する 141

ミュート時の音量を切り換える 142

ディスクの自動再生を設定する 142

オーディオの設定をリセットする .. 143

DSPモードを切り換える 143

光デジタルの
入力設定を切り換える 144

音響特性を最適に自動補正する 144

 音響特性を自動補正する前に 144

 音響特性を最適に自動補正する 145

Bluetoothの
パスコードを変更する 147

セキュリティインジケータの
ON/OFFを切り換える 147

便利な機能 148

瞬時に音量を小さくする
(ATT) 148

交通情報を受信する (TI) 148

背景画面を設定する
(エンタテインメント) 148

ワイド画面の
拡大方法を切り換える 149

画質調整 150

 モニターのまがしさを抑える 150

リアモニターを使う 151

 リアモニターの映像を切り換える 151

エクスターナルユニットの操作 152

 基本操作 152

 機能設定メニューの操作 152

 操作例 153

リモコンコードの設定 153

タッチパネルの誤差を補正する 154

付録 155

再生できるディスクの種類 155	
DVDに表示されている	
マークの意味 155	
フォルダーとWMA/MP3/AAC	
ファイルについて 157	
再生できる	
WMAファイルについて 158	
再生できる	
MP3ファイルについて 159	
再生できる	
AACファイルについて 159	
再生できる	
DivXビデオファイルについて 160	
再生できる	
JPEGファイルについて 160	
使用上のご注意 161	
取り扱い上のご注意 161	
保管上のご注意 161	
お手入れについて 161	
ディスク再生の環境について 161	
モニターの正しい使い方 162	
取り扱い上のご注意 162	
液晶画面について 163	
小型蛍光管について 163	
お手入れについて 163	
言語コード表 164	
故障かな?と思ったら 165	
共通項目 165	
内蔵プレーヤー：DVD 168	
内蔵プレーヤー：ビデオCD 169	
内蔵プレーヤー：CD 169	
ラジオ 169	
テレビ 170	
こんなメッセージが	
表示されたら 171	
内蔵プレーヤーのエラー表示 171	
オートイコライジングの	
エラー表示 172	
保証書とアフターサービス 173	
用語解説 174	
アイコン一覧 179	
地上デジタルTV 179	
携帯電話・BTオーディオ 179	

データ記録シート 180	
3バンド	
パラメトリックイコライザー 180	
13バンド	
グラフィックイコライザー 181	
スピーカー設定 181	
カットオフ周波数設定 182	
タイムアライメント 183	
仕様 184	

はじめに

この取扱説明書のみかた

章の切り分け

この取扱説明書では、ふだんよく使う機能と便利な機能で章を分けて説明しています。ふだんよく使う機能は、特別な設定をすることなく使用できます。便利な機能を使うには、設定が必要です。

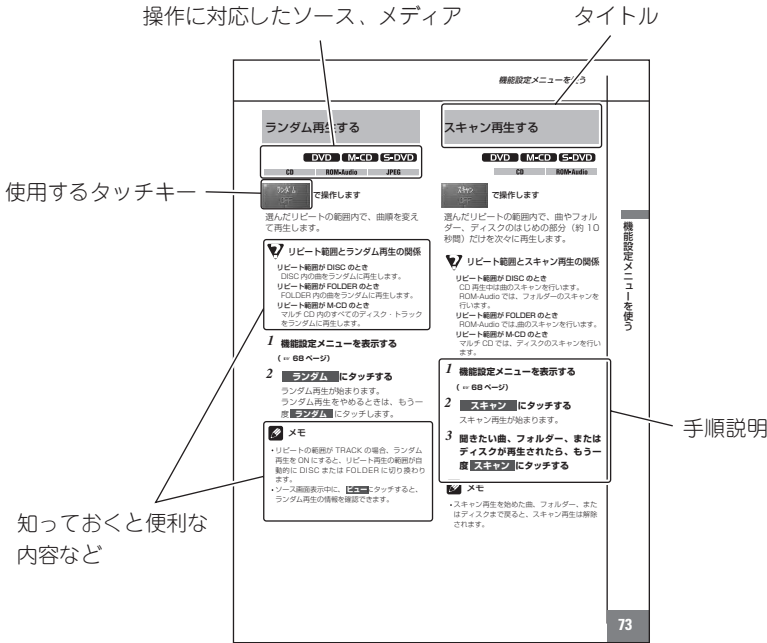
ふだんよく使う機能については、「基本的な操作」の章で、便利な機能についてはそのあとの「機能設定メニューを使う」などの章で説明しています。また、オーディオ調節などは「音の調節」や「音質・音場の調節」の章で説明しています。

お買いあげ後すぐにご使用になりたいときは、「基本的な操作」をお読みください。本機の基本的な操作方法がひととおり分かります。

章のタイトル	こんなときに読んでください
必ずお読みください	本機を使用するうえで、安全のために知っておいてほしいことなどが書いてあります。
はじめに	この章です。本機を使う前にお読みください。本機を操作する前に知っておいて欲しいことなどについて説明しています。
共通の基本操作	電源のON/OFFやボリューム調節など、全ソース共通の操作を説明しています。
基本的な操作	本機をすぐに使いたいときや、ふだんの操作をひととおり知りたいときにお読みください。
機能設定メニューを使う	本機に接続したソースの、便利な機能を説明しています。ソースの機能設定を行うときなどにお読みください。
音の調整	本機を使った音の調整について説明しています。次の「音質・音場の調整」とあわせて、順番に調整することで、より高品位な音響空間を作りあげることができます。
音質・音場の調整	本機を使った、音質・音場の調整について説明しています。「音の調整」とあわせて、順番に調整することで、より高品位な音響空間を作りあげることができます。
DVDの設定	本機に内蔵のDVDプレーヤーの設定を行います。
システム設定	本機に接続した機器など、システム全体の設定を行います。また、本機のサブディスプレイの設定や時計調節などもここでを行います。
初期設定	本機の初期設定メニューの操作を説明しています。オートTAS&EQなどは、ここで設定します。
便利な機能	便利な機能について知りたいときにお読みください。本機に接続したソースの便利な機能もここで説明しています。
付録	本機が思ったように動作しないなど、操作で困ったときにお読みください。ディスクの取り扱い方法や本機が正常に動作しないときの対処方法について説明しています。また、「音の調整」、「音質・音場の調整」での調整内容を記録するためのシートもここに用意してあります。

ページ内の構成

知りたい機能や操作の説明を探しやすいように構成されています。次の例のような構成になっています。



知っておくと便利な内容など

アイコンの説明

- 本機を使用するうえで、知っているのと役に立つ機能や用語を説明しています。
- 操作のヒントや便利な使い方などを示しています。
- 操作するときの注意／本機の性能の維持に必要な注意／安全のために必ず守っていただきたい内容を示しています。

FM	M-CD	TEL
AM	S-DVD	BT Audio
DVD	iPod	
TV	DTV	

操作に対応しているソースを示しています。

DVD-V	ROM-Audio
DVD-A	DivX®
Video CD	JPEG
CD	

操作に対応しているメディアを示しています。

Standard	Network
Multi-Channel	
2-Channel	

操作に対応している DSP モード／出力モードを示しています。
操作に対応していない場合は、反転表示されています。

本機の特徴

タッチパネル操作対応

本機のディスプレイ部は、タッチパネル操作に対応しています。全ての操作を直感的に実現することができます。

DVDメニュー ダイレクトタッチ対応

DVDディスクを挿入したときに表示されるメニューの操作を、タッチ操作で行うことができます。希望の項目にタッチするだけで操作が可能です。

(※ 57ページ)

- DVDディスクによっては、ダイレクトタッチ操作に対応していないものもあります。

DVDオーディオ再生対応

本機はDVDオーディオの再生に対応しています。DVDオーディオの特徴である、高音質オーディオの再生を実現しています。

DVDビデオ再生対応

本機はDVDビデオの再生に対応しています。市販のDVDビデオだけでなく、ビデオモードで録画されたDVD-R/RWの再生にも対応しています。

ビデオCDのPBC対応

PBC（プレイバックコントロール）機能付きビデオCDの再生に対応しています。

CD再生対応

音楽CD/CD-R/RWの再生に対応しています。

CD TEXT再生対応

CD TEXTの再生に対応しています。

CD TEXTとは

- CDのタイトルや歌手名などの文字情報が収録されているCDです。ディスクタイトル面に下記のマークの付いているCDはCD TEXTディスクです。下記マークの付いていないCD TEXTディスクもあります。



WMA/MP3/AACファイル 再生対応

WMA/MP3/AACファイルが記録されたCD-R/RW/ROM、DVD-R/RW/ROMの再生に対応しています。ディスクは、ISO9660のレベル1、レベル2、および拡張フォーマット（Joliet、Romeo）に準拠して記録されたディスクが再生可能です。

(※ 157ページ)

DivX®ファイル再生対応

DivXファイルが記録されたCD-R/RW/ROM、DVD-R/RW/ROMの再生に対応しています。

JPEGファイル再生対応

JPEGピクチャファイルが記録されたCD-R/RW/ROMの再生に対応しています。

ドルビーデジタル EX対応

本機では、6.1チャンネルで収録された映画／音楽のDVDを臨場感豊かに再現できます。



- ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

DTS-ES対応

本機では、6.1チャンネルで収録された映画／音楽のDVDを臨場感豊かに再現できます。

- 「DTS」「DTS-ES」「Neo : 6」および「DTS 96/24」は、Digital Theater Systems, Inc. の登録商標です。



Bluetoothアダプター対応

パイオニア製Bluetoothアダプター（「CD-BTB10」）の接続に対応しています。Bluetoothアダプターを使って、携帯電話やポータブルオーディオ機器の操作に対応しています。

iPodコントロール対応

パイオニア製iPodアダプター（「CD-IB10II」など）の接続に対応しています。iPodアダプターを使って、ドックコネクタ付きiPodをコントロールできます。

- iPodは、米国および他の国々で登録された、Apple Computer, Inc.の商標です。

50枚型マルチCDプレーヤーの使用について

本機では、50枚型マルチCDプレーヤーの取扱説明書に記載されている50枚型マルチCDプレーヤー特有の機能进行操作することはできません。本機で操作できるのは、本書に記載されている機能のみです。また、タイトルリストモードには切り換わりません。

安全走行のために

本機はパーキングブレーキのON/OFFを検知しており、走行中にテレビやDVDの映像を見ることができないようになっています。(走行中は次のようなメッセージが表示されます。)



- このようなメッセージは、安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけた後解除されます。

リアモニターについて

リアモニター出力に、後部座席専用のモニターを接続すると、本機の映像を後部座席でも楽しむことができます。リアモニター出力は、パーキングブレーキのON/OFFに関係なく映像が出力されます。リアモニター出力に接続したリアモニターは、運転者が走行中に映像を見ることができる位置には、絶対に設置しないでください。

携帯電話をお使いになる際の ご注意

携帯電話をお使いになるときは、携帯電話のアンテナをTVモニターに近づけないでください。画面に、はん点や色模様などのノイズが出たり、映像が乱れたりすることがあります。

バッテリー上がりを 防ぐために

本機をお使いになるときは、必ず車のエンジンをかけてください。エンジンがかかっていないときに本機を使用すると、バッテリーが消耗します。

車のバッテリー交換などで本機に電源が供給されなくなると、本機は初期状態に戻ります。本機が初期状態に戻ると、ラジオのプリセットメモリー、時計などの設定内容は消去されてしまいます。

ラジオのプリセットメモリーは54ページ、時刻設定は137ページを参照して、再設定してください。

著作権について

本機は、マクロビジョンコーポレーションおよび他の権利保有者が所有する合衆国特許および知的所有権によって保護された、著作権保護技術を搭載しています。この著作権保護技術の使用にはマクロビジョンコーポレーションの許可が必要であり、同社の許可がない限りは一般家庭及びそれに類似する限定した場所での視聴に制限されています。解析や改造は禁止されていますので行わないでください。

本機で再生できる ファイルについて

WMAについて



外装箱に印刷された、Windows Media™のロゴは、本機がWMAデータの再生に対応していることを示しています。

WMAとは、「Windows Media Audio」の略で、米国Microsoft Corporationによって開発された音声圧縮技術です。WMAデータは、Windows Media Player Ver. 7以降を使ってエンコードできます。

- Windows Media、Windowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

メモ

- WMAファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、正常に動作しないことがあります。
- WMAファイルをエンコードしたWindows Media Playerのバージョンによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
- 画像データを含むWMAファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。

MP3について

本機を提供する場合、非営利目的の個人向けライセンスのみが提供されます。下記放送で、本機を使うライセンスを提供したり、いかなる形式にせよ、使う権利を意味するものではありません。下記放送で本機を使用する場合は、それぞれ固有のライセンスが必要となります。詳細

は、インターネット上のホームページ <http://www.mp3licensing.com> をご覧ください。

- 営業目的、すなわち利益の発生するリアルタイム放送（地上波放送、衛星放送、ケーブルテレビを始めとするメディア）、インターネットを使った放送やデータ転送、イントラネットを始めとするネットワーク、あるいはペイオーディオやオンデマンド方式のオーディオといった電子の放送番組の配信システムなど。

メモ

- MP3ファイルをライティングしたiTunesのバージョンによっては、ファイル名などが正しく表示されないことがあります。

AACについて

AACとは、「Advanced Audio Coding」の略で、MPEG2、MPEG4で使用される音声圧縮技術に関する基本フォーマットです。

AACデータは、作成に使用したアプリケーションによってファイル形式と拡張子が異なります。

本機では、iTunesのVer. 4.6を使用してエンコードされたAACファイルの再生に対応しています。

本機は、iTunesで作成された拡張子(.m4a)がついているファイルを、AACファイルとして再生します。故障の原因となりますので、(.m4a)以外の拡張子のついたAACファイルを再生しないでください。

メモ

- AACファイルをライティングしたiTunesのバージョンによっては、ファイル名などが正しく表示されないことがあります。
- iTunesは、米国および他の国々で登録されたApple Computer, Inc.の商標です。

DivX®について



DivX®は、DivX, Inc.が開発した評価の高いメディア技術です。DivXのメディアファイルは、高画質を維持しながら、高い圧縮率でコンパクトに圧縮できます。DivXで圧縮するファイルには、メニューや、字幕、サブオーディオトラックなども含めることができます。DivX.comでは、DivXメディアファイルを多数掲載しています。これらのメディアをダウンロードして、DivXの専用ツールを使えば、オリジナルのコンテンツを作成できます。

DivX Certified製品は、DivXのクリエイターによってテストされ、全てのバージョンのDivX（DivX 6も含む）でも再生できることが正式にテスト、認定された製品です。DivX Certifiedの認定ロゴが付いている製品は、DivX Profiles規格に準拠したポータブルビデオやHDビデオであることを示しています。

- DivX® Certified製品
- 標準のDivX®メディアファイル再生機能が付いたDivX®ビデオを再生（DivX® 6も含む全てのバージョンに対応）
- DivX、DivX Certified、および関連するロゴは、DivX, Inc.の商標です。これらの商標は、DivX, Inc.の使用許諾を得て使用しています。

本機では、CD-R/RW/ROM、DVD-R/RWに記録されたDivX®ファイルを再生できます。

この取扱説明書では、それぞれのDivX®ファイルをDVDにあわせて「タイトル」と呼びます。DivX®ファイルはタイトルのアルファベット順に再生されますので、ディスクに記録する際はタイトル名の付けかたにご注意ください。

デモモードについて

デモモードは、本機がソースOFFのときに、各ソースや本機の機能を表示する機能です。

デモを解除するには、ソースOFFのときに、【SOUND SETTING】ボタンを長く（約2秒）押します。もう一度長く押すと、デモが始まります。車のエンジンを止めた状態で、デモを長時間表示すると、バッテリー上がりの原因になります。

ご注意

- 赤リード線（アクセサリ電源）は、常に車のバッテリーから電源を供給する電源回路には接続しないでください。車のイグニッションスイッチと本機の電源をOFFにしても、デモが表示され、バッテリー上がりの原因となります。

本機のリセットについて

ご注意

- リセットボタンを押すと、本機が初期状態（ご購入直後の状態）に戻ります。「音の調節」、「音質・音場の調節」など、調節に時間のかかる内容は、メモしておくことをおすすめします。

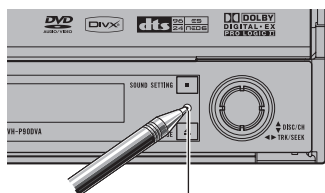
リセットボタンを押すと、DVDのブックマークを除いたすべての設定内容を初期状態（ご購入直後の状態）に戻します。次のようなときにリセットボタンを押してください。

- 本機が正しく動作しないとき。
- モニターが正しく表示されないとき。

1 エンジンスイッチをOFFにする

2 ペン先などでリセットボタンを押す

本機のマイコンが初期状態に戻ります。



リセットボタン

メモ

- パイオニア製ナビゲーションシステムと組み合わせた場合、必ずエンジンスイッチをOFFにしてから、リセットボタンを押してください。エンジンスイッチがONやACCの状態ではリセットボタンを押しても、正しく動作しないことがあります。
- 接続が終わった後や、すべての登録内容を消去し、本機を初期状態（ご購入直後の状態）に戻りたいときなどは、エンジンスイッチをONかACCにしてからリセットボタンを押してください。

ナビゲーションユニットと組み合わせた場合

組み合わせ可能なナビゲーションについて

本機は、30ピンRGB出力付きのHDDナビゲーションオートサーバー（例：「AVIC-H009」）のみ組み合わせることができません。ただし、以下の制限事項があります。

- 本機からナビゲーションユニットのミュージックサーバーへは録音できません。
- 本機は、ナビゲーションユニットの音声認識による「AV操作」には対応していません。
- 本機とナビゲーションユニットを組み合わせている場合、ナビゲーションのディスク挿入口からディスクが出ている状態では、本機のフロントパネルを開けることはできません。（警告音が鳴って、フロントパネルを開けられないことを知らせます。）必ず、ディスクを取り出すか、完全に挿入してから操作してください。

地上デジタルテレビ放送について

地上デジタルTVチューナーについて

別売のパイオニア製地上デジタルTVチューナー（例：「GEX-P9DTV」）を接続して、地上デジタルテレビ放送を楽しむことができます。

接続した地上デジタルTVチューナーによっては、使用できる機能に制限があります。

地上デジタルTVチューナーの操作について詳しくは、「基本的な操作」の「地上デジタルテレビ（※ 50ページ）」を参照してください。

メモ

- 地上デジタルテレビ放送について詳しくは、接続した地上デジタルTVチューナーの取扱説明書をご覧ください。

地上デジタルTVチューナーの設定について

本機に、地上デジタルTVチューナー（例：「GEX-P9DTV」）を接続した場合、使用する前に、以下の設定を行う必要があります。

地域設定：

使用する地域を設定します。地域のチャンネルリスト（エリアリスト）での選局に必要な設定です。

郵便番号入力：

使用する地域を郵便番号から設定します。設定した地域の天気予報や選挙速報などの受信に必要な設定です。

チャンネルスキャン：

チャンネルを自動的に探して登録させます。

以下の手順を参考に、初期設定を行ってください。

1 地域設定を行う

80ページを参照して、地域設定を行ってください。

2 郵便番号入力を行う

80ページを参照して、郵便番号設定を行ってください。

3 スキャンを行う

78ページを参照して、チャンネルのスキャンを行ってください。

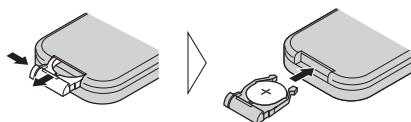
メモ

- 操作方法に関しては、それぞれのページを参照してください。

リモコンの準備

リモコンに電池を入れる

電池ホルダーを取り出し、リチウム電池 (CR2025) を図のようにしてセットします。



- はじめてお使いになるときは、電池ホルダー部から出ているフィルムを引き抜いてください。電池があらかじめセットされていますので、すぐにお使いいただけます。

メモ

- リモコンの操作可能範囲が狭くなってきたときは、新しい電池と交換してください。

リモコン取り扱い上のご注意

- リモコンを直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障するおそれがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。
- 本体に直射日光が当たっていると、リモコンの操作ができないことがあります。このようなときは、本体にリモコンを近づけて操作してください。
- 付属の電池は充電できません。
- リモコンを長い間使わないときは、電池を取り出してください。取り出した電池は、幼児の手の届かないところに保管してください。
- 電池の液もれが起こったときは、内部についた液をよくふき取ってから、新しい電池と入れ換えてください。
- 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示 (条例) に従って処理してください。

リモコンの操作モードについて

本機のリモコンには、DVDモード、TVモード、AVHモード (通常操作位置) の3つの操作モードがあります。



DVDモード：

以下の操作をするときに使います。

- DVDのディスクメニューをジョイスティックで操作するとき
- DVDオーディオの静止画を切り換えるとき
- ビデオCDのPBCメニューを数字ボタンで操作するとき
- DVDのグループやタイトル、ビデオCDのトラックを数字ボタンで指定するとき

TVモード：

リアモニター接続時に、フロントモニターから独立して、リアモニターでTVソースを操作するときに使います。チャンネル操作をジョイスティックで行います。

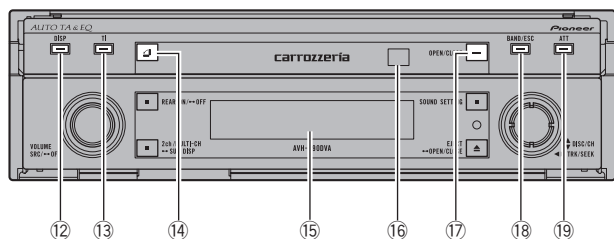
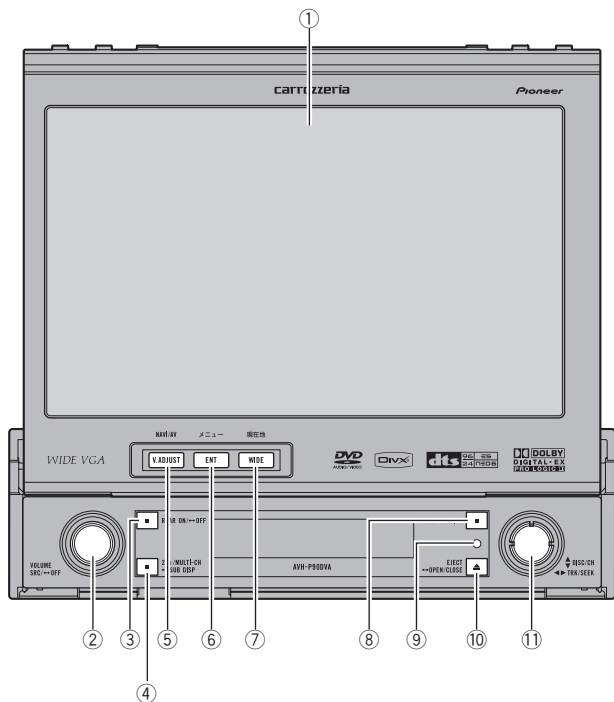
AVHモード：

リモコンで、各ソースを操作するときに使います。通常は、このモードでお使いください。

メモ

- DVDモードのときは、**[EJECT]** ボタン、**[BACK]** ボタンは使えません。
- TVモードのときは、ジョイスティック、**[SOURCE]** ボタン、**[+]** / **[-]** (VOLUME) ボタン、**[ATT]** ボタン、**[2ch/Man]** ボタン、**[DIN/DIS]** ボタン、および **[REAR SOURCE]** ボタンだけが使えます。

本体・モニター



① 画面

7インチのワイド液晶画面です。

② VOLUME (※ 30ページ) /SRC

音量(ボリューム)を調節します。
押すとソースを切り換えます。
長く押すと、ソースがOFFになります。

③ REAR ONボタン (※ 151ページ)

リアモニターの映像を切り換えます。
長く押すと、リアモニターの映像がOFFになります。

④ 2ch/MULTI-CH切換ボタン

内蔵DSPの設定を変更します。押すごとに、
2chとマルチchが切り換わります。
(※ 99ページ)
長く押すと、サブディスプレイの表示内容が切り換わります。(※ 33ページ)

⑤ V.ADJUSTボタン (※ 150ページ)

画質調整メニューに変わります。
ナビゲーションシステムを接続している場合、ナビゲーション画面とソース画面を切り換えます。

⑥ ENTボタン (※ 148ページ)

エンタテインメント選択画面を表示します。
ナビゲーションシステムを接続している場合、ナビゲーションのメニュー画面を表示します。

⑦ WIDEボタン (※ 149ページ)

ワイド画面の拡大方法を切り換えます。
ナビゲーションシステムを接続している場合、現在地表示を行います。

⑧ SOUND SETTING切換ボタン

登録したSOUND SETTINGの内容を呼び出します。(※ 100ページ)
ソースOFFのときに長く押すと、デモモードをON/OFFします。(※ 16ページ)

⑨ リセットボタン (※ 17ページ)

初期状態に戻します。

⑩ イジェクトボタン (※ 31ページ)

ディスク挿入口を開きます。ディスクが挿入されているときは、ディスクを取り出します。
長く押すと、ディスクを取り出さずに、フロントパネルの開閉を行います。

⑪ ジョイスティック

上下左右に操作したり、中心を押すことでさまざまな機能を操作できます。

⑫ DISPボタン

画面表示を切り換えます。
ナビゲーションシステムを接続している場合、「2画面選択メニュー」を表示します。

⑬ TIボタン (※ 148ページ)

交通情報を受信します。

⑭ 一時可倒ボタン (※ 31ページ)

モニターを一時的に水平にします。

⑮ サブディスプレイ (※ 32ページ)

ソースの種類、ソース情報、時刻、DSP設定内容などを表示します。

⑯ 外光センサー (※ 150ページ)

周囲の明るさに合わせて画面の明るさを自動調整するためのセンサーです。

⑰ OPEN/CLOSEボタン (※ 30ページ)

モニターを収納したり、立ち上げたりします。

⑱ BAND/ESCボタン

ラジオやテレビのバンドを切り換えます。
また、メニュー表示中は、メニュー画面を閉じ、ソース画面に戻ることができます。

⑲ ATTボタン (※ 148ページ)

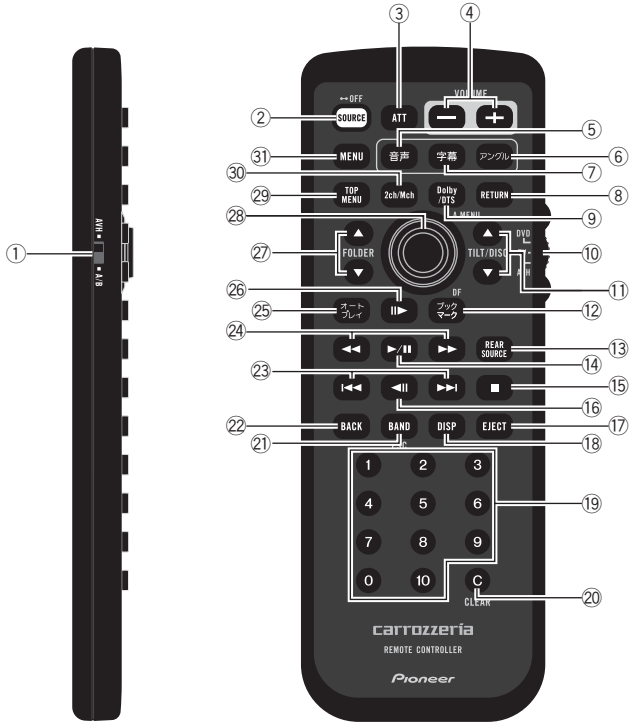
音量を一時的に下げます。








メモ

- ナビゲーションシステムの操作については、ナビゲーションシステムの説明書をご覧ください。

リモコン



- ① リモコンコード切り換えスイッチ
(※ 153ページ)
- ②  (SOURCE) ボタン
- ③  (ATT) ボタン (※ 148ページ)
- ④  (VOLUME) ボタン
(※ 30ページ)
- ⑤  (音声) ボタン
- ⑥  (アングル) ボタン
- ⑦  (字幕) ボタン
- ⑧  (RETURN) ボタン
- ⑨  (Dolby/DTS) ボタン
- ⑩ 操作モード切り換えスイッチ
(※ 19ページ)
- ⑪  (TILT/DISC UP/DOWN)
ボタン
- ⑫  (ブックマーク) ボタン
- ⑬  (REAR SOURCE) ボタン
- ⑭  (PLAY/PAUSE) ボタン
- ⑮  (STOP) ボタン
- ⑯  (STEP REVERSE) ボタン
- ⑰  (EJECT) ボタン
- ⑱  (DISPLAY) ボタン
- ⑲ ① ~ ⑩ (数字) ボタン
- ⑳  (CLEAR) ボタン
- ㉑  (BAND) ボタン
- ㉒  (BACK) ボタン
- ㉓  (SKIP) ボタン
- ㉔  (FF/REV) ボタン
- ㉕  (オートプレイ) ボタン
- ㉖  (STEP FORWARD) ボタン
- ㉗  (FOLDER UP/DOWN)
ボタン
- ㉘ ジョイスティック
- ㉙  (TOP MENU) ボタン
- ㉚  (2ch/Mch) ボタン
- ㉛  (MENU) ボタン

フロントパネルの 取り外しかた／取り付けかた

盗難抑制のため、フロントパネルを取り外すことができます（デタッチャブル機構）。

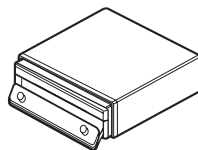
フロントパネル取り扱い上のご注意

- フロントパネルを無理に引いて取り外さないでください。
- 取り外し、取り付けの際に、サブディスプレイやボタンを強く持たないでください。
- 落とす、ぶつけるなどの強い衝撃を与えないでください。故障することがあります。
- 分解しないでください。
- ベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。
- 汚れたときは、きれいな乾いた布でふいてください。その場合に、フロントパネルおよび本体の端子部を触らないようにしてください。接触不良の原因となることがあります。
- フロントパネルを開けた状態では、フロントパネルは外れやすくなっています。本機のボタン操作を行うときは、フロントパネルを閉じた状態で行うことをおすすめします。

フロントパネルを取り外す

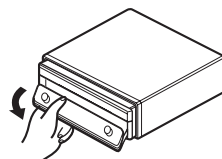
1 【イジェクト】 ボタンを長く押す

フロントパネルが開きます。



2 フロントパネルの左側か右側を持って、手前に引く

フロントパネルを取り外します。



- 数秒後に中ボタンが自動的に閉まります。このとき、指などを挟み込まないように注意してください。

3 付属のフロントパネル保管ケースにフロントパネルを入れる

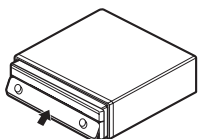
フロントパネルを保管します。

フロントパネルを取り付ける

1 中ボタンが閉まっていることを確認する

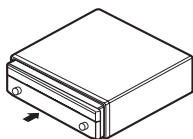
2 フロントパネルの上部を合わせる

図のように、フロントパネルの上部と本体を合わせます。



3 フロントパネルを押しつける

フロントパネルの下部を本体に押しつけます。図を参考に、取り付けてください。



メモ

・次のようなときは、フロントパネルを開けたあと、フロントパネルを取り付け直してください。

- ・ディスプレイに何も表示されない
- ・ビープ音が鳴る

フロントパネルを固定する

フロントパネルを取り外す必要のない場合は、付属の固定ネジでフロントパネルを固定してください。

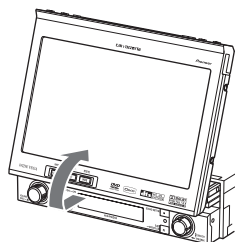
メモ

- ・固定方法については、取付説明書をご覧ください。

電源のON/OFF

電源ON

エンジンスイッチをACCまたはONにすると本機の電源がONになり、モニターが自動的に立ち上がります。



メモ

- ・モニターの自動開閉 (E37 136ページ) を「マニュアル」に設定していると、モニターは自動で立ち上がりません。【OPEN/CLOSE】ボタンを押して、立ち上げてください。

電源OFF

エンジンスイッチをOFFにすると、本機の電源がOFFになります。モニターは、自動的に収納されます。

メモ

- ・モニターの自動開閉 (E37 136ページ) を「マニュアル」に設定していると、モニターは自動で収納されません。【OPEN/CLOSE】ボタンを押して、モニターを収納してから、エンジンスイッチをOFFにしてください。

情報プレートのみかた

電源を入れたときや、ソースを切り換えたときには、画面の上部に情報プレートが表示されます。

情報プレート



情報プレートの左端には現在選択しているソースのアイコンが表示されます。また、ソースアイコンの右側には、選択したソースに応じて、再生時間やチャンネルなどのさまざまな情報が表示されます。表示される内容のうち、タイトル切り換えができるものは、**情報** にタッチして操作します。

【DISP】ボタン、またはリモコンの【DISP】ボタンを押すと、情報プレートの表示/非表示を切り換えることができます。

【DISP】ボタン、またはリモコンの【DISP】ボタンを押して情報プレートを表示した場合は、情報プレートは自動では消えませんが、情報プレートを消すときは、【DISP】ボタン、またはリモコンの【DISP】ボタンを押してください。

- ・ソースを切り換えると、自動的に情報プレートを表示します。この場合、約8秒間何も操作しないと、情報プレートは自動で消えます。

タッチキーの基本操作

タッチキーを表示する

1 画面にタッチする

タッチキーが表示されます。
表示されるタッチキーは、選んでいるソースやモードによって異なります。
(例：CDを再生している場合)



2 操作したい機能のタッチキーにタッチする

例：▶|| にタッチすると、ディスクを再生（または一時停止）します。

3 操作が終わったら、ビューにタッチする

タッチキーが画面から消えます。



メモ

- テレビやDVDビデオ、ビデオCDなどの映像ソースでは、タッチキーは約30秒後に自動的に消えます。

ソースのON/OFF

ソースON

エンジンスイッチをONにすると、前回使用していたソースがONになります。

前回ソースOFFで、エンジンスイッチをOFFにした場合は、再びエンジンスイッチをONにしたとき、ソースはOFFのままとなります。ソースをONにするには、以下の方法があります。

■ タッチキーで、ソースをONにする／ソースを選ぶ

1 ソースアイコンにタッチする

ソースメニューが表示されます。



2 ソースを選んでタッチする

選んだソースがONになります。

メモ

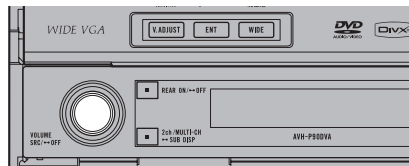
- 内蔵プレーヤーにディスクを挿入すると、挿入されたディスクを自動判別して、ディスクに対応したソースになります。
- ディスクの自動再生 (※ 142ページ) を「OFF」に設定している場合、ディスクを挿入しても自動的に内蔵プレーヤーには切り換わりません。
- DVD** は内蔵プレーヤーを示すタッチキーです。ディスクやメディアの種別 (DVDビデオ、DVDオーディオ、ビデオCD、CD、ROM-Audio、DivX、JPEG) にかかわらず、内蔵プレーヤーをソースとして選ぶときは、**DVD** にタッチします。

「AVIC-H009」を組み合わせている場合

ナビゲーションユニットのソース (「N-DVD」、「MSV」) を選ぶと、ナビゲーションユニットのタッチキー表示に切り換わります。ナビゲーションユニットのソース画面を表示中は、ナビゲーションのソースアイコンにタッチすると、本機のソースメニューを表示することができます。

■ ボタンで、ソースをONにする / ソースを選ぶ

1 【SRC】 ボタンを押す



ボタンを押すたびに、ソースが以下のように切り換わります。

- FM (FMラジオ) → AM (AMラジオ)
- TELEVISION (テレビ)
- DTV (地上デジタルテレビ: 別売)
- AV1 (AVソース: 別売)
- AV2 (AVソース: 別売)
- DVD (内蔵プレーヤー)
- SOURCE DVD (DVD: 別売)
- MULTI CD (マルチCD: 別売)
- iPod (iPod: 別売)
- EXTERNAL
- (エクスターナルユニット1: 別売)
- EXTERNAL
- (エクスターナルユニット2: 別売)
- AUX1 (外部機器: 別売)
- AUX2 (外部機器: 別売)
- N-DVD (ナビゲーションユニットのプレーヤー: 別売)
- MSV (ナビゲーションユニットのミュージックサーバー: 別売)
- Telephone (携帯電話: 別売)
- BT Audio
- (Bluetoothオーディオ: 別売)

メモ

- リモコンの **[MEMO]** ボタンでも、操作できます。
- 内蔵プレーヤーにディスクがセットされていないときは、内蔵プレーヤーには切り換わりません。
- 接続していないソースには切り換わりません。
- AV入力を設定 (※ **135ページ**) しないと、AVには切り換わりません。
- 外部機器の設定 (※ **140ページ**) をしないと、AUXには切り換わりません。
- 本機の青リード線 (オートアンテナ) に車側のオートアンテナコントロール端子を接続している場合、ソースをラジオにすると車に装備されているオートアンテナがのびます。
- エクスターナルユニットとは、本機がソースとして対応していないパイオニア製品 (将来発売される製品など) の基本的な機能をコントロールできるように用意している特別なソースです。本機では、2台のエクスターナルユニットをコントロールすることができますが、エクスターナルユニット1、エクスターナルユニット2のどちらに切り換えても“EXTERNAL”が表示されます。2台のエクスターナルユニットを接続した場合、本機によって、エクスターナルユニット1、エクスターナルユニット2が自動的に設定されます。
- “N-DVD”とは、ナビゲーションユニットのDVDソースのことで、“MSV”とは、ナビゲーションユニットのミュージックサーバーソースのことで、接続したナビゲーションユニットにそれぞれのソースがある場合に、切り換えることができます。

ソースOFF

ソースをOFFにするには、以下の方法があります。

■ タッチキーで、ソースをOFFにする

1 ソースアイコンにタッチする

ソースメニューが表示されます。



2 OFFにタッチする

ソースがOFFになります。

■ ボタンで、ソースをOFFにする

1 [SRC] ボタンを長く押す

ソースがOFFになります。



メモ

- リモコンの **[MEMO]** ボタンでも、操作できます。
- モニターは立ち上がったまま、情報プレートに“OFF”が表示されます。
- ソースをOFFにしても、本機の電源はOFFにはなりません。

音量を調節する

1 【VOLUME】を回す

0~40の範囲で調節できます。



メモ

- リモコンの(+) / (-) (VOLUME) ボタンでも操作できます。

モニターの操作

モニターの収納

【OPEN / CLOSE】ボタンを押すと、モニターを収納できます。

メモ

- モニターが完全に収納されたことを確認してください。モニターが途中で止まってしまった場合、【OPEN / CLOSE】ボタンを押して必ず収納してください。(そのまま放置しないでください。故障することがあります。)

モニターの角度調節

車外からの光が画面に反射しているときなどは、見やすくなるようにモニターの角度を調節できます。

ご注意

- 角度調節は、手で行わないでください。モニターに強い力が加わると、故障することがあります。



1 画面にタッチする

タッチキーが表示されます。

2 画面左下のTILT / にタッチする

モニターの角度が調整できます。

メモ

- ・リモコンの ▲ / ▼ (TILT/DISC UP/DOWN) ボタンでも操作できます。

モニターを一時的に手前に倒す

モニターの背後にあるスイッチを操作したいときなどは、【一時可倒】ボタンを押します。【一時可倒】ボタンを押すと、モニターを一時的に手前に倒すことができます。

ボタンを押すとモニターが一時的に手前に倒れ、約10秒後に自動的に元に戻ります。(約3秒前になると“ピッピッ”と鳴り、カウントダウンが始まります。)

メモ

- ・モニターは、自動開閉機能により次のように動作します。
 - ・エンジンスイッチをON (またはACC) にすると、自動的にモニターが立ち上がります。車のエンジンスイッチをOFFにすると、OFFにしてから約6秒後にモニターが本体に収納されます。
 - ・自動開閉機能 (※ 136ページ) を、OFF にすることもできます。
- ・【OPEN/CLOSE】ボタンを押してモニターを収納してから、車のエンジンスイッチをOFFにしたときは、再びエンジンスイッチをON (またはACC) にしても、モニターは立ち上がりません。【OPEN/CLOSE】ボタンを押して立ち上げてください。
- ・モニターが車のコンソールやダッシュボードに当たる場合は、TILT [] にタッチしてモニターを手前に調節してください。
- ・立ち上がったモニターを後ろに下げることができます。(※ 136ページ)
- ・モニターの角度を調節すると、次回から調節した角度でモニターが立ち上がります。



指のケガに
注意

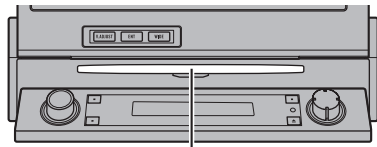
モニターの立ち上げや収納、角度調節時に手や指を挟まないようにご注意ください。特にお子さまなどご注意ください。ケガの原因となることがあります。

ディスクの出し入れ

ディスクの入れかた

1 【イジェクト】ボタンを押す

ディスク挿入口が開きます。



ディスク挿入口

2 タイトル面を上にして、ディスクをディスク挿入口に差し込む

挿入されたディスクの種類を自動判別して、再生が始まります。

ご注意

- ・8cmディスクもアダプターなしでセットできます。アダプターは絶対に使用しないでください。
- ・ディスク挿入口には、本機に対応したディスク以外のものを絶対に入れないでください。故障の原因となります。

メモ

- ・ディスクの自動再生 (※ 142ページ) をOFFに設定していると、ディスクを挿入しても自動的に内蔵プレーヤーには切り換わりません。手でソースを内蔵プレーヤーに切り換えてください。(※ 27ページ)

ディスクの取り出しかた

【イジェクト】ボタンを押すと、ディスクが出てきます。

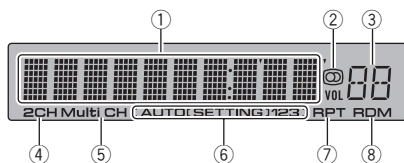
メモ

- ・リモコンの (EJECT) ボタンでも操作できます。
- ・取り出したディスクは、ケース等に入れて保管してください。

本機のサブディスプレイについて

サブディスプレイに表示される情報

本機のサブディスプレイには、下記のような情報が表示されます。



① メイン表示エリア

各ソースごとの情報を表示します。また、時計も表示します。ソースごとの情報は次のとおりです。

FM/AM/TV

現在選択しているバンドと周波数を表示します。

内蔵プレーヤー

現在再生しているメディアを表示します。また、再生しているメディアに応じて、タイトル番号・チャプター番号・グループ番号・トラック番号・フォルダー番号・ファイル番号などの情報や、再生経過時間を表示します。

② ステレオ/音声多重表示

現在受信中のラジオやテレビ、地上デジタルテレビ放送をステレオで受信しているときに「∞」と表示します。

また、地上デジタルTV放送のサラウンド放送を受信しているときも表示します。

現在受信中の放送が音声多重のときには、「∞」の周りの枠も表示して、音声多重放送であることを知らせます。

③ ボリューム

音量を表示します。

④ 2CH

チャンネルモードを表示します。

2チャンネルモードで使用しているときに表示します。

⑤ Multi CH

チャンネルモードを表示します。

マルチチャンネルモードで使用しているときに表示します。

⑥ [AUTO [SETTING] 123]

SOUND SETTINGのセッティングモードを表示します。オートTA&EQで設定したセッティングモードを使用しているときは、AUTO SETTINGと表示します。

お好みに合わせて調整し、登録したセッティングモード (SETTING1~3) を使用しているときは、SETTING1、SETTING2、またはSETTING3と表示します。

⑦ RPT表示

リピート再生を行っているときに表示します。

⑧ RDM表示

ランダム再生を行っているときに表示します。

サブディスプレイの表示を 切り換える

サブディスプレイのメイン表示エリアに表示される情報は、切り換えることができます。

1 **[2ch/MULTI-CH] ボタンを 長く押す**

長く押すたびに、表示内容が次のように切り換わります。

ソース情報表示 → 時計表示 → 表示OFF

基本的な操作

FMラジオ／AMラジオ

FM
AM

基本的なFM/AMラジオ画面の見かた

FM/AMラジオを聞くときの画面には、以下のような情報が表示されます。



リモコンでの基本的な操作








リモコンによるFM/AMラジオの操作は、AVHモードで行います。

FM/AMラジオの基本操作には、以下のボタンを使用します。



タッチキーでの基本的な操作

FM/AMラジオの基本操作には、以下のタッチキーを使用します。

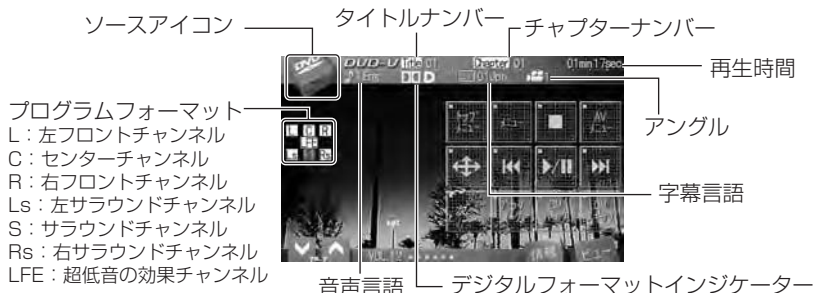
	<p>バンドを切り換える タッチするたびに、バンドが切り換わります。 BAND1 → BAND2</p>
	<p>周波数による選局をする 短く押す：手動選局 長く押す：自動選局</p>
	<p>周波数による選局をする 短く押す：手動選局 長く押す：自動選局</p>
	<p>プリセットチャンネルリスト 非表示時： 前のプリセットチャンネルを選局する</p>
	<p>プリセットチャンネルリスト 非表示時： 次のプリセットチャンネルを選局する</p>
	<p>プリセットチャンネルリストの表示/非表示を切り換える</p>
	<p>メインメニューを表示する (☞ 68ページ)</p>

DVDビデオ

DVD
S-DVD

基本的なDVDビデオ画面の見かた

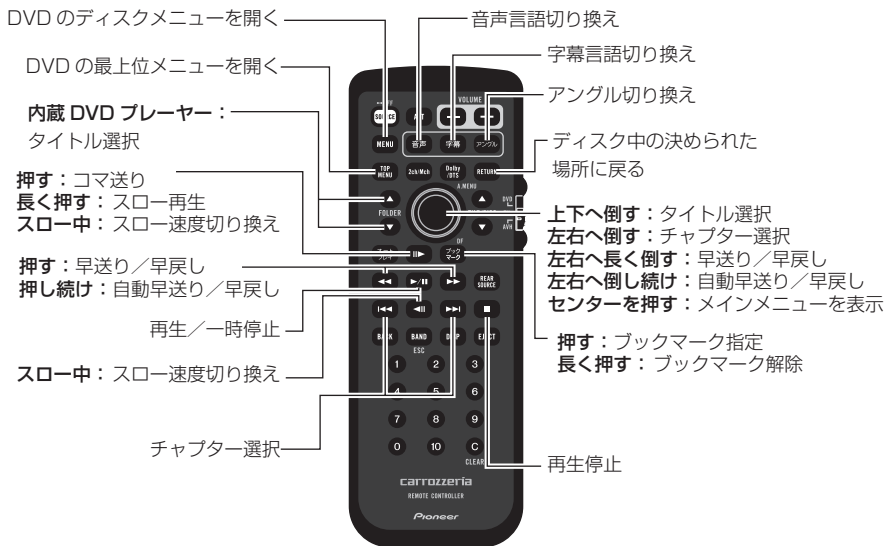
DVDビデオを見るときの画面には、以下のような情報が表示されます。



リモコンでの基本的な操作

リモコンによるDVDビデオの操作は、AVHモードで行います。



DVDビデオの基本操作には、以下のボタンを使用します。



タッチキーでの基本的な操作

DVDビデオの基本操作には、以下のタッチキーを使用します。

	DVDの最上位メニューを表示する (☞ 57ページ)
	DVDのディスクメニューを表示する (☞ 57ページ)
	ディスクの再生を停止する
	メインメニューを表示する (☞ 68ページ)
	再生を一時停止する 停止／一時停止中にタッチすると、再生を開始します。
	ディスクメニュー用タッチキーを呼び出す (☞ 57ページ)
	タッチキーを切り換える
	タッチキーを切り換える
	ブックマーク指定・解除する (☞ 60ページ)
	CMを自動的にスキップする (☞ 58ページ)
	CMを自動的にスキップする (☞ 58ページ)
	タイトル／チャプター指定画面を表示する (☞ 60ページ)
	情報プレートの表示内容を切り換える (☞ 54ページ)

	タッチ：チャプターを進める 長くタッチ：早送りをする
	5秒以上タッチし続けると、自動で早送りを行います。通常再生に戻るには、  にタッチしてください。
	タッチ：チャプターを戻す 長くタッチ：早戻しをする
	5秒以上タッチし続けると、自動で早戻しを行います。通常再生に戻るには、  にタッチしてください。
	次タイトルを選ぶ
	前タイトルを選ぶ
	コマ送り再生／スロー再生をする (☞ 56ページ)
	オートプレイ設定を切り換える (☞ 58ページ)
	音声言語を切り換える (☞ 58ページ)
	字幕言語を切り換える (☞ 59ページ)
	アングルを切り換える (☞ 59ページ)
	ディスク中の、決められた場面に戻る
	マルチDVD : ディスクリストを表示する (☞ 55ページ)

DVDオーディオ

DVD

基本的なDVDオーディオ画面の見かた

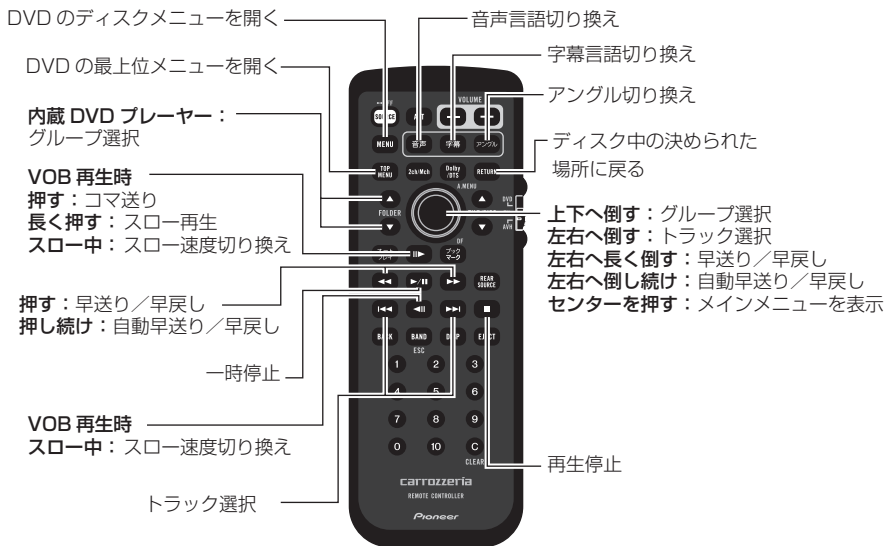
DVDオーディオを聞くときの画面には、以下のような情報が表示されます。



リモコンでの基本的な操作

リモコンによるDVDオーディオの操作は、AVHモードで行います。

DVDオーディオの基本操作には、以下のボタンを使用します。



タッチキーでの基本的な操作

DVDオーディオの基本操作には、以下のタッチキーを使用します。

	ディスクメニュー用 タッチキーを呼び出す (☞ 57ページ)		音声言語を切り換える (☞ 58ページ)
	DVDの最上位メニューを 表示する (☞ 57ページ)		字幕言語を切り換える (☞ 59ページ)
	DVDのディスクメニューを 表示する (☞ 57ページ)		アングルを切り換える (☞ 59ページ)
	ディスクの再生を停止する		静止画コントロール画面に 切り換える (☞ 56ページ)
	メインメニューを表示する (☞ 68ページ)		グループ/トラック指定画面を 表示する (☞ 60ページ)
	再生を一時停止する 停止／一時停止中にタッチ すると、再生を開始します。		次のグループを選ぶ
	タッチキーを切り換える		前のグループを選ぶ
	タッチキーを切り換える		コマ送り再生／スロー再生をする (☞ 56ページ)
	タッチ：トラックを進める 長くタッチ：早送りをする		ディスク中の、決められた場面に 戻る
5秒以上タッチし続けると、自動で早送りを 行います。通常再生に戻るには、  にタッチし てください。			情報プレートの表示内容を 切り換える (☞ 54ページ)
	タッチ：トラックを戻す 長くタッチ：早戻しをする		
5秒以上タッチし続けると、自動で早戻しを行 います。通常再生に戻るには、  にタッチし てください。			

ビデオCD、CD、ROM-Audio、DivX®、JPEG



基本的な画面の見かた (例：CD)

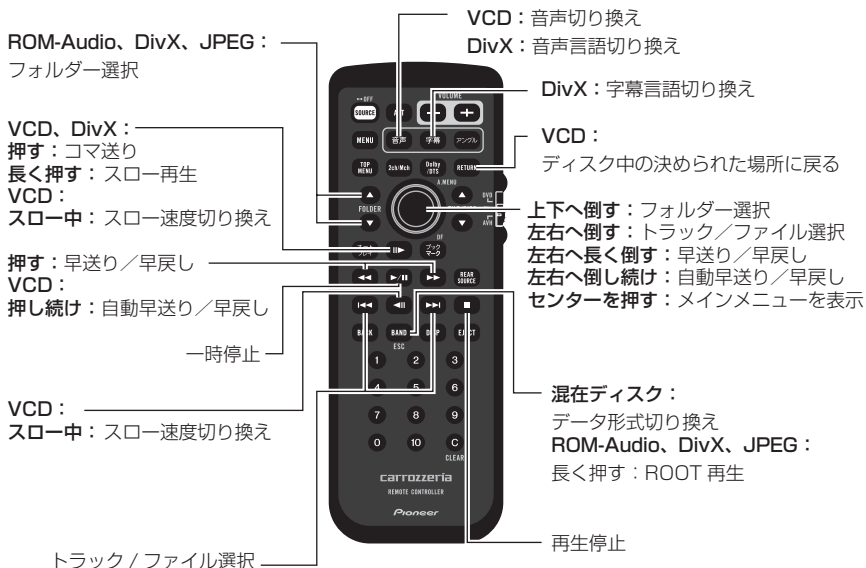
画面には、以下のような情報が表示されます。



リモコンでの基本的な操作


リモコンによる操作は、AVHモードで行います。

基本操作には、以下のボタンを使用します。





タッチキーでの基本的な操作


ビデオCD、CD、ROM-Audio (WMA/MP3/AAC)、DivX、JPEGのそれぞれのソースでの基本操作には、以下のタッチキーを使用します。

 **ビデオCD**
トラック/時間指定画面を表示する
(※ 60ページ)


 **DivX**
時間指定画面を表示する
(※ 60ページ)

 ディスクの再生を停止する

 **メインメニューを表示する**
(※ 68ページ)

 再生を一時停止する
一時停止中にタッチすると、再生を開始します。


 **ビデオCD、CD、ROM-Audio、DivX :**
タッチ: トラックを進める
長くタッチ: 早送りをする


5秒以上タッチし続けると、自動で早送りを行います。通常再生に戻るには、 にタッチしてください。


JPEG :
タッチ: ファイルを進める

 **ビデオCD、CD、ROM-Audio、DivX :**
タッチ: トラックを戻す
長くタッチ: 早戻しをする
5秒以上タッチし続けると、自動で早戻しを行います。通常再生に戻るには、 にタッチしてください。

JPEG :
タッチ: ファイルを戻す

 **ビデオCD :**
ディスク中の、決められた場面に戻る

 **ビデオCD、DivX :**
コマ送り再生/スロー再生をする
(※ 56ページ)


 **CD、ROM-Audio、DivX、JPEG :**
トラック (ファイル) リストを表示する
(※ 55ページ)

 **DivX :**
字幕言語を切り換える
(※ 59ページ)


 **DivX :**
音声言語を切り換える
(※ 58ページ)


 **ROM-Audio、DivX、JPEG :**
次のフォルダを選ぶ


 **ROM-Audio、DivX、JPEG :**
前のフォルダを選ぶ

 **混在ディスク :**
データ形式を切り換える

1枚のディスクに、音楽CD (CD-DA) やデータ (ROM-Audio、DivX、JPEG) などが混在している場合にタッチすると、切り換えることができます。

 **ROM-Audio :**
再生中のファイルの詳細情報を表示する

 **JPEG :**
画像を回転させる
タッチするごとに、時計回りに90度ずつ回転します
情報プレートの表示内容を

 切り換える
(※ 54ページ)

テレビ

TV

基本的なテレビ画面の見かた

テレビを見るとき画面には、以下のような情報が表示されます。



リモコンでの基本的な操作








リモコンによるテレビの操作は、AVHモードで行います。

テレビの基本操作には、以下のボタンを使用します。



タッチキーでの基本的な操作

テレビの基本操作には、以下のタッチキーを使用します。

	<p>バンドを切り換える タッチするたびに、バンドが切り換わります。 BAND1 → BAND2</p>
	<p>チャンネル番号による選局をする タッチ：手動選局 長くタッチ：自動選局</p>
	<p>チャンネル番号による選局をする タッチ：手動選局 長くタッチ：自動選局</p>
	<p>プリセットチャンネルリスト 非表示時： 前のプリセットチャンネルを選局する</p>
	<p>プリセットチャンネルリスト 非表示時： 次のプリセットチャンネルを選局する</p>
	<p>プリセットチャンネルリストの表示／非表示を切り換える</p>
	<p>メインメニューを表示する (☞ 68ページ)</p>

マルチCD (別売)

M-CD

基本的なマルチCD画面の見かた

マルチCDを操作するときの画面には、以下のような情報が表示されます。



ディスクタイトル
ディスクタイトルが入力されているときだけ表示されます。

リモコンでの基本的な操作

リモコンによるマルチCDの操作は、AVHモードで行います。

マルチCDの基本操作には、以下のボタンを使用します。



タッチキーでの基本的な操作

マルチCDの基本操作には、以下のタッチキーを使用します。

	メインメニューを表示する (<small>☞</small> 68ページ)
	再生を一時停止する 一時停止中にタッチすると、再生を開始します。
	タッチ：トラックを進める 長くタッチ：早送りをする
	タッチ：トラックを戻す 長くタッチ：早戻しをする
	次のディスクを選ぶ
	前のディスクを選ぶ
	リストを表示する (<small>☞</small> 55ページ)
	情報プレートの表示内容を切り換える (<small>☞</small> 54ページ)

iPod (別売)

iPod

基本的なiPod画面の見かた

iPodを聞くときの画面には、以下のような情報が表示されます。



リモコンでの基本的な操作

リモコンによるiPodの操作は、AVHモードで行います。

iPodの基本操作には、以下のボタンを使用します。



左右へ倒す：トラック選択
左右へ長く倒す：早送り／早戻し

タッチキーでの基本的な操作

iPodの基本操作には、以下のタッチキーを使用します。

	曲を探す (<small>※</small> 62ページ)
	メインメニューを表示する (<small>※</small> 68ページ)
	再生を一時停止する 一時停止中にタッチすると、再生を開始します。
	タッチ：曲を進める 長くタッチ：早送りをする
	タッチ：曲を戻す 長くタッチ：早戻しをする
	再生中の曲の詳細情報の表示／非表示を切り換える
	リピート再生する範囲を切り換える
タッチすることにより、リピートの範囲が切り換わります。	
REPEAT ONE → REPEAT ALL	
	シャッフル再生する範囲を切り換える
タッチすることにより、シャッフル再生の範囲が切り換わります。	
OFF → 曲 → アルバム	
	情報プレートの表示内容を切り換える (<small>※</small> 54ページ)

携帯電話・BTオーディオ（別売）

TEL
BT Audio

基本的な画面の見かた（例：携帯電話）

画面には、以下のような情報が表示されます。



リモコンでの基本的な操作

リモコンによる操作は、AVHモードで行います。

基本操作には、以下のボタンを使用します。



携帯電話時：

上へ倒す：

かかってきた電話に出る
電話をかける

下へ倒す：

かかってきた電話を切る
電話を切る

携帯電話／BTオーディオ時：

センターを押す：

メインメニューを表示

携帯電話時：

押す：

プリセットダイヤルの選択



長く押す：

プリセットダイヤルに登録

タッチキーでの基本的な操作

基本操作には、以下のタッチキーを使用します。

	メインメニューを表示する (☎ 68ページ)
	携帯電話： 音声操作で電話をかける (☎ 64ページ)
	携帯電話： 履歴から電話をかける (☎ 67ページ)
	携帯電話： 電話帳から電話をかける (☎ 66ページ)
	携帯電話： かかってきた電話に出る 電話をかける (☎ 65ページ)
	携帯電話： かかってきた電話を切る 電話を切る (☎ 65ページ)
	携帯電話： 電話番号を入力する (☎ 66ページ)
	携帯電話： プリセットダイヤルで電話を かける (☎ 66ページ)
	BT オーディオ： 再生を停止する (AVRCP接続時)
	BT オーディオ： 再生を一時停止する (AVRCP接続時) 一時停止中にタッチすると、 再生を開始します。

	BT オーディオ： (AVRCP接続時) タッチ：トラックを進める 長くタッチ：早送りをする
	BT オーディオ： (AVRCP接続時) タッチ：トラックを戻す 長くタッチ：早戻しをする

ご注意

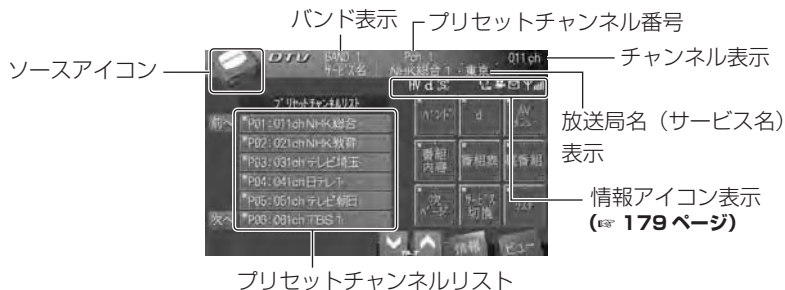
- 走行中は、操作ができない機能があります。操作する場合は、安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけてから行ってください。
- 組み合わせるBluetooth対応機器によっては、操作や動作が異なる場合があります。Bluetooth対応機器の取扱説明書も併せてご覧ください。
- 組み合わせるBluetooth対応機器によって、早送り／早戻し中に音が出る場合と出ない場合があります。

地上デジタルテレビ（別売）

DTV

基本的な地上デジタルテレビ画面の見かた

地上デジタルテレビを見るときには、以下のような情報が表示されます。



リモコンでの基本的な操作

リモコンによる操作は、AVHモードで行います。

基本操作には、以下のボタンを使用します。



タッチキーでの基本的な操作

地上デジタルテレビの基本操作には、以下のタッチキーを使用します。

	バンドを切り換える タッチするたびに、バンドが切り換わります。 BAND1 → BAND2		映像を切り換える (☎ 64ページ)
	データ放送を表示する (☎ 62ページ)		音声を切り換える (☎ 64ページ)
	メインメニューを表示する (☎ 68ページ)		字幕を切り換える (☎ 64ページ)
	番組内容を確認する (☎ 62ページ)		ひとつ前に選局していたチャンネルに戻る
	番組表を確認する (☎ 63ページ)		情報プレートの表示内容を切り換える (☎ 54ページ)
	現在放送中の番組一覧を見る (☎ 63ページ)		ご注意
	ワンセグ放送やデータ放送を見る (☎ 63ページ)		•本機と「GEX-P7DTV」を組み合わせているときは、操作できる機能が異なる場合があります。
	リストを切り換える (☎ 63ページ)		
	タッチキーを切り換える		
	タッチキーを切り換える		

ナビゲーションユニット（別売）

タッチキーでの基本的な操作

ナビゲーションソース再生時の基本操作には、以下のタッチキーを使用します。

ご注意

- ナビゲーションの操作・ミュージックサーバーの操作については、接続したナビゲーションユニットの取扱説明書をご覧ください。
- 本機は、ナビゲーションユニットのタッチキー操作に対応しています。

タッチキー（N-DVD）

ご注意

- エンタテインメントメニュー（※**148ページ**）で、OFF以外を選んでいるときに、タッチキーが表示されます。



メインメニューを表示する
（※**68ページ**）



次のタイトルを選ぶ



前のタイトルを選ぶ



前のチャプターを選ぶ



次のチャプターを選ぶ

タッチキー（ミュージックサーバー）

ご注意

- エンタテインメントメニュー（※**148ページ**）で、OFF以外を選んでいるときに、タッチキーが表示されます。



メインメニューを表示する
（※**68ページ**）



次のプレイリストを選ぶ



前のプレイリストを選ぶ



前のトラックを選ぶ



次のトラックを選ぶ

バンドを切り換える

FM **AM** **TV** **DTV**

バンド で操作します

FM、AM、テレビ、地上デジタルTVのバンドを切り換えます。それぞれ、2つのバンドを持っています。

1 **バンド** にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

BAND1 (バンド1)

→ **BAND2** (バンド2)

メモ

- **BAND** ボタンを押して操作することもできます。
- FM、AMを聞いているときは、バンド1とバンド2を切り換えて使うことで、より多くの放送局を登録できます。例えば、バンド1には、ふだんよく聞く放送局を登録しておきます。旅行など、どんな放送局があるか知らない地域に行ったときに、バンド2に切り換えてベストステーションズメモリー (※ 74 ページ) を行うと便利です。
- テレビや地上デジタルTVを見ているときは、バンド1とバンド2を切り換えて使うことで、より多くのチャンネルを登録できます。例えば、バンド1にはふだん使用する地域のチャンネルを登録しておきます。旅行などで受信チャンネルが異なる地域に移動したときは、バンド2に切り換えてBSSM (※ 75ページ) やチャンネルスキャン (※ 78ページ) を行うと便利です。

放送局を選ぶ

FM **AM** **TV** **DTV**

リスト **←** **→** で操作します

放送局やチャンネルの選局は、プリセットチャンネル選局、マニュアル選局があります。

プリセットチャンネルについて

プリセットチャンネルとは、本機に登録されている放送局です。FM、AMラジオでは、バンドごとにそれぞれ6局まで登録できます。テレビ、地上デジタルテレビでは、バンドごとにそれぞれ12局まで登録できます。

プリセットチャンネル選局

1 **P1** : ~ **P6** : の中から希望の放送局やチャンネルにタッチする

選んだ放送局やチャンネルを受信します。

メモ





- プリセットチャンネルリストは、**リスト** にタッチするたびに表示/非表示が切り換わります。
- プリセットチャンネルリストを表示していないときは、**↑** / **↓** にタッチすると、プリセットチャンネル選局ができます。
- テレビを受信しているときは、**次へ** にタッチすると **P07** ~ **P12** に切り換えることができます。
P01 ~ **P06** に戻るときは、**前へ** にタッチします。
- 数字ボタン① ~ ⑥を押して選局することもできます。ただし、テレビを受信している場合、**P07** ~ **P12** は選ぶことができません。
- ジョイスティックを上下に操作して選ぶこともできます。

マニュアル選局

1 / にタッチする

周波数やチャンネルが切り換わります。

メモ

- ジョイスティックを左右に操作して選ぶこともできます。
-  /  にタッチし続けるか、ジョイスティックを左右に長く操作してから離すと、シーク（自動選局）モードになります。
- 地上デジタルテレビを操作しているときは、 /  タッチキーでの操作はできません。ジョイスティックで操作してください。

プリセットチャンネル

リストへ登録する

FM **AM** **TV** **DTV**

   で操作します

FM、AMではバンドごとに6局ずつ、テレビ、地上デジタルTVではバンドごとに12局ずつ登録できます。この機能では、お好みの放送局をお好みの順番で登録できます。

1 **バンド** にタッチして、登録したいバンドを選ぶ

- リストが表示されていない場合は、**リスト** にタッチしてリストを表示します。



2 / にタッチして、登録したい放送局を受信する

3 登録したいリストの番号に長く（約2秒）タッチする

選んだ番号に放送局名（または周波数）が表示され、登録が完了します。

- テレビを受信している場合は、**次へ** / **前へ** にタッチして、表示を切り換えることができます。

メモ

- 続けて登録できます。
- 数字ボタン①～⑥を長く（約2秒）押すことでも登録できます。
- 地上デジタルテレビを操作しているときは、 /  タッチキーでの操作はできません。ジョイスティックで操作してください。

情報プレートの表示内容を切り換える

DVD **M-CD** **S-DVD**
iPod **DTV**

DVD-V	DVD-A	CD
ROM-Audio	DivX®	JPEG

 で操作します

情報プレートの表示内容を切り換えることができます。ディスクに収録されている文字情報や、音声・字幕・アングルの情報などを見ることができます。

メモ

- 本機はカナやアルファベットなどの表示だけではなく、ひらがなや漢字などの表示にも対応しています。「CD TEXT」などに漢字などの文字情報が収録されている場合でも、本機ではそのまま表示できます。

1 **情報** にタッチする

タッチするごとに、情報プレートに表示される内容が切り換わります。

DVDビデオ	音声・字幕・アングル
DVDオーディオ	→ 再生範囲表示
[CD-TEXT]	ディスク名 → ディスクアーティスト名 → トラック名 → トラックアーティスト名
WMA	フォルダ名
MP3	→ ファイル名
AAC	→ アルバム名 (WMA/MP3時のみ) → トラック名 → アーティスト名
JPEG	フォルダ名
DivX	→ ファイル名
iPod	曲名 → アーティスト名 → アルバム名
DTV	サービス名 → 番組名 → 放送事業者名 → 映像・音声・字幕

 **メモ**

- 文字情報が入力されていない場合は、「No XXXX (例: No Title)」と表示されます。

2 再生したい項目にタッチする



選んだ曲／ディスク／ファイルの再生が始まります。

- フォルダ名にタッチすると、そのフォルダ内のファイル名のリスト表示になります。
- マルチCDプレーヤーで「CD TEXT」を再生している場合、そのディスクにタッチすると、ディスク内の曲名リスト表示になります。

 **メモ**

- 再生中のディスク（フォルダー）に6ファイル（フォルダー）以上収録されている場合、**次へ**／**前へ**にタッチして、表示を切り換えることができます。
- **↑**にタッチすると、ひとつ上の階層に戻ります。

リストから選んで再生する

DVD **M-CD** **S-DVD**

CD	ROM-Audio
DivX®	JPEG

リストで操作します

ファイル名（曲名／ディスク名）のリストから、聞きたいファイルを選んで再生できます。

1 リストにタッチする

リストが表示されます。

静止画を切り換える

DVD

DVD-A

静止画 で操作します

DVDオーディオに静止画（ブラウザブル静止画）が複数収録されている場合、静止画を切り換えることができます。

1 **静止画** にタッチする

ブラウザブル静止画用タッチキーが表示されます。



2 **PAGE+** / **PAGE-** にタッチする

ブラウザブル静止画が切り換わります。
HOME にタッチすると、一番はじめの静止画に戻ります。

コマ送り／スロー再生する

DVD S-DVD

DVD-V

DVD-A

Video CD


DivX®

  で操作します

コマ送り再生

1 にタッチする

タッチするたびに、映像がコマ送りされます。

 にタッチすると、通常再生に戻ります。


メモ


- DVDオーディオのブラウザブル静止画を再生しているときは、静止画のコマ送りができます。

スロー再生





1 再生中に “▶” が表示されるまで にタッチし続ける

映像がスロー再生されます。

スロー再生中に  にタッチすると、スロー再生の速度を4段階（1/16 → 1/8 → 1/4 → 1/2）で切り換えることができます。

 にタッチすると、通常再生に戻ります。

メモ

-  /  ボタンでも同様の操作ができます。
- DivX再生中は、リモコンの  ボタンでのみスロー再生が操作できます。タッチキーは表示されません。
- DivX再生中は、スロー再生の速度を切り換えることはできません。
- コマ送り／スロー再生中は、音声を聞くことはできません。
- DVDオーディオでは、映像が記録されているトラックのみ、コマ送りやスロー再生ができます。
- ディスクまたは再生位置によっては、（禁止マーク）が表示され、コマ送り／スロー再生ができない場合があります。
- ディスクによっては、コマ送り／スロー再生中の映像が乱れる場合があります。
- コマ戻しと戻り方向のスロー再生はできません。

DVDディスクのディスクメニューを操作する



DVDディスクのディスクメニューを操作できます。

ディスクメニュー用タッチキーを使った操作

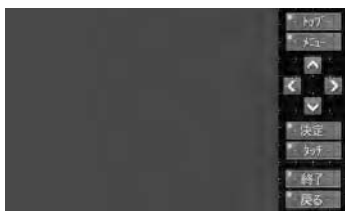
1 **トップメニュー**または**メニュー**にタッチする

ディスクメニューが表示されます。

⇄ にタッチして、ディスクメニュー用タッチキーを表示させることもできます。この場合は、手順3から操作してください。

2 **⇄** にタッチする

ディスクメニュー用タッチキーが表示されます。



トップ または **メニュー** にタッチすると、再生を再開します。

タッチ または **終了** にタッチすると、ディスクメニュー用タッチキーが消え、DVDメニューダイレクトタッチ操作に切り換わります。

3 **▲/▼/◀/▶** にタッチして、**メニュー**を操作する

4 **決定** にタッチする

選択したメニューから再生されます。

5 **戻る** にタッチする

ディスクメニュー用タッチキーが画面から消えます。

DVDメニューダイレクトタッチ機能を使った操作

1 **トップメニュー**または**メニュー**にタッチする

ディスクメニューが表示されます。

2 再生したい項目に直接タッチして、**メニュー**を操作する (DVDメニューダイレクトタッチ機能)

⇄ にタッチすると、ディスクメニュー用タッチキーが表示されます。DVDメニューダイレクトタッチ機能では操作しにくい場合は、ディスクメニュー用タッチキーで操作してください。

- ディスクやコンテンツによっては、DVDメニューダイレクトタッチ機能に対応していないものもあります。

メモ

- **(TOP/MENU)** ボタンや **(MENU)** ボタンを押して、ディスクメニューを表示することもできます。
- ジョイスティックを上下左右に操作してメニューを選択することもできます。また、ジョイスティックの中心を押すことで、選択したメニューから再生することもできます。(この場合、リモコンの操作モードをDVDモードにします。[*] 19ページ)
- ディスクによっては、ディスクメニューのないものや、表示されない場合もあります。
- メニュー表示や操作方法は、ディスクによって異なります。

CMを飛ばして再生する

DVD

DVD-V



で操作します

再生中の映像を、一定の秒数だけスキップします。CMなどを飛ばして再生するときなどに便利です。

1 **CMスキップ** / **CMバック** にタッチする

タッチするごとに、次のような秒数でスキップされます。

CMスキップ	「30秒」 → 「1分」 → 「1分30秒」 → 「2分」 → 「3分」 → 「5分」 → 「10分」 → 「0秒」
---------------	--

CMバック	「5秒」 → 「15秒」 → 「30秒」 → 「1分」 → 「2分」 → 「3分」 → 「0秒」
--------------	---

オートプレイを設定する

DVD

DVD-V



で操作します

DVDディスク挿入と同時に、数字の若いタイトルから自動的に再生を開始するかどうかを設定します。

1 **オートプレイ** にタッチする

タッチするごとに、オートプレイのON/OFFが切り換わります。

メモ

- (Ⓜ) ボタンでも同様の操作ができます。
- ディスクによっては、オートプレイをONにしても、期待通りの動作ができない場合があります。このような場合は、オートプレイをOFFにしてください。
- オートプレイがONのときは、リピート再生 (※ 72ページ) できません。

再生中に音声や言語を切り換える

DVD S-DVD

DVD-V

DVD-A

DivX®



で操作します

再生中に言語や音声タイプ（ドルビーデジタルやDTSなど）を切り換えることができます。

1 再生中に**音声切替**にタッチする

タッチするたびに、音声切り換わります。

メモ

- (Ⓜ) ボタンでも同様の操作ができます。
- この機能は、音声複数収録されている場合だけ操作できます。
- ディスクのパッケージにあるⓂ マークの数字が音声の収録数です。
- ディスクによっては、収録されているディスクメニューでしか切り換えることができない場合があります。
- デジタルフォーマットインジケータやプログラムフォーマットの表示は、DVDに収録されている音声を表示しています。実際に再生される音声は、設定により表示とは異なる場合があります。
- DivXファイル再生時に音声切り換えを行うと、再生が一時停止されます。
- DivXファイル再生中に音声切り換えを行い、その後ファイルを切り換えると、音声は切り換える前の状態に戻ります。
- 音声言語の設定は、DVD設定でも行うことができます。(※ 127ページ)

再生中に字幕言語を切り換える

DVD S-DVD

DVD-V

DVD-A

DivX®

字幕
切替

で操作します

字幕言語が複数収録されているディスクの場合、再生中に字幕を切り換えることができます。

1 再生中に字幕切替にタッチする

タッチするたびに、字幕言語が切り換わります。



メモ

- (字幕) ボタンでも同様の操作ができます。
- この機能は、字幕が複数収録されている場合だけ操作できます。
- ディスクのパッケージにある (字幕) マークの数字が字幕の収録数です。
- ディスクによっては、ディスクメニューでしか切り換えることができない場合があります。
- DivXファイル再生中に字幕切り換えを行い、その後ファイルを切り換えると、字幕は切り換える前の状態に戻ります。
- DivXファイル再生中に字幕を切り換えると、字幕が表示されるまでに時間がかかることがあります。
- 字幕言語の設定は、DVD設定でも行うことができます。(参照 126ページ)

再生中にアングルを切り換える

DVD S-DVD

DVD-V

DVD-A

アングル
切替

で操作します

アングルが複数収録されているディスクの場合、再生中にアングルを切り換えることができます。

1 アングル切り換え可能な場面

- 本機では、複数のアングルが収録されている場面を再生すると、画面左下にマルチアングルマーク (アングル) を表示して知らせます。
- マルチアングルマーク表示のON/OFFは、DVD設定で行います。(参照 129ページ)

1 再生中にアングル切替にタッチする

タッチするたびに、アングルが切り換わります。



メモ

- (アングル) ボタンでも同様の操作ができます。
- この機能は、アングルが複数収録されている場合だけ操作できます。
- ディスクのパッケージにある (アングル) マークの数字がアングルの収録数です。

ブックマークを登録する

DVD S-DVD

DVD-V



で操作します

ブックマークとは、ディスク再生中に場面を選んで登録する機能のことです。次にディスクを挿入したときに、登録した場面から再生されます。

1 ブックマークにタッチする

選んだ場面が、ブックマークとして登録されます。次回ディスク挿入時、その場面から再生されます。



メモ

- ブックマークの登録内容を消去する場合は、ブックマークキーに長くタッチしてください。ゴミ箱アイコンが表示され、ブックマークが消去されたことを知らせます。
- リモコンの操作モードがDVDのときは、 ボタンを押して登録することもできます。登録したブックマークを消去する場合は、 ボタンを長く押します。
- ブックマークは、ディスク1枚につき1場面を登録できます。
- ブックマークは、ディスク5枚分の登録ができます。5枚を超えてブックマークを登録した場合は、一番古いブックマーク情報に上書きされます。
- ボタンを長く押しと、ディスクをイジェクトしながらブックマークを登録します。この場合は、1枚分の登録ができます。

見たい（聞きたい）場所を指定して再生する

DVD S-DVD

DVD-V	DVD-A
Video CD	DivX®



検索

で操作します

見たい（聞きたい）場所のチャプターやトラック、時間などを指定して、その場所から再生できます。また、ビデオCD再生時は、PBCメニューのメニュー番号を指定して再生できます。

1 **サーチ/10key** または **検索** にタッチする

2 希望のサーチ方法のタッチキーにタッチする

DVDビデオ

TITLE	タイトルサーチ
CHAPTER	チャプターサーチ
TIME	タイムサーチ (再生時間によるサーチ)
10キー	10キー入力

DVDオーディオ

GROUP	グループサーチ
TRACK	トラックサーチ
10キー	10キー入力

ビデオCD

TRACK	タイトルサーチ
TIME	タイムサーチ (再生時間によるサーチ)
10キー	10キー入力 (PBCメニュー操作など)

- DivXを再生しているときは、タイムサーチだけが操作できます。

3 **0** ~ **9** にタッチして、ナンバーまたは時間を入力する

- ・入力を取り消すときは、**⏏**にタッチします。
- ・1時間を超える時間を入力するときは、1時間を60分に置き換えて入力します。たとえば、1時間11分と入力したいときは、71分と置き換えて、**7**・**1**・**0**・**0**とタッチします。

4 **決定**にタッチする

指定した場所から再生されます。

メモ

- ・ジョイスティックやリモコンの数字ボタンでも操作できます。
- ・無効の数字が入力された場合や再生位置によっては、**⊘**（禁止マーク）が表示され、入力が取り消される場合があります。
- ・再生停止中は、チャプターサーチやタイムサーチの操作はできません。

タイトル（グループ）のダイレクトサーチ

ディスクの再生停止中に、リモコンの数字ボタンでタイトル（グループ）を指定して再生できます。この場合、リモコンの操作モードをDVDモードにします。

1 再生停止中に、見たいタイトル（グループ）ナンバーの数字ボタンを押す

指定したタイトル（グループ）が再生されます。

- ・3を選ぶときは、**③** ボタンを押します。
- ・10を選ぶときは、**⑩**・**①**の順にボタンを押します。
- ・23を選ぶときは、**⑩**・**⑩**・**③**の順にボタンを押します。

PBCメニューの操作

PBC（プレイバックコントロール）機能付きビデオCDを再生している場合、リモコンの数字ボタンでPBCメニューを操作できます。この場合、リモコンの操作モードをDVDモードにします。

1 PBCメニュー表示中に、数字ボタンを押して、メニューを選択する

選択したメニューから再生されます。

- ・3を選ぶときは、**③** ボタンを押します。
- ・10を選ぶときは、**⑩**・**①**の順にボタンを押します。
- ・23を選ぶときは、**⑩**・**⑩**・**③**の順にボタンを押します。

メモ

- ・PBC再生中にPBCメニューを表示するには、**RETURN** ボタンを押します。
- ・メニュー画面が2ページ以上ある場合、**◀** / **▶** ボタンを押して、表示を切り換えます。詳しくは、ディスクの説明書をご覧ください。

ディスクを選ぶ

M-CD **S-DVD**

DVD-V	Video CD
CD	ROM-Audio

1 **01：（ディスクタイトル）**～**12：（ディスクタイトル）**の中から聞きたいディスクにタッチする

選んだディスクを再生します。ディスクタイトルリストは、1～6枚目と7～12枚目の6枚ずつ表示されます。

メモ

- ・6枚型マルチCDプレーヤーや、DVDプレーヤーでは、ディスクタイトルリストは1～6枚目までの表示になります。
- ・**次へ** / **前へ** にタッチして、リストを切り換えることができます。
- ・ディスクタイトルリストは、**リスト** にタッチするたびに表示／非表示が切り換わります。
- ・数字ボタン**①**～**⑥**を押してディスクを選択することもできます。7～12枚目のディスクを選択する場合は、数字ボタン**①**～**⑥**を長く（約2秒）押します。

曲を探す

iPod



で操作します

iPodのプレイリストから、プレイリストや曲を選んで再生できます。また、ジャンル、アーティスト、アルバムなどのリストから、曲を選んで再生できます。

1 **曲を探す** にタッチする

リスト選択画面に切り換わります。

2 表示したいリスト項目にタッチする

プレイリスト On-the-Goやトップ25、トップレートなどから選曲できます。

アーティスト アーティスト名から選曲できます。

アルバム アルバム名から選曲できます。

曲 曲名で直接選曲します。

ジャンル ジャンル名から選曲できます。

次へ / **前へ** にタッチすると、次や前のリストを表示します。

- **U** にタッチすると、ひとつ上の階層に戻ります。
- アーティスト、アルバム、ジャンルで選んだ項目を長くタッチすると、選んだ内容で再生を開始します。

3 リストを繰り返し操作して、選曲する

手順2の操作を参照して、選曲します。曲が選択されると、再生が始まります。

データ連動放送を見る

DTV



で操作します

データ連動放送を表示します。画面の説明に従って操作すると、放送中の番組に連動した情報を見ることができます。(操作のしかたは番組によって異なります。)

1 **d** にタッチする

タッチすると、データ放送を表示します。

2 地上デジタルTVチューナーに付属のリモコンを使って操作する

番組内容を確認する

DTV



で操作します

現在視聴している番組の詳細情報を表示します。番組の内容を確認できます。

1 **番組内容** にタッチする

タッチすると、番組内容を表示します。

2 タッチキーで直接操作するか、地上デジタルTVチューナーに付属のリモコンを使って操作する

受信中のチャンネルの番組表を見る

DTV

番組表 で操作します

現在受信しているチャンネルの番組表を表示します。最大1週間先までの番組情報を表示します。

1 **番組表** にタッチする

タッチすると、番組表を表示します。

2 **番組を選んでタッチする**

番組の情報が表示されます。

現在放送中の番組一覧を見る

DTV

裏番組 で操作します

現在放送している全チャンネルの番組表を表示します。

1 **裏番組** にタッチする

タッチすると、現在放送中の全チャンネルの番組表を表示します。

2 **チャンネルを選んでタッチする**

現在放送中の番組の情報が表示されます。

ワンセグ放送やデータ放送を見る

DTV

**サービス
切換** で操作します

1つのチャンネルに複数のテレビ番組や、独立データ番組、ワンセグがある時に切り換えます。

1 **サービス切換** にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

通常放送 → 独立データ放送
→ ワンセグ

チャンネルリストで選局する

DTV

リスト で操作します

「プリセットチャンネルリスト」「サービスリスト」「エリアリスト」を使って、見たいチャンネルが選べます。

1 **リスト** にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

プリセットチャンネルリスト
→ サービスリスト
→ エリアリスト
→ リストOFF

2 **チャンネルを選んでタッチする**

選んだチャンネルが選局されます。

映像を切り換える

DTV



で操作します

番組によっては、複数のカメラで撮影した映像を放送しているものがあります。そのような番組を受信しているときに、映像を切り換えることができます。(切り換わる内容は番組によって異なります。)

1 映像切替 にタッチする

タッチするたびに、映像が切り換わります。

字幕を切り換える

DTV



で操作します

番組によっては、字幕放送に対応しているものがあります。そのような番組を視聴しているときに、字幕を表示させることができます。(字幕の内容は番組によって異なります。)

1 字幕切替 にタッチする

タッチするたびに、字幕が切り換わります。

音声を切り換える

DTV



で操作します

番組によっては、2カ国語放送のように、複数の音声を放送しているものがあります。そのような番組を視聴しているときに、音声を切り換えることができます。(切り換わる内容は番組によって異なります。)

1 音声切替 にタッチする

タッチするたびに、映像が切り換わります。

音声操作で電話をかける

TEL



で操作します

音声認識機能のある携帯電話がHFP接続されている場合、音声認識機能で電話をかけることもできます。音声操作について詳しくは、携帯電話の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 音声認識機能のない携帯電話の場合、**ボイス** がグレーで表示されて、操作できません。

1 ボイス にタッチする

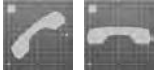
音声認識モードに切り換わり、音声操作ができるようになります。

2 音声操作で電話をかける

電話をかけたい相手の名前を発話して、電話をかけます。

かかってきた電話に出る

TEL



で操作します

本機がソースOFFのときや、どのソースを聞いているときでも、かかってきた電話に出ることができます。

また、通話中にかかってきた別の電話に出ることもできます（割込通話）。割込通話中に相手を切り換えることもできます。

かかってきた電話に出る

1 電話がかかってきたら、にタッチする

電話がつながり、通話できます。



2 通話中に相手の声の音量（受話音量）を調節する

VOLUMEを操作して、受話音量を調節します。

3 にタッチして、通話を終了する

電話が切れます。

メモ

- 通話中に、 /  (VOLUME) ボタンを押して、受話音量を調節することもできます。
- 携帯電話側でシークレット設定などがされているときは、ハンズフリー通話ができない場合があります。
- 自動着信の設定（※ 86ページ）がONの場合、自動応答機能が働きます。

通話中にかかってきた別の電話に出る（割込通話）

1 通話中に電話がかかってきたら、にタッチする

タッチすることにより、通話の相手が切り換わります。

2 にタッチして、通話を終了する

すべての通話が切断されます。

メモ

- 割込通話機能の利用には、別途、携帯電話会社との契約が必要です。
- 携帯電話や携帯電話会社のサービスによって、操作が異なる場合があります。
- 携帯電話によっては、本機からの割込通話の操作を受け付けない機種もあります。

かかってきた電話を切る（着信拒否）

TEL



で操作します

電話に出られないときは、着信を拒否できます。また、通話中にかかってきた別の電話を切ることもできます。

かかってきた電話を切る

1 電話がかかってきたら、にタッチする

かかってきた電話の着信を拒否します。

- かかってきた電話の着信を手動で拒否した場合、番号が不在着信履歴（※ 67ページ）に記録されます。
- 全ての着信を自動で拒否することもできます。この場合、番号は不在着信履歴には記録されません。

通話中にかかってきた電話を切る

1 割込通話の着信中に、にタッチする

通話中にかかってきた電話の着信を拒否します。

メモ

- 通話中にかかってきた電話の着信を手動で拒否した場合、番号は着信履歴または不在着信履歴に記録されません。

電話番号を入力して電話をかける

 で操作します

電話番号を入力して電話をかけます。

1 **ダイレクト** にタッチする

ナンバー入力画面に切り換わります。

2 **0** ~ **9**、*****、**#** にタッチして、電話番号を入力する

入力した数字を消去するには、**クリア** にタッチします。

3 にタッチする

入力した電話番号に発信します。

プリセットダイヤルで電話をかける

TEL

 で操作します

リモコンの①～⑥ ボタンを使ってプリセットダイヤルに登録 (※ 48ページ) した電話番号へ、電話をかけることができます。

1 **リスト** にタッチする

プリセット番号が表示されます。

2 **P1:** ~ **P6:** の中から希望のプリセットダイヤルにタッチする

3 にタッチする

選んだ電話番号に発信します。

メモ

- プリセット番号に電話番号が登録されていない場合、「No Data」と表示されます。

電話帳を使う

TEL


 で操作します

電話帳から電話をかける

携帯電話から転送した電話帳データ (※ 85ページ) を使って、電話をかけることができます。

1 **電話帳** にタッチする

電話帳が表示されます。

- 2 相手の名前にタッチする
相手の詳細リストが表示されます。
- 3 選んだデータに複数の電話番号が登録されている場合、かけたい番号にタッチする
- 4  にタッチする
選んだ電話番号に発信します。

電話帳編集画面を表示する

- 1 電話帳から編集したいデータの
詳細リストを表示する
- 2 編集したいデータ右側に表示されている **編集** にタッチする
電話帳編集画面が表示されます。

電話帳データの名前や電話番号を編集する



- 1 電話番号編集画面を表示する
- 2 「SOUND SETTINGの名称を変更する (※ 124ページ)」の手順
4~7を参照して、文字や数字を入力する
- 3 **メモリ** にタッチする
詳細リストに戻ります。

履歴から電話をかける

TEL

 履歴 で操作します

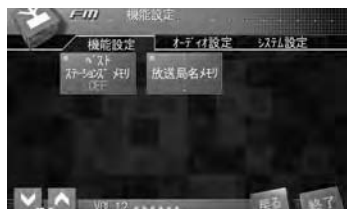
不在着信履歴、発信履歴、着信履歴に記録されている電話番号へ電話をかけることができます。

- 1 **履歴** にタッチする
タッチするたびに、以下のように切り換わります。
不在着信履歴 → 発信履歴 → 着信履歴
 - 2 電話をかけたい履歴データに
タッチする
次へ / **前へ** にタッチすると、次や前のリストを表示します。
ABC/123 にタッチすると、電話番号表示と名前表示を切り換えることができます。
 - 3  にタッチする
選んだ電話番号に発信します。
-  メモ
- 電話帳データに登録されている電話番号は、登録名が表示されます。

機能設定メニューを使う

機能設定メニューを表示する

- 1 **AVメニュー** にタッチする
メインメニューが表示されます。
- 2 **機能設定** タブにタッチする
機能設定メニューが表示されます。





メモ

- **終了** にタッチするか、**(BAND)** ボタンを押すと、ソース画面に戻ります。
- **戻る** にタッチするか、**(BACK)** ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

機能設定メニュー一覧

DVD



DVD-V	Video CD
	リピート再生する (<small>※</small> 72ページ)
	音声の出力方法を切り換える (<small>※</small> 74ページ)

DVD-A	CD	ROM-Audio
	リピート再生する (<small>※</small> 72ページ)	
	ランダム再生する (<small>※</small> 73ページ)	
	スキャン再生する (<small>※</small> 73ページ)	

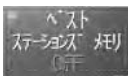
DivX®


	リピート再生する (<small>※</small> 72ページ)
--	---------------------------------------

JPEG

	リピート再生する (<small>※</small> 72ページ)
	ランダム再生する (<small>※</small> 73ページ)


FM AM


- 

受信状態の良い放送局を
自動で登録する
(**74ページ**)
- 

放送局名を選ぶ
(**75ページ**)

TV

- 

受信状態の良い放送局を
自動で登録する
(**75ページ**)
- 

音声多重放送の
音声を切り換える
(**76ページ**)

M-CD

CD

- 

リピート再生する
(**72ページ**)
- 

ランダム再生する
(**73ページ**)
- 

スキャン再生する
(**73ページ**)
- 

音を聞きやすくする
(COMP/DBE)
(**78ページ**)
- 


ITSリストから再生する
(**77ページ**)
- 


ITSリストを作る
(**76ページ**)

S-DVD

DVD-V

Video CD


- 


リピート再生する
(**72ページ**)
- 


音声の出力方法を切り換える
(**74ページ**)

CD

ROM-Audio

- 


リピート再生する
(**72ページ**)
- 


ランダム再生する
(**73ページ**)
- 


スキャン再生する
(**73ページ**)

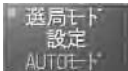
DTV

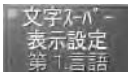
1ページ目


- 

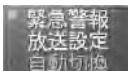
地上デジタル放送のチャンネルを登録する
(**※ 78ページ**)
- 


番組情報取得を設定する
(**※ 78ページ**)
- 


ワンセグ放送の受信方法を設定する
(**※ 79ページ**)
- 

選局モードを切り換える
(**※ 79ページ**)
- 

文字スーパー表示設定第1言語を設定する
(**※ 79ページ**)
- 

放送延長時の番組追従設定を切り換える
(**※ 79ページ**)
- 

緊急警報放送の受信方法を設定する
(**※ 80ページ**)
- 

地域名を入力して使用する地域を設定する
(**※ 80ページ**)
- 

郵便番号を入力して使用する地域を設定する
(**※ 80ページ**)

2ページ目

- 

更新プログラムのダウンロードを設定する
(**※ 80ページ**)
- 

放送中の番組情報を自動で取得する
(**※ 81ページ**)
- 

地上デジタルTVチューナーの設定内容を消去する
(**※ 81ページ**)
- 

お知らせメッセージを表示する
(**※ 82ページ**)
- 

地上デジタルTVチューナーのバージョン情報を表示する
(**※ 82ページ**)

TEL

BT Audio

電話機接続

電話機を接続する
(☎ 82ページ)

電話機登録

電話機を登録する
(☎ 83ページ)

電話帳転送

携帯電話の電話帳を転送する
(☎ 85ページ)

電話帳
表示切替
別メニュー

電話帳の表示方法を切り換える
(☎ 85ページ)

ユーザーID
消去

データを消去する
(☎ 85ページ)

自動着信
OFF

自動着信を設定する
(☎ 86ページ)

着信拒否
OFF

着信拒否を設定する
(☎ 86ページ)

着信BEEP音
OFF

着信音をON/OFFする
(☎ 86ページ)

自動接続
OFF

登録されている携帯電話を
自動で接続する
(☎ 84ページ)

エコーキャンセル
OFF

通話時のノイズやエコーを
軽減する
(☎ 86ページ)

デバイス情報

本システムのデバイス情報を
確認する
(☎ 87ページ)

接続
待ち受け

Bluetooth対応機器を
接続する
(☎ 87ページ)

接続解除

Bluetooth接続を解除する
(☎ 87ページ)

デバイス情報

本システムのデバイス情報を
確認する
(☎ 87ページ)

リピート再生する

DVD **M-CD** **S-DVD**



で操作します

リピート再生は、再生中のディスク全体を繰り返し再生したり、現在再生中のチャプター（トラック）を繰り返し再生するなど繰り返し再生する範囲を選択できます。

1 機能設定メニューを表示する

(※ 68ページ)

2 リピート にタッチする

タッチするごとに、リピート再生する範囲が切り換わります。

次の表を参照して、リピート範囲を選択してください。

DVD-V

DISC	再生中のディスク全体を繰り返し再生します
CHAPTER	現在再生中のチャプターを繰り返し再生します
TITLE	現在再生中のタイトルを繰り返し再生します

DVD-A

DISC	再生中のディスク全体を繰り返し再生します
GROUP	現在再生中のグループを繰り返し再生します
TRACK	現在再生中のトラックを繰り返し再生します

Video CD

CD

M-CD	(マルチCD再生時) マルチCD内のディスクを通して再生します
DISC	再生中のディスク全体を繰り返し再生します
TRACK	現在再生中のトラックを繰り返し再生します

ROM-Audio

DivX®

DISC	再生中のディスク全体を繰り返し再生します
FOLDER	現在再生中のフォルダーを繰り返し再生します
FILE	現在再生中のファイルを繰り返し再生します

JPEG

DISC	再生中のディスク全体を繰り返し再生します
FOLDER	現在再生中のフォルダーを繰り返し再生します

選んだリピート範囲で、リピート再生します。

メモ

- ソース画面表示中に、**ピュ**にタッチすると、リピート再生の情報を確認できます。
- リピート再生中に、早戻し／早送りの操作を行うと、リピート再生は解除されます。
- オートプレイ (※ 58ページ) がONのときは、リピート再生できません。

ランダム再生する

DVD **M-CD** **S-DVD**

DVD-A	CD
ROM-Audio	JPEG



で操作します

選んだリピートの範囲内で、曲順を変えて再生します。

リピート範囲とランダム再生の関係

- リピート範囲がGROUPのとき
GROUP内の曲をランダムに再生します。
- リピート範囲がDISCのとき
DISC内の曲をランダムに再生します。
- リピート範囲がFOLDERのとき
FOLDER内の曲をランダムに再生します。
- リピート範囲がM-CDのとき
マルチCD内のすべてのディスク・トラックをランダムに再生します。

1 機能設定メニューを表示する

(☞ 68ページ)

2 **ランダム** にタッチする

ランダム再生が始まります。
ランダム再生をやめるときは、もう一度 **ランダム** にタッチします。

メモ

- リピートの範囲がTRACK/FILEの場合、ランダム再生をONにすると、リピート再生の範囲が自動的にGROUP、DISCまたはFOLDERに切り換わります。
- ソース画面表示中に、**ビュー** にタッチすると、ランダム再生の情報を確認できます。

スキャン再生する

DVD **M-CD** **S-DVD**

DVD-A	CD	ROM-Audio
-------	----	-----------



で操作します

選んだリピートの範囲内で、曲やフォルダー、ディスクのはじめの部分（約10秒間）だけを次々に再生します。

リピート範囲とスキャン再生の関係

- リピート範囲がGROUPのとき
DVDオーディオでは、曲のスキャンを行います。
- リピート範囲がDISCのとき
CD再生中は曲のスキャンを行います。
ROM-Audioでは、フォルダーのスキャンを行います。
- リピート範囲がFOLDERのとき
ROM-Audioでは、曲のスキャンを行います。
- リピート範囲がM-CDのとき
マルチCDでは、ディスクのスキャンを行います。

1 機能設定メニューを表示する

(☞ 68ページ)

2 **スキャン** にタッチする

スキャン再生が始まります。

3 聞きたい曲、フォルダー、またはディスクが再生されたら、もう一度 **スキャン** にタッチする

メモ

- スキャン再生を始めた曲、フォルダー、またはディスクまで戻ると、スキャン再生は解除されます。

音声の出力方法を切り換える

DVD S-DVD

DVD-V Video CD

L/R切替
L+R

で操作します

音声の出力方法をステレオまたはモノラルに切り換えることができます。

1 機能設定メニューを表示する

(※ 68ページ)

2 **L/R切替** にタッチする

押すたびに、以下のように切り換わります。

ステレオ (L+R) → モノ左 (LEFT)

→ モノ右 (RIGHT)

→ 左右ミックス (MIX)



メモ

- DVDビデオディスクでは、音声はLPCMのときだけ、音声の出力方法を切り換えることができます。
- 左右ミックス (MIX) は、ビデオCD再生時のみ操作できます。

受信状態の良い放送局を自動で登録する

FM AM

ベスト
ステーションズ
メモリ

で操作します

ベスト ステーションズ メモリーは、受信状態の良い放送局をさがして、自動的に登録する機能です。

1 登録したいバンドを選ぶ

(※ 35ページ)

2 機能設定メニューを表示する

(※ 68ページ)

3 **ベストステーションズメモリ** にタッチする

ベスト ステーションズ メモリー (放送局自動登録) が始まります。

登録動作中は、“BSM” が点滅します。

登録が完了すると、“BSM” の点滅が終わり、P1 (プリセットチャンネル 1)

に登録された放送局を受信します。



メモ

- ベスト ステーションズ メモリー中に **ベストステーションズメモリ** にタッチすると、ベスト ステーションズ メモリーを中止することができます。
- 受信状態の良い放送局が6局より少ないときは、以前に登録した放送局が残ることがあります。

放送局名を選ぶ

FM AM

放送局名メモリ で操作します

同じ周波数でも、地域によって受信する放送局は異なります。受信している放送局名と表示されている放送局名が異なる場合に、放送局名の表示を変更することができます。

1 機能設定メニューを表示する

(☞ 68ページ)

2 放送局名メモリ にタッチする

3 放送局名一覧から、放送局名を選んでタッチする

選んだ放送局名に変更されます。

4 終了 にタッチする

ソース画面に戻ります。

メモ

- 本機に登録されていない放送局名は表示できません。
- 選んだ周波数に該当する放送局名が登録されていない場合、“NO DATA”と表示されます。
- パイオニア製のFMモジュレータータイプのマルチCDをお使いの場合、モジュレーター周波数に合わせると、放送局名を“FM M-CD”に変更できます。

受信状態の良い放送局を自動で登録する (BSSM)

TV

BSSM
OFF

で操作します

BSSMとは、「Best Stations Sequential Memory (ベストステーションズシーケンシャルメモリー)」の略です。受信状態の良いチャンネルをさがして、自動的に登録する機能です。

1 登録したいバンドを選ぶ

(☞ 43ページ)

2 機能設定メニューを表示する

(☞ 68ページ)

3 BSSM にタッチする

BSSM (チャンネル自動登録) が始まります。

登録動作中は、“BSSM” が点滅します。登録が完了すると、“BSSM” の点滅が終わり、P1 (プリセットチャンネル 1) に登録された放送局を受信します。

メモ

- BSSM中に **BSSM** にタッチすると、BSSMを中止することができます。
- 受信状態の良い放送局が12局より少ないときは、以前に登録した放送局が残ることがあります。

音声多重放送の 音声を切り換える

TV

音声多重

MAIN

で操作します

洋画やニュースの2カ国語放送のように、2種類の音声を持った放送のことを音声多重放送といいます。音声多重放送を受信しているときに、音声を切り換えることができます。

1 機能設定メニューを表示する

(☞ 68ページ)

2 音声多重 にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

MAIN (主音声) → SUB (副音声)

→ MAIN+SUB (主音声+副音声)



メモ

- 2カ国語放送の場合は、一般に主音声を日本語、副音声を外国語（例：英語）で放送しています。

ITSを使う

M-CD

CD

あらかじめ聞きたい曲をITSで指定すると、指定した曲だけを再生できます。

ITSについて

- ITSとは、「Instant Track Selection (インスタントトラックセレクション)」の略です。ITSは、聞きたい曲を指定しておき、それを再生する機能です。
- 曲の指定はCDごとに行われます。CDを入れ換えても、そのCDの曲の指定は解除されません。
- CD1枚につき、99曲まで指定できます。(「CDX-P1250」「CDX-P650」以前に発売されたマルチCDでは、指定できる曲が24曲目までになります。)
- ITSは、CD100枚分まで指定できます。
- 100枚を超えたときは、いちばん古い指定内容が解除されて、新しいCDでの曲の指定が登録されます。

ITSリストを作る

ITS ㊦

で操作します

1 ITSに指定したい曲の入ったディスクを再生する

2 機能設定メニューを表示する

(☞ 68ページ)

3 **ITSメモリ**にタッチする

ITSコントロール画面が表示されます。



4 **◀/▶**にタッチして、指定したい曲を選択する

5 **メモリ**にタッチして、曲を指定する

指定した曲がリストに入ります。

6 **終了**にタッチする

ソース画面に戻ります。

ITSリストから再生する



で操作します

選択した範囲（リピート範囲）で、ITS指定した曲だけを再生します。

1 **リピート範囲**を選択しておく

(※ 72ページ)

2 **機能設定メニュー**を表示する

(※ 68ページ)

3 **ITS PLAY**にタッチする

選択した範囲内で、ITS再生が始まります。

ITS再生をやめるときは、もう一度**ITS PLAY**にタッチします。



メモ

- 手順1で選択したリピート範囲内に指定した曲がない場合は、“ITS EMPTY”が約2秒間表示されて、ITS再生は行われません。

ITSリストから曲の指定を解除する



で操作します



メモ

- ITS PLAYの設定がONのときは、1曲ずつ解除します。
- ITS PLAYの設定がOFFのときは、再生中のディスクでITS指定された曲をすべて解除します。この場合は、手順4で曲を選択する必要はありません。

1 ITSに指定した曲の入ったディスクを再生する

2 機能設定メニューを表示する

(※ 68ページ)

3 **ITSメモリ**にタッチする

ITSコントロール画面が表示されます。



4 **◀/▶**にタッチして、指定を解除したい曲を選択する

5 **クリア**にタッチして、曲の指定を解除する

指定した曲が解除されます。

6 **終了**にタッチする

ソース画面に戻ります。

音を聞きやすくする (COMP/DBE)

M-CD

CD

COMP/DBE
OFF

で操作します

大きな音と小さな音の音量差を小さくしたり、低音域を押し上げたりします。COMP/DBE機能付きのマルチCDプレーヤーを接続したときに操作できます。

COMPについて

- COMPとは、「Compression」の略で、大きな音を抑え、小さな音を押し上げて、大きな音と小さな音の音量差を小さくする機能です。小さな音が聞き取りにくいときにお使いになると便利です。

DBEについて

- DBEとは、「Dynamic Bass Emphasis」の略で、車内で不足しがちな低音域を押し上げる機能です。車内で低音域が不足したように聞こえるときにお使いになると便利です。

1 機能設定メニューを表示する

(※ 68ページ)

2 COMP/DBE にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

OFF → COMP1 → COMP2 → OFF
→ DBE1 → DBE2 → OFF

メモ

- COMP、DBEともに、1より2のほうが、効果が大きくなります。
- COMP/DBE機能のないマルチCDを接続したときは、操作ができません。

地上デジタル放送の チャンネルを登録する

DTV

スキャン
OFF

で操作します

1 登録したいバンドを選ぶ

(※ 51ページ)

2 機能設定メニューを表示する

(※ 68ページ)

3 スキャン にタッチする

チャンネルスキャンが始まります。スキャン動作中は、「スキャン中」と表示されます。

チャンネルスキャンが終了すると、プリセットメモリーとスキャンメモリーの両方に、放送局が登録されます。

メモ

- チャンネルスキャンをやめるときは、**スキャン** にタッチします。

番組情報取得を設定する

DTV

番組情報
取得
OFF

で操作します

1 機能設定メニューを表示する

(※ 68ページ)

2 番組情報取得 にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

ON → OFF

ワンセグ放送の 受信方法を設定する

DTV

ワンセグ
設定
自動切換

で操作します

1 機能設定メニューを表示する

(※ 68ページ)

2 **ワンセグ設定** にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

自動切換 → 手動切換



メモ

- 受信状況などによっては、自動切換を選んでも、自動でワンセグ放送に切り換わらないことがあります。このような場合は、基本画面(※ 51ページ)の**サービス切換**をタッチして、手動で切り換えてください。

選局モードを切り換える

DTV

選局モード
設定
AUTOモード

で操作します

1 機能設定メニューを表示する

(※ 68ページ)

2 **選局モード設定** にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

標準モード

→ ワンセグモード

→ AUTOモード (自動切換)

文字情報の表示内容を 設定する

DTV

文字スーパー
表示設定
第1言語

で操作します

1 機能設定メニューを表示する

(※ 68ページ)

2 **文字スーパー表示設定** にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

第1言語 → 第2言語 → 表示しない

放送延長時の番組追従設定 を切り換える

DTV

イベント
設定
自動切換

で操作します

1 機能設定メニューを表示する

(※ 68ページ)

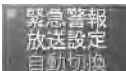
2 **イベントリレー設定** にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

自動切換 → 手動切換

緊急警報放送の 受信方法を設定する

DTV



で操作します

- 1 機能設定メニューを表示する
(※ 68ページ)
- 2 **緊急警報放送設定** にタッチする
タッチするたびに、以下のように切り換わります。
自動切換 → 手動切換

地域名を入力して 使用する地域を設定する

DTV



で操作します

- 1 機能設定メニューを表示する
(※ 68ページ)
- 2 **地域設定** にタッチする
地域名選択画面に切り換わります。
- 3 希望の地域名のタッチキーに
タッチする
表示されている画面に選択したい地域がない場合は、**前へ** / **次へ** を押して、希望の地域を表示させてください。

郵便番号を入力して 使用する地域を設定する

DTV



で操作します

- 1 機能設定メニューを表示する
(※ 68ページ)
- 2 **郵便番号入力** にタッチする
郵便番号入力画面に切り換わります。
- 3 **0** ~ **9** のキーにタッチして、**郵便番号を入力する**
入力した郵便番号を訂正したい場合は、**C** を押して、番号を消去してください。
- 4 入力が終わったら、**決定** にタッチして、入力した数字を決定する

更新プログラムの ダウンロード設定を行う

DTV



で操作します

- 1 機能設定メニューを表示する
(※ 68ページ)
- 2 **次へ** にタッチする
機能設定メニューの2ページ目に切り換わります。

3 **ダウンロード設定** にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

ON → OFF

ONを選択すると、更新プログラムのダウンロードを開始します。

ダウンロード設定を ONにしたとき

更新プログラムのダウンロードが予定された時刻になると、自動的にダウンロードを開始します。



メモ

- ・ダウンロード予定時刻は、「お知らせメッセージを表示する (82ページ)」の「バージョンアップのお知らせ」などで確認できます。
- ・ダウンロード予定時刻の約5分前から、「ダウンロード待機中」と表示されます。

1 画面にしたがって、操作を行う

画面の表示にしたがって、操作してください。

放送中の番組情報を 自動で取得する

DTV

番組名称
取得設定

で操作します

1 機能設定メニューを表示する

(88ページ)

2 **次へ** にタッチする

機能設定メニューの2ページ目に切り換わります。

3 **番組名称取得設定** にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

ON → OFF

ONを選択すると、本システムの電源がOFFのときに、「裏番組表」に必要な情報を自動で取得します。

地上デジタルTVチューナー の設定内容を消去する

DTV

視聴者設定
クリア

で操作します

1 機能設定メニューを表示する

(88ページ)

2 **次へ** にタッチする

機能設定メニューの2ページ目に切り換わります。

3 **視聴者設定クリア** にタッチする

確認画面に切り換わります。

4 **YES** にタッチして、設定内容を消去する

設定内容を消去しない場合は、**NO** にタッチしてください。



メモ

- ・チャンネル、番組表、「文字スーパー表示設定」、「イベントリレー」、「緊急警報放送設定」、「地域設定」、「郵便番号入力」、「ダウンロード設定」、「番組名称取得設定」およびデータ連動放送のブックマークの設定内容が消去されます。

お知らせメッセージを表示する

DTV

お知らせ
メッセージ
で操作します

1 機能設定メニューを表示する

(※ 68ページ)

2 次へにタッチする

機能設定メニューの2ページ目に切り換わります。

3 お知らせメッセージにタッチする

お知らせメッセージ一覧画面に切り換わります。

4 メッセージ一覧から、見たいメッセージを選んでタッチする

選んだメッセージが表示されます。
メッセージ一覧に戻るには、**戻る**に
タッチしてください。



- メモ
- メッセージが多いときは、**↑** / **↓** にタッチして、画面をスクロールしてください。

地上デジタルTVチューナーのバージョン情報を表示する

DTV

バージョン
情報
で操作します

1 機能設定メニューを表示する

(※ 68ページ)

2 次へにタッチする

機能設定メニューの2ページ目に切り換わります。

3 バージョン情報にタッチする

バージョン情報表示画面に切り換わります。

4 終了にタッチして通常画面に戻る



- メモ
- 約30秒間何も操作しなかった場合も、通常画面に戻ります。

携帯電話を接続する

TEL

電話機接続
で操作します

接続可能な携帯電話を検索して接続する

1 機能設定メニューを表示する

(※ 68ページ)

2 電話機接続にタッチする

BT機器接続画面に切り換わります。

3 電話機検索にタッチする

接続可能な携帯電話を検索します。接続可能な携帯電話が見つかった場合、デバイス名（機器名称）が表示されます。

- 接続可能な携帯電話が複数見つかった場合は、**前へ** / **次へ** にタッチして、リストを切り換えてください。

- ・携帯電話のデバイス名を取得できなかった場合、「Name Not Found」と表示されます。
- ・接続可能な携帯電話が見つからなかった場合は、「見つかりません」と表示されます。
- ・**デバイス情報**にタッチすると、携帯電話のデバイス名（機器名称）とデバイスアドレスを切り換えることができます。

4 デバイス名にタッチする

携帯電話をBluetooth接続します。

- ・接続を完了するには、携帯電話で本システムのデバイス名（Pioneer BT unit）を確認し、パスコードを入力してください。接続が完了すると、「接続しました」と表示されます。



メモ

- ・パスコードの初期値は「0000」です。変更（※ 147ページ）することもできます。

携帯電話から接続する

1 機能設定メニューを表示する

（※ 68ページ）

2 **電話機接続** にタッチする

BT機器接続画面に切り換わります。

3 **電話機接続待ち受け** にタッチする

携帯電話からの接続待ち受け状態になります。

4 携帯電話を操作して、本システムとBluetooth接続する

携帯電話をBluetooth接続します。



メモ

- ・携帯電話によって操作は異なります。詳しくは、携帯電話の取扱説明書をご覧ください。
- ・携帯電話によっては、パスコードの入力が必要になる場合があります。
- ・パスコードの初期値は「0000」です。変更（※ 147ページ）することもできます。

Bluetooth接続を解除する

TEL

電話機接続 で操作します

1 機能設定メニューを表示する

（※ 68ページ）

2 **電話機接続** にタッチする

BT機器接続画面に切り換わります。

3 **接続解除** にタッチする

本システムとのBluetooth接続が解除されます。

携帯電話を登録する

TEL

電話機登録 で操作します

1 機能設定メニューを表示する

（※ 68ページ）

2 **電話機登録** にタッチする

電話機登録画面に切り換わります。

3 **1**（ユーザー1）、**2**（ユーザー2）、**3**（ユーザー3）、**G**（ゲスト1）、**G**（ゲスト2）の中から登録先を選び、長くタッチする

携帯電話が登録されます。

登録されている携帯電話を 接続する

TEL

電話機接続 で操作します

- 1 機能設定メニューを表示する
(※ 68ページ)
- 2 電話機接続 にタッチする
電話機接続画面に切り換わります。
- 3 ダイレクト接続 にタッチする
ダイレクト接続画面に切り換わります。
- 4 接続したい携帯電話のデバイス名
(機器名称) にタッチする
選んだ携帯電話が、Bluetooth接続さ
れます。

登録されている携帯電話を 自動で接続する

TEL

自動接続
OFF
で操作します

- 1 機能設定メニューを表示する
(※ 68ページ)
- 2 自動接続 にタッチする
タッチするたびに、以下のように切り
換わります。
ON → OFF
ONを選択すると、本システムに登録さ
れている携帯電話と自動的に
Bluetooth接続を開始する待機状態に
なります。

メモ

- 登録されている携帯電話でも、機種によっては自動接続では接続できない場合があります。この場合は、手動で接続 (※ 82ページ) してください。

携帯電話の登録を削除する

TEL

電話機登録 で操作します

- 1 機能設定メニューを表示する
(※ 68ページ)
- 2 電話機登録 にタッチする
電話機登録画面に切り換わります。
- 3 登録を削除したい携帯電話
の 登録削除 にタッチする
確認メッセージが表示されます。
- 4 削除 にタッチして、携帯電話の登
録を削除する
削除をやめるときは、キャンセルに
タッチしてください。

メモ

- メモリの削除にかかる時間は、約10秒です。削除動作中は、車のエンジンスイッチをON (ACC ON) のままにしておいてください。

携帯電話の電話帳を転送する

TEL

電話帳転送 で操作します

1 機能設定メニューを表示する

(☞ 68ページ)

2 電話帳転送 にタッチする

電話帳転送待ち受け画面に切り換わります。

3 開始 にタッチする

電話帳転送の待機状態になります。

4 携帯電話を操作して、本機に電話帳データを転送する

電話帳が転送されます。
電話帳の転送を途中でやめるには、**停止** にタッチしてください。

- 電話帳データの転送は、携帯電話を操作して行います。(携帯電話の操作方法については、携帯電話の取扱説明書をご覧ください。)

電話帳の表示方法を切り換える

TEL

電話帳表示切替
おぼえ方 で操作します

1 機能設定メニューを表示する

(☞ 68ページ)

2 電話帳表示切替 にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

オリジナル → 反転

データを消去する

TEL

ユーザーメモリ
消去 で操作します

1 機能設定メニューを表示する

(☞ 68ページ)

2 ユーザーメモリ消去 にタッチする

ユーザーメモリ消去画面に切り換わります。

3 消去するデータを選ぶ

電話帳、発信履歴、着信履歴、不在着信履歴、プリセットダイヤルの中から消去したい項目を選び、**消去** にタッチしてください。

- **全て消去** にタッチすると、電話帳、発信履歴、着信履歴、不在着信履歴、プリセットダイヤルの全データを消去します。

4 消去 にタッチする

消去をやめるには、**キャンセル** にタッチしてください。

 メモ

- メモリの消去にかかる時間は、約10秒です。削除動作中は、車のエンジンスイッチをON (ACC ON) のままにしておいてください。

着信拒否を設定する

TEL

着信拒否
OFF

で操作します

1 機能設定メニューを表示する

(※ 68ページ)

2 着信拒否 にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

ON → OFF

自動着信を設定する

TEL

自動着信
OFF

で操作します

1 機能設定メニューを表示する

(※ 68ページ)

2 自動着信 にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

ON → OFF

着信音をON/OFFする

TEL

着信BEEP音
OFF

で操作します

1 機能設定メニューを表示する

(※ 68ページ)

2 着信BEEP音 にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

ON → OFF

通話中のノイズやエコーを軽減する

TEL

エコーキャンセル
OFF

で操作します

1 機能設定メニューを表示する

(※ 68ページ)

2 エコーキャンセル にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

ON → OFF

本システムのデバイス情報を確認する

TEL BT Audio

デバイス情報 で操作します

1 機能設定メニューを表示する

(68 ページ)

2 デバイス情報 にタッチする

BDアドレス、デバイス名称 (Pioneer BT unit)、システムバージョン、BTモジュールバージョンが表示されます。

Bluetooth対応機器を接続する

BT Audio

接続待ち受け で操作します

1 機能設定メニューを表示する

(68 ページ)

2 接続待ち受け にタッチする

Bluetooth対応機器からの接続待ち受け状態になります。

3 Bluetooth対応機器を接続する

Bluetooth対応機器を操作して、本システムに接続してください。

Bluetooth接続を解除する

BT Audio

接続解除 で操作します

1 機能設定メニューを表示する

(68 ページ)

2 接続解除 にタッチする

本システムとのBluetooth接続が解除されます。

本機のオーディオ設定機能について



ご注意

- オーディオ設定が終わったら、設定内容をデータ記録シート (※ 180ページ) にメモしておくことをおすすめします。

効果的な音質調整のために

本機は、車内をよりよい音響空間にするために、数々のオーディオ設定機能を搭載しています。

オーディオ設定機能を正しい順序で操作することで、より効果的な音質調整が可能です。

本機のDSPモードについて

本機のDSPモードには、**スタンダードモード**と、**ネットワークモード**の2つのモードがあります (※ 143ページ)。

- オートTA&EQは、スタンダードモードで操作できます。
- フロントスピーカーの2way出力は、ネットワークモードで操作できます。



メモ

- DSPモードを切り換えると、調整中の内容は消去されます。必要に応じて、CUSTOM1～3に登録してください。

本機出力モードについて

本機出力モードには、**2CH (2チャンネル) モード**と、**マルチCH (マルチチャンネル) モード**の2つのモードがあります。

ソースに合わせて、チャンネルモードを切り換えて使うことができます。

- Dolby Pro Logic II・Dolby Digital EXとDTS Neo: 6は、マルチCHモードで操作できます。
- グラフィックイコライザーは2CHモードで操作できます。
- パラメトリックイコライザーは、マルチCHモードで操作できます。



メモ

- 2CHモードを選んでいるときは、センタースピーカーとサラウンドバックスピーカーからは音が出されません。

ソース別グループについて

それぞれのソース別に、オーディオ設定の内容を登録します。内蔵プレーヤーでは、メディアごとにオーディオ設定の内容を登録します。



メモ

- DVDオーディオ、DVDビデオ、ビデオCD、CD、DTS-CD、ROM-Audio (WMA/MP3/AAC)、DivXのそれぞれのメディアごとに登録します。
- エクスターナル1と2は同じ設定になります。

本機のSOUND SETTING メニューについて

高品質な音質・音場調整の ために

本機は、より高品質な音質・音場調整のために、SOUND SETTINGメニューを搭載しています。

SOUND SETTINGメニューでは、リスニングポジションの選択、イコライザーの選択・調整、スピーカーの設定、タイムアライメントやオートタイムアライメントなどを操作できます。

これらの設定は、DSPモード別（スタンダードモード・ネットワークモード）、チャンネルモード別（2CH・マルチCH）にそれぞれ3パターン、合計12パターンまで設定できます。また、それぞれの設定内容を本機に登録して、ワンタッチで呼び出すこともできます。

また、ソースごとに最後に設定されたSOUND SETTING情報をチャンネルモード別（2CH・マルチCH）に登録できます。これにより、次回ソースを再生したときに、前回設定したSOUND SETTING情報に基づいた音質・音場設定を再現します。

オートTA&EQについて

本機は、高品質な音質・音場調整を手軽に実現するために、オートTA&EQ（※ 144ページ）を搭載しています。

オートTA&EQの設定内容は、「AUTO」としてSOUND SETTINGに登録されます。

また、オートTA&EQを行うと、SOUND SETTINGは自動的に「AUTO」に切り換わります。

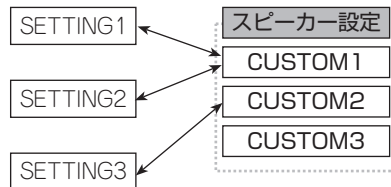
メモ

- オートTA&EQは、DSPモードがスタンダードモードのときだけ操作できます。
- オートTA&EQでの設定内容（AUTO）を調節することはできません。

CUSTOM SETTINGについて

CUSTOM1～3には、次の設定内容が登録できます。

- スピーカー設定
- カットオフ周波数
- タイムアライメント
- スピーカーレベル
- パラメトリックイコライザー
- グラフィックイコライザー
- CUSTOM1～3の内容は、SETTING1～3と共通です。例えば、SETTING1、2のスピーカー設定がCUSTOM1、SETTING3のスピーカー設定がCUSTOM2で選択されている状態は、下の図のようになります。



この状態で、SETTING1の操作中にスピーカー設定のCUSTOM1を調整すると、調整内容はSETTING2にも反映されます。

効果的なオーディオ設定の順序

オーディオ設定を効果的に行うためには、正しい順序で行っていただく必要があります。以下の順序通りに設定することをおすすめします。

スタンダードモードで使用しているとき

手軽に心地よい音場を作る

- ① **オートTA&EQ** (p.144) を行う。

オートTA&EQを行うと、車室内の音響特性を、乱れが少なく、滑らかな状態に最適化します。オートTA&EQを行うだけで、心地よい音場を作り上げることができます。

オートTA&EQを行うと、SOUND SETTINGは自動的に「AUTO」になります。更に細かく調節する場合は、下記のように行うことをおすすめします。

お好みに合わせて細かく調節する

- ① **オートTA&EQ** (p.144) を行う。
- ② **SOUND SETTING** (p.100) で、**SETTING1** ~ **SETTING3** のどれかを選ぶ。
- ③ **スピーカー設定** (p.111) を調整する。
- ④ **カットオフ** (p.114) を調整する。
- ⑤ **タイムアライメント** (p.118) を調整する。
- ⑥ **スピーカー出力レベル** (p.120) を調整する。
- ⑦ **グラフィックイコライザー** (2ch) (p.105)
パラメトリックイコライザー (マルチch) (p.108) を調整する。

ネットワークモードで使用しているとき

調節前に設定すること

- ① **デジタルダイレクト** (p.94)
: **OFF** に設定する。
- ② **グラフィックイコライザー** (2ch) (p.105)
パラメトリックイコライザー (マルチch) (p.108)
: **FLAT** に設定する。
- ③ **フェーダー/バランス** (p.93)
: **フロント0**、**レフト0**、**ライト0**、**リア0** に設定する。
- ④ **Dolby/DTS** (p.95)
: **OFF** に設定する。

調節する

- ① **SOUND SETTING** (p.100) で、**SETTING1** ~ **SETTING3** のどれかを選ぶ。
- ② **リスニングポジション** (p.104) を設定する。
: **フロントレフト** または **フロントライト** に設定する。
- ③ **スピーカー設定** (p.111) を調整する。
: スピーカーのサイズと有無を設定する。
- ④ **カットオフ** (p.114) を調整する。
- ⑤ **タイムアライメント** (p.118) を調整する。
- ⑥ **スピーカー出力レベル** (p.120) を調整する。
- ⑦ **グラフィックイコライザー** (2ch) (p.105)
パラメトリックイコライザー (マルチch) (p.108) を調整する。

必要に応じて使用する機能

次の機能は、必要に応じて使用してください。

- ① **フェダー/バランス**
(**93ページ**) を調整する。
- ② **ソース レベル アジャスター**
(**93ページ**) を調整する。
- ③ **デジタルダイレクト**
(**94ページ**) を切り換える。
- ④ **Dolby/DTS**
(**95ページ**) を設定する。
- ⑤ **ダイナミックレンジコントロール**
(**94ページ**) を設定する。
- ⑥ **ダウンMIX**
(**95ページ**) を設定する。

オーディオ設定メニューを表示する



1 AVメニューにタッチする

オーディオ設定メニューが表示されます。



メモ

- FMラジオを聞いているときは、ソースレベルアジャスターは操作できません。
- 携帯電話を操作しているときは、ソースレベルアジャスターは操作できません。
- 2CH (2チャンネル) モードで使用しているときは、Dolby/DTSは操作できません。
- **終了** にタッチするか、**[BAND]** ボタン、**[BAND/ESC]** ボタンを押すと、ソース画面に戻ります。
- **戻る** にタッチするか、**[BACK]** ボタン、**[BACK]** ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

オーディオ設定モード一覧

Standard Network

Multi-Channel

2-Channel

フェダー/バランス

前後左右の
音量バランスを調節する
(**93ページ**)

ソースレベル
アシスタ

各ソースの音量をそろえる
(**93ページ**)

デジタル
ダイレクト
OFF

オリジナルの音声で聞く
(**94ページ**)

ダイナミックレンジ
コントロール
OFF

小さな音を聞きやすくする
(**94ページ**)

ダウンMIX
Lo/Ro

ダウンミックス機能を使う
(**95ページ**)

SOUND
SETTING
SETTING1 調整

サウンドセッティング
メニューを操作する
(**100ページ**)

2CH⇄マルチCH
マルチCH

2チャンネル音声とマルチ
チャンネル音声を切り換える
(**99ページ**)

Standard Network

Multi-Channel

2-Channel

フェダー/バランス

前後左右の
音量バランスを調節する
(**93ページ**)

ソースレベル
アシスタ

各ソースの音量をそろえる
(**93ページ**)

デジタル
ダイレクト
OFF

オリジナルの音声で聞く
(**94ページ**)

Dolby/DTS
OFF 調整

サラウンド音響で聞く
(**95ページ**)

ダイナミックレンジ
コントロール
OFF

小さな音を聞きやすくする
(**94ページ**)

ダウンMIX
Lo/Ro

ダウンミックス機能を使う
(**95ページ**)

SOUND
SETTING
SETTING1 調整

サウンドセッティング
メニューを操作する
(**100ページ**)

2CH⇄マルチCH
マルチCH

2チャンネル音声とマルチ
チャンネル音声を切り換える
(**99ページ**)

前後左右の音量バランスを調節する



から操作します

前後左右のスピーカーの音量バランスを調節できます。より自然に聞こえるバランスに設定してください。

1 オーディオ設定メニューを表示する

(☞ 91ページ)

2 フェダー/バランスにタッチする

フェダー/バランス調節画面が表示されます。



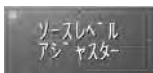
3 ▲/▼/◀/▶にタッチする

前後左右のバランスが調節できます。調節できる範囲は、以下の通りです。

フロント 25 ~ リア 25

レフト 25 ~ ライト 25

各ソースの音量をそろえる



から操作します

ソースを切り換えたときに、ソースごとの音量が違ふことがあります。ソースレベルアジャスターを使うと、FMの音量を基準にして各ソースの音量をそろえることができます。

1 オーディオ設定メニューを表示する

(☞ 91ページ)

2 ソースレベルアジャスターにタッチする

ソースレベルアジャスター調節画面が表示されます。



3 ▲/▼にタッチする

ソースレベルアジャスターのレベルを調節できます。

調節できる範囲は、以下の通りです。

-14 dB ~ +14 dB (2 dB/ステップ)

✎ メモ

- ビデオCD・CD・ROM-AudioとDivX、AMと交通情報、DVDビデオとDVDオーディオ、EXT1とEXT2は同じ設定になります。
- 内蔵プレーヤーでのDVDと、ソースDVDは同じ設定になります。

オリジナルの音声で聞く

Standard **Network**

Multi-Channel

2-Channel

デジタル
ダイレクト
OFF

で操作します

デジタルダイレクトを使うと、原音のまま再生します。調節の効果を確かめるときに使用してください。

1 オーディオ設定メニューを表示する

(☞ 91ページ)

2 **デジタルダイレクト** にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

ON → OFF



メモ

- ・デジタルダイレクトがONのときは、音量調節とDolby/DTSの設定だけが有効です。このほかの音の調整はできません。
- ・2CHモードで使用している場合は、出力モードが以下のように変化します。
 - ・デジタルダイレクトをONにすると、出力モードがマルチCHに切り換わる。
 - ・デジタルダイレクトをOFFにすると、自動的に出力モードが2CHに切り換わる。

小さな音を聞きやすくする

Standard **Network**

Multi-Channel

2-Channel

ダイナミックレンジ
コントロール
OFF

で操作します

ダイナミックレンジコントロールを使うと、音量を下げて再生するときでも、小さな音を聞きやすくすることができます。



ダイナミックレンジコントロールとは

- ・ダイナミックレンジとは、一番大きな音と一番小さな音の幅のことです。ダイナミックレンジコントロールは、この幅を圧縮することで、小さな音を聞きやすくします。

1 オーディオ設定メニューを表示する

(☞ 91ページ)

2 **ダイナミックレンジコントロール** にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

ON → OFF



メモ

- ・ダイナミックレンジコントロールの効果が得られるのは、ドルビーデジタル音声だけです。
- ・ディスクによっては、ダイナミックレンジコントロールの効果が弱いものもあります。

ダウンミックス機能を使う

Standard **Network**

Multi-Channel

2-Channel

ダウンMIX
Lo/Ro

で操作します

サラウンド成分を損なうことなく、再生に最適な状態にダウンミックスします。

ダウンミックスとは

- 5.1chの音声は、左/右/センター/左サラウンド/右サラウンド/サブウーファーの成分で構成されています。ダウンミックスは、左サラウンド/右サラウンド/センターの成分を左と右の成分に加えた音を作ります。設定はLo/RoとLt/Rtの2種類です。それぞれで、左サラウンドと右サラウンドの加えかたが異なります。

Lo/Ro :

左サラウンドと右サラウンドの成分をモノラルにして、左と右のチャンネルに振り分けれます。2ch出力をそのまま再生する場合は、この設定にします。

Lt/Rt :

左サラウンドと右サラウンドの成分をステレオのまま、左と右のチャンネルに振り分けれます。ドルビーヘッドホンなどを使用する場合は、この設定にします。

なお、サブウーファーの成分はダウンミックスには影響しません。

1 オーディオ設定メニューを表示する

( 91ページ)

2 **ダウンMIX** にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

Lo/Ro → Lt/Rt

メモ

- DVDオーディオには、ダウンミックスを禁止しているものがあります。その場合は、ダウンミックスを設定しても効果がありません。

サラウンド音響で聞く

Standard **Network**

Multi-Channel

2-Channel


Dolby/DTS
OFF

調整で操作します

本機は、Dolby Pro Logic II・Dolby Digital EXとDTS Neo:6を搭載しています。この機能を使うことで、どんな音源でもサラウンド音響で聞くことができます。

Dolby Pro Logic II・ Dolby Digital EXと DTS Neo:6を切り換える

ご注意

- スピーカー設定** ( 111ページ) で、センタースピーカーとリアスピーカーを両方ともOFFに設定した場合は、この機能は使用できません。
- 設定項目は、現在再生中のソースによって異なります。

1 オーディオ設定メニューを表示する

( 91ページ)


2 **Dolby/DTS** にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

OFF → Dolby PL II/EX

→ DTS Neo:6

メモ

- DTS Neo:6では、テレビやラジオの音声が入り込んで聞こえることがあります。このような場合、DTS Neo:6をOFFにすることをおすすめします。
-  ボタンを押して、切り換えることもできます。

Dolby Pro Logic II・ Dolby Digital EXを調整する



調整 から操作します

Dolby Pro Logic IIIは、オリジナル録音の空間情報から、立体的なサラウンド空間を作り出す機能です。この機能を使うと、2チャンネルの音声を5.1チャンネルに拡張して再生します。従来のドルビープロロジックに比べ、音の定位がより鮮明で音の移動も自然です。サラウンドの効果は、MOVIE/MUSIC/MATRIXから選べます。

Dolby Digital EXは、5.1chサラウンドシステムに「サラウンドバック」チャンネルを加え、6.1ch化します。これにより、真後ろへの音像定位を容易に実現し、空間表現力・定位感を大幅に向上します。



サラウンド効果の種類

MOVIE

映画再生に最適なサラウンド効果が得られます。古い映画など2チャンネルステレオで録音された音源でも、5.1チャンネル録音に迫る再生が可能です。

MUSIC

音楽再生に最適なサラウンド効果が得られます。2チャンネルステレオで録音されたCDなどでも、5.1チャンネル録音に迫る再生が可能です。定位感よりも包囲感が得られます。また、調整機能が用意されているので、より好みにあったサラウンド効果が実現できます。

MATRIX

FMやTVなどのステレオ放送に最適なサラウンド効果が得られます。

1 オーディオ設定メニューを表示する

(※ 91ページ)

2 **Dolby/DTS** にタッチして **Dolby PL II/EX** を選ぶ

3 **Dolby/DTS** の **調整** にタッチする

Dolby ProLogicII・Dolby Digital EX調整画面が表示されます。



4 **MOVIE / MUSIC / MATRIX** から選んでタッチする



ご注意

- Dolby Pro Logic IIIは、48 kHzまでのサンプリング周波数で動作します。48 kHzを超えるサンプリング周波数では効果がありません。
- **スピーカー設定** (※ 111ページ) で、センタースピーカー、リアスピーカー、およびサラウンドバックスピーカーのすべてをOFFに設定した場合は、この機能は使用できません。

Dolby Pro Logic II・ Dolby Digital EXの MUSICを調整する

Dolby/DTS
DolbyPLII/EX 調整 から操作します

Dolby Pro Logic IIでMUSICを選ぶと、音楽の再生に適したサラウンド効果が得られます。より好みにあったサラウンド効果を得るには、MUSICの設定・調整機能を使用します。

🔍 MUSICの設定・調整機能の種類

PANORAMA (パノラマ)

フロントのステレオイメージをサラウンドスピーカーまで拡張して、包囲感を高めます。

DIMENSION (ディメンション)

フロントスピーカーとリアスピーカー間で、中音域だけに有効なフェーダーです。前方への定位感を制御するときを使用します。調整幅は-3～+3です。音は+ (プラス) 側にする则フロント側に、- (マイナス) 側にする则リア側に移動します。

CENTER WIDTH (センター幅)

センタースピーカーの音を、フロントの左右スピーカーに割り振ります。左右での定位感を制御するとき調整します。調整範囲は0～7です。0が最もセンタースピーカー寄りになり、7が最も左右スピーカー寄りになります。設定する値によって、音の割り振りが次のように変化します。

- 0：センタースピーカーだけで、センタースピーカーの音を再生します。フロントの左右スピーカーからは、センターの音の成分は出力されません。
- 3：推奨設定です。センタースピーカーとフロントスピーカーで音をバランスよく配分します。
- 7：センターの音をフロントの左右スピーカーに振り分けて再生します。センタースピーカーからは音は出力されません。

1 Dolby Pro Logic II・ Dolby Digital EX調整画面で、 MUSIC を選ぶ

(※ 96ページ)

MUSIC ADJUSTMENT画面が表示されます。



2 PANORAMA にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

ON → OFF

3 DIMENSION の◀/▶にタッチする

DIMENSION (ディメンション) の値を調整できます。

調整できる範囲は、以下の通りです。

-3～+3

4 CENTER WIDTH の◀/▶にタッチする

CENTER WIDTH (センター幅) を調整できます。

調整できる範囲は、以下の通りです。

0～7

DTS Neo : 6を調整する



調整 から操作します

DTS Neo : 6は、音声を6.1チャンネルに拡張して再生する、マトリクスデコード技術です。サラウンドの効果は、CINEMA/MUSICから選べます。

🔍 サラウンド効果の種類

CINEMA

映画再生に最適なサラウンド効果が得られます。古い映画など2チャンネルステレオで録音された音源でも、映画館特有の移動感などを実現します。

MUSIC

音楽再生に最適なサラウンド効果が得られます。フロントスピーカーからは、原音そのまま再生するため、音質の変化がありません。それに加えて、センター/サラウンド/サラウンドバックのそれぞれのチャンネルの音声、音場に広がり感を与えます。

1 オーディオ設定メニューを表示する

(☞ 91ページ)

2 Dolby/DTS にタッチして DTS Neo : 6 を選ぶ

(☞ 95ページ)

3 Dolby/DTS の 調整 にタッチする

DTS Neo : 6調整画面が表示されます。



4 CINEMA / MUSIC から選んでタッチする

DTS Neo : 6の MUSICを調整する



調整 から操作します

DTS Neo : 6でMUSICを選ぶと、センター幅を調整できます。センタースピーカーの音声をフロントの左右スピーカーに割り振ることで、左右での定位感を制御します。こうして、音色の不一致を緩和し、音楽再生により適した音場を作り出すことができます。

🔍 CENTER IMAGEの設定について

- 調整範囲は0～10です。0が最も左右スピーカー寄りになり、10が最もセンタースピーカー寄りになります。設定する値によって、音の割り振りが次のように変化します。
 - 0：センターの音をフロントの左右スピーカーに振り分けて再生します。センタースピーカーからは音は出力されません。
 - 5：センタースピーカーとフロントスピーカーで音をバランスよく配分します。
 - 10：センタースピーカーだけで、センタースピーカーの音を再生します。フロントの左右スピーカーからは、センターの音の成分は出力されません。

1 DTS Neo : 6調整画面で、MUSIC を選ぶ

MUSIC ADJUSTMENT画面が表示されます。



2 CENTER IMAGE の◀/▶に タッチする

CENTER IMAGE（センター幅）を調整できます。
調整できる範囲は、以下の通りです。
0～10

ご注意

- ・DTS Neo：6は、48 kHzまでのサンプリング周波数で動作します。48 kHzを超えるサンプリング周波数では効果がありません。
- ・**スピーカー設定**（※ 111ページ）で、センタースピーカー、リアスピーカー、およびサラウンドバックスピーカーのすべてをOFFに設定した場合は、この機能は使用できません。

2 チャンネル音声とマルチ チャンネル音声を切り換える

Standard **Network**

Multi-Channel

2-Channel

2CH⇄マルチCH
マルチCH

で操作します

再生中のソースにあわせて、本機のオーディオ出力を2チャンネル（2CH）とマルチチャンネル（マルチCH）に切り換えることができます。

2CHとマルチCHの切り換えについて

- ・2CHに設定すると、音声は2チャンネルのステレオで出力されます。CD、ラジオ、TVなどのステレオ音声を聞くときに使用します。
- ・マルチCHに設定すると、音声はマルチチャンネルで出力されます。DVDビデオなどのマルチチャンネル音声を聞くときに使用します。

ご注意

- ・2チャンネル（2CH）に切り換えると、次の項目が自動的に設定されます。
 - ・ **スピーカー設定**（※ 111ページ）の、フロントセンタースピーカーとリアセンタースピーカーが両方ともOFFになります。
 - ・ **Dolby/DTS** メニュー（※ 95ページ）で、Dolby Pro Logic II・Dolby Digital EXとDTS Neo：6が両方ともOFFになります。

1 オーディオ設定メニューを表示する （※ 91ページ）

2 2CH⇄マルチCH にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

2CH → マルチCH

メモ

- ・本体の【2ch/MULTI-CH】ボタンでも、切り換えることができます。
- ・（2ch/Multi） ボタンを押して、切り換えることもできます。

音質・音場の調整

SOUND SETTINGの 設定内容を切り換える

Standard **Network**

Multi-Channel

2-Channel

SOUND SETTING調整
SETTING1 で操作します

SOUND SETTINGの登録内容は、ワンタッチで呼び出せます。

1 **AVメニュー**にタッチする

オーディオ設定メニューが表示されます。



2 **SOUND SETTING**にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

SETTING1 (ユーザー設定1)

→ SETTING2 (ユーザー設定2)

→ SETTING3 (ユーザー設定3)

→ AUTO (オートTA&EQ設定)

メモ

- AUTOは、オートTA&EQ (※144ページ) を操作したときだけ切り換わります。
- AUTOの設定内容を調整することはできません。
- SOUND SETTING調整メニューの**SETTING** タブにタッチしても操作できません。ただし、その場合は、AUTOは選べません。
- 本体の【SOUND SETTING】ボタンでも、切り換えることができます。
- **終了** にタッチするか、**[BAND]** ボタンを押すと、ソース画面に戻ります。
- **戻る** にタッチするか、**[BACK]** ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

SOUND SETTING調整 メニューを表示する

Standard **Network**

Multi-Channel

2-Channel

SOUND SETTING調整
SETTING1 から操作します

1 **AVメニュー**にタッチする

オーディオ設定メニューが表示されます。

2 **SOUND SETTING**の調整 にタッチする

SOUND SETTING調整メニューが表示されます。

メモ

- **終了** にタッチするか、**[BAND]** ボタンを押すと、ソース画面に戻ります。
- **戻る** にタッチするか、**[BACK]** ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

SOUND SETTING

設定モード一覧

Standard Network

Multi-Channel

2-Channel

リスニングポジション

音場の中心で聞く
(※ 104ページ)

グラフィック
イコライザー
POWERFUL 調整

13バンドグラフィック
イコライザーを使う
(※ 105ページ)

スピーカー
設定
CUSTOM1 調整

スピーカーの有無と
サイズを設定する
(※ 111ページ)

カットオフ
CUSTOM1 調整

スピーカーどうしの
音のつながりを調整する
(※ 114ページ)

タイム
アライメント
INITIAL 調整

タイムアライメントを
調整する
(※ 118ページ)

スピーカー
出力レベル
CUSTOM1 調整

スピーカーの出力レベルを
調整する
(※ 120ページ)

オートイコライザー

オートTA&EQ設定を
ON/OFFする
(※ 123ページ)

名称
変更

SOUND SETTINGの名称を
変更する
(※ 124ページ)

Standard Network

Multi-Channel

2-Channel

リスニングポジション

音場の中心で聞く
(※ 104ページ)

パラメトリック
イコライザー
POWERFUL 調整

3バンドパラメトリック
イコライザーを使う
(※ 108ページ)

スピーカー
設定
CUSTOM1 調整

スピーカーの有無と
サイズを設定する
(※ 111ページ)

カットオフ
CUSTOM1 調整

スピーカーどうしの
音のつながりを調整する
(※ 114ページ)

タイム
アライメント
INITIAL 調整

タイムアライメントを
調整する
(※ 118ページ)

スピーカー
出力レベル
CUSTOM1 調整

スピーカーの出力レベルを
調整する
(※ 120ページ)

オートイコライザー

オートTA&EQ設定を
ON/OFFする
(※ 123ページ)

名称
変更

SOUND SETTINGの名称を
変更する
(※ 124ページ)

次ページへ続く

Standard Network

Multi-Channel

2-Channel



音場の中心で聞く
(☞ 104ページ)



13バンドグラフィックイコライザーを使う
(☞ 105ページ)



スピーカーの有無とサイズを設定する
(☞ 111ページ)



スピーカーどうしの音のつながりを調整する
(☞ 114ページ)



タイムアライメントを調整する
(☞ 118ページ)



スピーカーの出力レベルを調整する
(☞ 120ページ)



SOUND SETTINGの名称を変更する
(☞ 124ページ)



メモ

- ネットワークモードでは、オートイコライザーの設定はできません。また、オートTA&EQも操作できません。

Standard Network

Multi-Channel

2-Channel



音場の中心で聞く
(☞ 104ページ)



3バンドパラメトリックイコライザーを使う
(☞ 108ページ)



スピーカーの有無とサイズを設定する
(☞ 111ページ)



スピーカーどうしの音のつながりを調整する
(☞ 114ページ)



タイムアライメントを調整する
(☞ 118ページ)



スピーカーの出力レベルを調整する
(☞ 120ページ)



SOUND SETTINGの名称を変更する
(☞ 124ページ)



メモ

- ネットワークモードでは、オートイコライザーの設定はできません。また、オートTA&EQも操作できません。

タッチキーで各項目に 直接移動する

Standard **Network**

Multi-Channel

2-Channel



調整 から操作します

SOUND SETTINGの設定画面は、ワンタッチで設定したい項目に移動できるように、画面の左側に設定メニューのタッチキーが表示されています。音質・音場設定の効果を確認しながら、メニューを切り換えて使うときに便利です。

1 SOUND SETTING調整メニュー を表示する

(※ 100ページ)

2 リスニングポジションか、各項目 の調整にタッチする

調整メニューが表示されます。



3 画面左側のタッチキーにタッチする

タッチした項目に移動します。
タッチキーの内容は、次のとおりです。

POS : 音場の中心で聞く

(※ 104ページ)

G.EQ : 13バンドグラフィック

イコライザーを使う

(※ 105ページ)

P.EQ : 3バンドパラメトリック

イコライザーを使う

(※ 108ページ)

SP SET : スピーカーの有無と

サイズを設定する

(※ 111ページ)

CUTOFF : スピーカーどうしの

音のつながりを調整する

(※ 114ページ)

TA : タイムアライメントを

調整する

(※ 118ページ)

LEVEL : スピーカーの出力

レベルを調整する

(※ 120ページ)

A.EQ : オートTA&EQ設定を

ON/OFFする

(※ 123ページ)

メモ

- DSPモードがネットワークモードのときは、**A.EQ** は表示されません。

音場の中心で聞く

Standard Network

Multi-Channel

2-Channel

リスニングポジション から操作します

座席位置や人数に合わせて、各スピーカーから出力される音の遅延時間とレベルを自動で調節できます。この機能を使うと、どの座席位置でも自然な音響特性が得られます。

1 SOUND SETTING調整メニューを表示する

(※ 100ページ)

2 リスニングポジションにタッチする

リスニングポジション選択画面が表示されます。



3 フロントレフト / フロントライト / フロント / オール / OFF から選んでタッチする

メモ

- 乗車位置は、以下を参考に選んでください。
フロントレフト
 左ハンドル車に運転者だけがいるとき
フロントライト
 右ハンドル車に運転者だけがいるとき
フロント
 同乗者が助手席にいるとき
ALL
 同乗者が後部座席にいるとき
- 乗車位置を切り換えてSOUND SETTING調整メニューの操作・登録を行うと、以前に別の乗車位置で設定した調整内容は上書きされます。乗車位置を切り換えて、それぞれの内容を登録する場合は、SOUND SETTINGを切り換えて (※ 100ページ) ください。

13バンド グラフィック イコライザーを使う

音質を手軽に調整する



あらかじめ用意されたイコライザーカーブを選ぶだけで、音質を手軽に調整できます。

それぞれのイコライザーカーブの効果

SUPER BASS

低域が厚みを持ち、迫力ある重低音が響きます。

POWERFUL

低域と高域が厚みを持ち、アップテンポな曲がメリハリよく聞こえます。

NATURAL

自然なバランスで、聞き疲れしない心地よい音を再生します。

VOCAL

中高域が厚みを持ち、伸びやかなヴォーカルを際立たせます。

FLAT

音の補正をしません。設定したイコライザーカーブと交互に切り換えて、イコライザーの効果を確認するときに使用してください。

CUSTOM1・CUSTOM2・CUSTOM3

調整したイコライザーカーブが全ソースに共通のカーブとして登録されます。

LAST MEMORY

最後にイコライザーカーブを調整した状態を保持します。ただし、ソースを切り換えたり、本機の電源をOFFにすると、内容はクリアされます。一時的なメモリーとしてご使用ください。

1 SOUND SETTING調整メニュー を表示する

(※ 100ページ)

2 グラフィックイコライザーに タッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

POWERFUL → NATURAL
→ VOCAL → FLAT → CUSTOM1
→ CUSTOM2 → CUSTOM3
→ LAST MEMORY
→ SUPER BASS

メモ

- ・13バンド グラフィックイコライザーの調整 (※ 106ページ) を行っていないときは、LAST MEMORYは選べません。

13バンド グラフィック イコライザーを細かく調整する

Standard **Network**

Multi-Channel

2-Channel



から操作します

本機は、13バンド グラフィックイコライザーを搭載しています。この機能を使うと、周波数ごとに細かくレベルの調整ができます。

1 SOUND SETTING調整メニュー を表示する

(※ 100ページ)

2 グラフィックイコライザーの 調整にタッチする

13バンド グラフィックイコライザー調整画面が表示されます。



3 LR 共通調整にタッチする

左右チャンネル共通で調整するか、左右チャンネル独立で調整するかを選びます。

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

LR 共通調整 → **LR 独立調整**

- LR 共通調整で調整したあと、LR独立調整を選んで微調整することをおすすめします。

4 イコライザーリストにタッチする

イコライザーカーブ選択画面が表示されます。

5 好みのイコライザーカーブ名に タッチする

調整のもとになるイコライザーカーブを選びます。

選んだら **閉じる** にタッチして、イコライザーカーブ選択画面を閉じます。

- **EQ** にタッチして、イコライザーカーブを選ぶこともできます。タッチするたびに、以下のように切り換わります。
POWERFUL → NATURAL → VOCAL
→ FLAT → CUSTOM1 → CUSTOM2
→ CUSTOM3 → LAST MEMORY
→ SUPER BASS

6 スピーカー両側の< / >に タッチする

チャンネルを選びます。

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

レフト (左チャンネル)

→ **ライト (右チャンネル)**

- LR 共通調整を選んでいるときに、左チャンネルと右チャンネルを切り換えて調整することもできます。この場合は、調整しているチャンネルの内容がもう片方のチャンネルの調整内容に影響するため、調整幅が制限されることがあります。

7 < / >にタッチする

タッチするたびに、ミュートのON/OFFが切り換わります。

ミュート中のチャンネルは が表示されます。

8 **◀/▶**にタッチする

調整する周波数を選びます。

選べる周波数は以下の通りです。

50Hz/80Hz/125Hz/200Hz/
315Hz/500Hz/800Hz/
1.25kHz/2kHz/3.15kHz/
5kHz/8kHz/12.5kHz

9 **▲/▼**にタッチする

レベルを調整します。

調整できる範囲は、以下の通りです。

−12 dB ~ +12 dB (2 dB/ステップ)

- 調整のもとになるイコライザーカーブの名称は、画面の右上に表示されます。
- 調整した内容は、LAST MEMORYに一時的に登録されます。全ての調整が終わった後に、CUSTOM1に登録することをおすすめします。

10 手順8と9を繰り返し操作する

11 **メモリ**にタッチする

メモリ番号選択画面が表示されます。



12 **CUSTOM1** / **CUSTOM2** / **CUSTOM3**の中からひとつを選んでタッチする

確認画面が表示されます。

13 **メモリ**を選んでタッチする

設定内容が登録されます。登録しない場合は、**キャンセル** にタッチして登録をキャンセルします。

メモ

- 13バンドグラフィックイコライザーの調整を行っていないときは、**メモリ** にタッチしても効果はありません。
- 13バンドグラフィックイコライザーの調整を行っていないときは、LAST MEMORYは選べません。
- 終了** にタッチするか、**(BAND)** ボタンを押すと、ソース画面に戻ります。
- 戻る** にタッチするか、**(BACK)** ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

3バンドパラメトリック イコライザーを使う

音質を手軽に調整する



あらかじめ用意されたイコライザーカーブを選ぶだけで、音質を手軽に調整できます。

それぞれのイコライザーカーブの効果

SUPER BASS

低域が厚みを持ち、迫力ある重低音が響きます。

POWERFUL

低域と高域が厚みを持ち、アップテンポな曲がメリハリよく聞こえます。

NATURAL

自然なバランスで、聞き疲れしない心地よい音を再生します。

VOCAL

中高域が厚みを持ち、伸びやかなヴォーカルを際立たせます。

FLAT

音の補正をしません。設定したイコライザーカーブと交互に切り換えて、イコライザーの効果を確認するときに使用してください。

CUSTOM1・CUSTOM2・CUSTOM3

調整したイコライザーカーブが全ソースに共通のカーブとして登録されます。

LAST MEMORY

最後にイコライザーカーブを調整した状態を保持します。ただし、ソースを切り換えたり、本機の電源をOFFにすると、内容はクリアされます。一時的なメモリーとしてご使用ください。

1 SOUND SETTING調整メニュー を表示する

(※ 100ページ)

2 パラメトリックイコライザーに タッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

POWERFUL → NATURAL

→ VOCAL → FLAT → CUSTOM1

→ CUSTOM2 → CUSTOM3

→ LAST MEMORY

→ SUPER BASS

メモ

・3バンドパラメトリックイコライザーの調整を行っていないときは、LAST MEMORYは選べません。

3バンドパラメトリックイコライザーを細かく調整する

Standard **Network**

Multi-Channel

2-Channel



から操作します

本機は、3バンドパラメトリックイコライザーを搭載しています。この機能を使うと、スピーカーごとにバンド／中心周波数／レベル／帯域幅（Q）を細かく調整できます。

3バンドパラメトリックイコライザー

- 中心周波数／レベル／帯域幅（Q）を調整できるイコライザーのことを、パラメトリックイコライザーといいます。3バンドパラメトリックイコライザーでは、低音／中音／高音の各バンドに対してこれらを調整できます。調整は、フロント左右／リア左右／センター／サラウンドバックのそれぞれのスピーカーごとに行います。

中心周波数とは

- 各バンドの中心周波数は、1／3オクターブずつのステップで切り換えることができます。ただし、各バンドの中心周波数の間隔は1オクターブ未満にはなりません。

メモ

- センタースピーカーは、音像の定位に大きな影響を及ぼします。このため、他のスピーカーと同時にバランスを取るのとはとても難しい作業です。次の手順で調整することをおすすめします。
 - ① 2チャンネルの音声（CDなど）を再生する
 - ② センタースピーカーを除く全てのスピーカーのバランスを取る
 - ③ 5.1チャンネルの音声（ドルビーデジタルやDTS）を再生する
 - ④ 全体のスピーカーバランスに合わせて、センタースピーカーを調整する

1 SOUND SETTING調整メニューを表示する

（※ 100ページ）

2 パラメトリックイコライザーの調整にタッチする

3バンドパラメトリックイコライザー調整画面が表示されます。



3 LR 共通調整にタッチする

左右チャンネル共通で調整するか、左右チャンネル独立で調整するかを選びます。

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

LR 共通調整 → LR 独立調整

- LR 共通調整で調整したあと、LR独立調整を選んで微調整することをおすすめします。

4 イコライザーリストにタッチする

イコライザーカーブ選択画面が表示されます。

次ページへ続く

5 好みのイコライザーカーブ名にタッチする

調整のもとになるイコライザーカーブを選びます。

選んだら **閉じる** にタッチして、イコライザーカーブ選択画面を閉じます。

- **EQ** にタッチして、イコライザーカーブを選ぶこともできます。タッチするたびに、以下のように切り換わります。

POWERFUL → NATURAL → VOCAL
→ FLAT → CUSTOM1 → CUSTOM2
→ CUSTOM3 → LAST MEMORY
→ SUPER BASS

6 スピーカー 両側の にタッチする

スピーカーを選びます。


タッチするたびに、以下のように切り換わります。

フロント レフト (フロント左)
→ フロント ライト (フロント右)
→ リア レフト (リア左)
→ リア ライト (リア右)
→ センター → サラウンドバック

- LR 共通調整を選んでいるときに、スピーカーを切り換えて調整することもできます。この場合は、調整しているスピーカーの内容がもう片方のスピーカーの調整内容に影響するため、調整幅が制限されることがあります。(フロントレフトとフロントライト、リアレフトとリアライトがそれぞれ影響されることがあります。)

7 にタッチする

タッチするたびに、ミュートの ON/OFF が切り換わります。

ミュート中のスピーカーは  が表示されます。

8 **バンド** にタッチする

調整するバンドを選びます。

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

LOW (低音域)
→ MID (中音域)
→ HIGH (高音域)

9 にタッチする

中心周波数を選びます。

選べる周波数は以下の通りです。

40Hz/50Hz/63Hz/80Hz/
100Hz/125Hz/160Hz/
200Hz/250Hz/315Hz/
400Hz/500Hz/630Hz/
800Hz/1kHz/1.25kHz/
1.6kHz/2kHz/2.5kHz/
3.15kHz/4kHz/5kHz/
6.3kHz/8kHz/10kHz/12.5kHz

- 手順8で選んだバンドによって選べる周波数は異なります。
- 隣り合ったバンドの中心周波数の間隔は1オクターブ未満にはなりません。

10 にタッチする

レベルを調整します。

調整できる範囲は、以下の通りです。

-12 dB ~ +12 dB (2 dB/ステップ)

- 調整のもとになるイコライザーカーブの名称は、画面の右上に表示されます。
- 調整した内容は、LAST MEMORYに一時的に登録されます。全ての調整が終わった後に、CUSTOMに登録することをおすすめします。

11 **Qファクタ** にタッチする

Qファクター（帯域幅）を調整します。タッチするたびに、以下のように切り換わります。

1.2（広い）→3.6（狭い）

12 手順8～11を繰り返し操作する

13 **メモリ** にタッチする

メモリ番号選択画面が表示されます。



14 **CUSTOM1** / **CUSTOM2** / **CUSTOM3** の中からひとつを選んでタッチする

確認画面が表示されます。

15 **メモリ** を選んでタッチする

設定内容が登録されます。登録しない場合は、**キャンセル** にタッチして登録をキャンセルします。



メモ

- 3バンドパラメトリックイコライザーの調整を行っていないときは、**メモリ** にタッチしても効果はありません。
- 3バンドパラメトリックイコライザーの調整を行っていないときは、LAST MEMORYは選べません。
- **終了** にタッチするか、**[BAND]** ボタンを押すと、ソース画面に戻ります。
- **戻る** にタッチするか、**[BACK]** ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

各スピーカーの有無とサイズを設定する

各スピーカーの有無とサイズを設定する



から操作します

スピーカーの有無とサイズ（低音再生能力）を設定できます。この設定により、スピーカーを接続していないチャンネルの音を他のスピーカーに振り分けます。また、低音再生に適したスピーカーの設定をします。



スピーカーサイズ設定のめやす

- 100 Hz以下の周波数の再生能力が基準になります。スピーカーが100 Hz以下の周波数を再生できる場合は、サイズをLARGEにしてください。できない場合は、サイズをSMALLにしてください。スピーカーの再生周波数帯域については、スピーカーの取扱説明書をご覧ください。

次ページへ続く

1 SOUND SETTING調整メニューを表示する

(※ 100ページ)

2 スピーカー設定の調整にタッチする

スピーカーサイズ設定画面が表示されます。



- 2CH⇔マルチCHの切り換え (※ 99ページ) で、2CHを選んでいるときは、センタースピーカー・サラウンドバックスピーカーは表示されません。

3 プリセットキー (例: CUSTOM1) にタッチする

調整のもとになる設定を選びます。タッチするたびに、以下のように切り換わります。

CUSTOM1 → CUSTOM2
→ CUSTOM3 → AUTO
→ LAST MEMORY

- オートTA&EQを行っていないときは、AUTOは選ばません。
- DSPモードがネットワークのときは、AUTOは選ばません。
- スピーカーサイズの調整を行っていないときは、LAST MEMORYは選ばません。

4 それぞれのスピーカーの[◀/▶]にタッチする

スピーカーの有無とサイズを設定します。各スピーカーの設定は、次の中から選べます。

センタースピーカー
OFF/SMALL/LARGE

フロントスピーカー
SMALL/LARGE

リアスピーカー
OFF/SMALL/LARGE

サラウンドバックスピーカー
OFF/SMALL/LARGE

サブウーファー
ON/OFF

- 接続していないスピーカーの設定は、必ずOFFにしてください。
- フロントスピーカーとリアスピーカーの両方をSMALLに設定すると、低音が著しく不足した感じになります。
- 2チャンネルのモノラルソースを再生しているときにドルビープロロジックIIを使うと、次のような現象が起こることがあります。
 - ・ センタースピーカーの設定をSMALLやLARGEにしている場合、センタースピーカーだけから音が出力される。
 - ・ センタースピーカーを接続しないと、音が出力されない。
- サブウーファーを接続したときは、サブウーファーの設定を必ずONにしてください。OFFの場合は、PHASEの設定ができません。
- 調整のもとになる設定の名称は、画面の右上に表示されます。
- 調整した内容は、LAST MEMORYに一時的に登録されます。全ての調整が終わった後に、CUSTOMに登録することをおすすめします。

5 **メモリ**にタッチする

メモリ番号選択画面が表示されます。



6 **CUSTOM1** / **CUSTOM2** / **CUSTOM3**の中からひとつを選んでタッチする

確認画面が表示されます。

7 **メモリ**を選んでタッチする

設定内容が登録されます。登録しない場合は、**キャンセル** にタッチして登録をキャンセルします。

メモ

- スピーカーの有無とサイズの設定を行っていないときは、**メモリ** にタッチしても効果はありません。
- **終了** にタッチするか、**[BAND]** ボタンを押すと、ソース画面に戻ります。
- **戻る** にタッチするか、**[BACK]** ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

調整した内容を選ぶ

Standard **Network**

Multi-Channel

2-Channel

スピーカー設定 **CUSTOM1** **調整** で操作します

スピーカー設定で調整した内容は、ワンタッチで呼び出すことができます。

1 **SOUND SETTING**調整メニューを表示する

(※ 100ページ)

2 **スピーカー設定** にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

CUSTOM1 → **CUSTOM2**
→ **CUSTOM3** → **AUTO**
→ **LAST MEMORY**

メモ

- オートTA&EQを行っていないときは、**AUTO**は選ばません。
- DSPモードがネットワークのときは、**AUTO**は選ばません。
- スピーカーの調整を行っていないときは、**LAST MEMORY**は選ばません。

スピーカーどうしの音の つながりを調整する

各スピーカーのカットオフ 周波数を調整する

Standard **Network**

Multi-Channel

2-Channel

カット
CUSTOM1

調整

から操作します

スピーカーどうしの音のつながりを調整するために、カットオフ周波数やスロープを設定します。



カットオフ周波数とは

- 複数のスピーカーで構成されるシステムで、それぞれのスピーカーが再生する周波数帯域の境界のことです。



スロープとは

- 周波数が1オクターブ高く（低く）なったとき、信号が何dB減衰するかを表す値です（単位：dB/oct.）。特性上の傾きを大きくすると、信号が減衰する度合いが大きくなります。本機は、スピーカーによって-18（dB/oct.）、-12（dB/oct.）、-6（dB/oct.）、0（パス）の中から選んで設定できます。スロープを調節することで、それぞれのスピーカーの音のつながりを調節できます。



LPF（ローパスフィルター）とは

- LPFは「Low Pass Filter（ローパスフィルター）」の略です。設定した周波数より高い帯域（高域）をカットして、低い帯域の音を再生します。



HPF（ハイパスフィルター）とは

- HPFは「High Pass Filter（ハイパスフィルター）」の略です。設定した周波数より低い帯域（低域）をカットして、高い帯域の音を再生します。



サブウーファースの位相切り換えとは

- サブウーファーから出力される音の中には、フロント/リアスピーカーなどから出力される音と同じ周波数帯域の成分が含まれています。車内条件により、これらの音の位相同士が反転（干渉）すると、その周波数帯域どうしが打ち消し合ってしまうことがあります。この現象を防ぐものが、サブウーファースの位相切り換えです。車内条件によってNORMAL（正相：他のスピーカーと同時に出力される）がいいか、REVERSE（逆相：他のスピーカーとタイミングをずらして出力される）が良いかを選んで設定してください。



メモ

- カットオフ周波数は、スピーカーの有無をONに設定したサブウーファーおよびスピーカーサイズをSMALLに設定したスピーカーで調整できます。サイズをLARGEに設定したスピーカーでは、カットオフ周波数の調整はできません。ただし、ネットワークモード時のフロント（レフト・ライト）HIGHのHigh Passと、フロント（レフト・ライト）MIDのLow Passは、スピーカー設定の内容にかかわらず、カットオフ周波数の調整ができます。
- サブウーファーでカットオフ周波数を設定すると、選んだ周波数より低い帯域の音だけが再生されます。高い帯域の音はカットされて、SMALLまたはLARGEに設定したスピーカーから再生されます。
- SMALLに設定したスピーカーでカットオフ周波数を設定すると、選んだ周波数より高い帯域の音だけが再生されます。低い帯域の音はカットされて、サブウーファーまたはLARGEに設定したスピーカーから再生されます。

1 SOUND SETTING調整メニューを表示する

(※ 100ページ)

2 カットオフの調整にタッチする

スピーカー選択画面が表示されます。



3 プリセットキー (例: CUSTOM1) にタッチする

調整のもとになる設定を選びます。タッチするたびに、以下のように切り換わります。

CUSTOM1 → CUSTOM2
→ CUSTOM3 → AUTO
→ LAST MEMORY

- オートTA&EQを行っていないときは、AUTOは選べません。
- DSPモードがネットワークのときは、AUTOは選べません。
- カットオフの調整を行っていないときは、LAST MEMORYは選べません。

4 調整したいスピーカーのタッチキーにタッチする

カットオフ周波数調整画面が表示されます。



- スピーカーの有無とサイズの設定 (※ 111ページ) でOFFにしたスピーカーは選べません。(OFFと表示されます。)
- スピーカーの有無とサイズの設定 (※ 111ページ) でLARGEに設定したスピーカーは選べません。(THROUGHと表示されます。)

5 フィルター (例: LOW PASS) にタッチする

(DSPモードをネットワークに設定したときだけ操作できます)

LPFとHPFを切り換えます。

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

LOW PASS → HIGH PASS

- フィルターの切り換えができるのは、フロント (レフト・ライト) MIDスピーカーだけです。

次ページへ続く

6 カットオフ周波数のにタッチする

カットオフ周波数を選びます。
 選べる周波数は以下の通りです。

フロント

フロント MID : HIGH PASS

リア

センター

サラウンドバック

サブウーファー

50Hz/63Hz/80Hz/100Hz/

125Hz/160Hz/200Hz

フロント HIGH

フロント MID : LOW PASS

1.25kHz/1.6kHz/2kHz/2.5kHz/

3.15kHz/4kHz/5kHz/6.3kHz/

8kHz/10kHz/12.5kHz



メモ

- DSPモードの設定と、チャンネルの設定によって、調整できるスピーカーとフィルターの内容が異なります。それぞれの内容は、次のようになっています。

DSPモード：スタンダード

チャンネル設定：2CH

フロント/リア/サブウーファー

DSPモード：スタンダード

チャンネル設定：マルチCH

センター/フロント/リア/

サラウンドバック/サブウーファー

DSPモード：ネットワーク

チャンネル設定：2CH

フロントHIGH/フロントMID/リア/

サブウーファー

DSPモード：ネットワーク

チャンネル設定：マルチCH

センター/フロントHIGH/フロントMID/

リア/サラウンドバック/サブウーファー

7 スロープのにタッチする

スロープを選びます。

選べるスロープは以下の通りです。

フロント

フロント MID : HIGH PASS

リア

センター

サラウンドバック

-6dB/-12dB/-18dB

フロント HIGH

-6dB/-12dB

フロント MID : LOW PASS

0dB/-6dB/-12dB

サブウーファー

0dB/-6dB/-12dB/-18dB

8 位相のにタッチする

(サブウーファーを調整しているときだけ操作できます)

サブウーファーの位相を選びます。
 選べる位相は以下の通りです。

NORMAL (正相)

→ REVERSE (逆相)

9 ミュート (例：**ミュートOFF**) にタッチする

調整中のスピーカーのミュートのON/OFFを切り換えます。

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

ミュート ON → ミュート OFF

- ミュートしたスピーカーからは音が出なくなります。スピーカーの調整バランスを確かめるときなどにご使用ください。

10 **戻る** にタッチして、スピーカー選択画面に戻る

11 手順4～8を繰り返し操作して、全てのスピーカーを調整する

12 **戻る** にタッチして、スピーカー選択画面に戻る

13 **メモリ** にタッチする

メモリ番号選択画面が表示されます。



14 **CUSTOM1 / CUSTOM2 / CUSTOM3** の中からひとつを選んでタッチする

確認画面が表示されます。

15 **メモリ** を選んでタッチする

設定内容が登録されます。登録しない場合は、**キャンセル** にタッチして登録をキャンセルします。

 **メモ**

- スピーカーの調整を行っていないときは、**メモリ** にタッチしても効果はありません。
- **終了** にタッチするか、**(BAND)** ボタンを押すと、ソース画面に戻ります。
- **戻る** にタッチするか、**(BACK)** ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

調整した内容を選ぶ



で操作します
カットオフ周波数調整で登録した内容は、ワンタッチで呼び出すことができます。

1 **SOUND SETTING調整メニュー** を表示する

(※ 100ページ)

2 **カットオフ** にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

CUSTOM1 → CUSTOM2
→ CUSTOM3 → AUTO
→ LAST MEMORY

 **メモ**

- オートTA&EQを行っていないときは、AUTOは選べません。
- DSPモードがネットワークのときは、AUTOは選べません。
- カットオフ周波数の調整を行っていないときは、LAST MEMORYは選べません。

タイムアライメントを調整する

タイムアライメントを調整する

Standard **Network**

Multi-Channel

2-Channel



から操作します

各スピーカーから乗車位置までの距離を設定することで、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調整できます。リスニングポジションの設定(※104ページ)による乗車位置の設定で自動的に調整されますが、タイムアライメントではさらに細かく調整できます。

調整する前に

- リスニングポジションの設定(※104ページ)で、**フロントライト**か**フロントレフト**を選んでください。それ以外の乗車位置を選んでいると、画面に警告文が表示され、タイムアライメントの調整ができません。

1 SOUND SETTING調整メニューを表示する

(※100ページ)

2 タイムアライメントの調整にタッチする

タイムアライメント調整画面が表示されます。



3 プリセットキー(例: CUSTOM1)にタッチする

調整のもとになる設定を選びます。タッチするたびに、以下のように切り換わります。

INITIAL → CUSTOM1
→ CUSTOM2 → CUSTOM3
→ AUTO → LAST MEMORY
→ OFF

- オートTA&EQを行っていないときは、AUTOは選べません。
- DSPモードがネットワークのときは、AUTOは選べません。
- タイムアライメントの調整を行っていないときは、LAST MEMORYは選べません。

4 それぞれのスピーカーの<左/>にタッチする

スピーカーとリスニングポジションの間の距離を調節します。

調節できる範囲は、以下の通りです。

0.0 cm ~ 500.0 cm
(2.5 cm/ステップ)

- 調整のもとになるタイムアライメントの名称は、画面の右上に表示されます。
- 調整した内容は、LAST MEMORYに一時的に登録されます。全ての調整が終わった後に、CUSTOM1に登録することをおすすめします。

5 ミュートにタッチする

調整中のスピーカーのミュートのON/OFFを切り換えます。

タッチするたびに、ミュートのON/OFFが切り換わります。

- ミュートしたスピーカーからは音が出なくなります。タイムアライメントの調整バランスを確かめるときなどにご使用ください。

6 手順4、5を繰り返し操作して、タイムアライメントを調整する

7 **メモリ**にタッチする

メモリ番号選択画面が表示されます。



8 **CUSTOM1** / **CUSTOM2** / **CUSTOM3**の中からひとつを選んでタッチする

確認画面が表示されます。

9 **メモリ**を選んでタッチする

設定内容が登録されます。登録しない場合は、**キャンセル** にタッチして登録をキャンセルします。

メモ

- タイムアライメントの調整を行っていないときは、**メモリ** にタッチしても効果はありません。
- **終了** にタッチするか、**[BAND]** ボタンを押すと、ソース画面に戻ります。
- **戻る** にタッチするか、**[BACK]** ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

調整した内容を選ぶ



カットオフ周波数調整で登録した内容は、ワンタッチで呼び出すことができます。

1 **SOUND SETTING**調整メニューを表示する

(※ 100ページ)

2 **タイムアライメント** にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

INITIAL → CUSTOM1
→ CUSTOM2 → CUSTOM3
→ AUTO → LAST MEMORY
→ OFF

メモ

- オートTA&EQを行っていないときは、AUTOは選べません。
- DSPモードがネットワークのときは、AUTOは選べません。
- タイムアライメントの調整を行っていないときは、LAST MEMORYは選べません。

スピーカーの出力レベルを調整する

スピーカーシステム全体のバランスを整えたいときに、各スピーカーの出力レベルを調整します。

テストトーンを聞きながら調整する



から操作します

テストトーンを使って、スピーカーシステム全体の出力レベルのバランスを整えます。調整した後、実際の音を聞きながら微調整することもできます。

1 SOUND SETTING調整メニューを表示する

(※ 100ページ)

2 スピーカー出力レベルの調整にタッチする

スピーカー出力レベル調整画面が表示されます。



3 プリセットキー(例: CUSTOM1)にタッチする

調整のもとになる設定を選びます。タッチするたびに、以下のように切り換わります。

CUSTOM1 → CUSTOM2
→ CUSTOM3 → AUTO
→ LAST MEMORY

- オートTA&EQを行っていないときは、AUTOは選ばません。
- DSPモードがネットワークのときは、AUTOは選ばません。
- スピーカー出力レベルの調整を行っていないときは、LAST MEMORYは選ばません。

4 テストトーンにタッチする

テストトーンが出力されます。テストトーンが出力される順番は、以下のとおりです。

フロント左スピーカー
→ センタースピーカー
→ フロント右スピーカー
→ リア右スピーカー
→ サラウンドバックスピーカー
→ リア左スピーカー
→ サブウーファー

- 2CHモードのときは、センタースピーカーとサラウンドバックスピーカーには切り換わりません。
- ネットワークモード時、フロントHIGHスピーカー(トゥイーター)の独立調整はできません。
- スピーカーの有無とサイズの設定(※ 111ページ)でOFFに設定したスピーカーには切り換わりません。

5 それぞれのスピーカーの $\left[\leftarrow \right] / \left[\rightarrow \right]$ にタッチする

出力レベルを調整します。
調節できる範囲は、以下の通りです。
-24dB ~ +10dB (1dB/ステップ)

- ・出力レベルを調整している間、次のスピーカーには切り換わりません。

6 停止 にタッチする

テストトーンの出力が停止します。

7 メモリ にタッチする

メモリ番号選択画面が表示されます。



8 CUSTOM1 / CUSTOM2 / CUSTOM3 の中からひとつを選んでタッチする

確認画面が表示されます。

9 メモリを選んでタッチする

設定内容が登録されます。登録しない場合は、**キャンセル** にタッチして登録をキャンセルします。

メモ

- ・スピーカー出力レベルの調整を行っていないときは、**メモリ** にタッチしても効果はありません。
- ・**終了** にタッチするか、**[BAND]** ボタンを押すと、ソース画面に戻ります。
- ・**戻る** にタッチするか、**[BACK]** ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

実際の音を聞きながら調整する



から操作します

実際の音を聞きながら、スピーカーシステム全体の出力レベルのバランスを整えます。テストトーンを使って調整したあとの微調整に使うと便利です。

1 SOUND SETTING調整メニューを表示する

(※ 100ページ)

2 スピーカー出力レベルの調整にタッチする

スピーカー出力レベル調整画面が表示されます。



次ページへ続く

3 プリセットキー（例：CUSTOM1） にタッチする

調整のもとになる設定を選びます。
タッチするたびに、以下のように切り
換わります。

CUSTOM1 → CUSTOM2
→ CUSTOM3 → AUTO
→ LAST MEMORY

- オートTA&EQを行っていないときは、AUTOは選べません。
- DSPモードがネットワークのときは、AUTOは選べません。
- スピーカー出力レベルの調整を行っていないときは、LAST MEMORYは選べません。

4 それぞれのスピーカーの◀/▶に タッチする

出力レベルを調整します。
調整できる範囲は、以下の通りです。
-24dB ~ +10dB（1dB/ステップ）

5 メモリにタッチする

メモリ番号選択画面が表示されます。



6 CUSTOM1 / CUSTOM2 / CUSTOM3の中からひとつを選 んでタッチする

確認画面が表示されます。

7 YESを選んでタッチする

設定内容が登録されます。登録しない
場合は、NO にタッチして登録を
キャンセルします。

メモ

- スピーカー出力レベルの調整を行っていないときは、メモリにタッチしても効果はありません。
- 終了 にタッチするか、BAND ボタンを押すと、ソース画面に戻ります。
- 戻る にタッチするか、BACK ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

調整した内容を選ぶ



から操作します

スピーカー出力レベル調整で登録した内容は、ワンタッチで呼び出すことができます。

1 SOUND SETTING調整メニューを表示する

(※ 100ページ)

2 **スピーカー出力レベル** にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

CUSTOM1 → CUSTOM2
→ CUSTOM3 → AUTO
→ LAST MEMORY

メモ

- オートTA&EQを行っていないときは、AUTOは選べません。
- DSPモードがネットワークのときは、AUTOは選べません。
- スピーカー出力レベルの調整を行っていないときは、LAST MEMORYは選べません。

オートTA&EQ設定をON/OFFする



から操作します

から操作します

オートTA&EQ (※ 145ページ) で自動設定した設定内容を使用するかどうか選びます。

1 SOUND SETTING調整メニューを表示する

(※ 100ページ)

2 **オートイコライザー** にタッチする

- オートTA&EQを行っていないときは、画面に「ソースをOFFし初期設定にてオートTA&EQ設定をしてください。」と表示されます。この場合は、操作ができません。

3 **ON** を選んでタッチする

オートイコライザーの調整内容を使用します。使用しない場合は、**OFF** にタッチします。

メモ

- **終了** にタッチするか、**(BAND)** ボタンを押すと、ソース画面に戻ります。
- **戻る** にタッチするか、**(BACK)** ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

SOUND SETTINGの 名称を変更する

Standard Network

Multi-Channel

2-Channel

名称
変更

から操作します

SOUND SETTINGの設定内容 (SETTING1、2、3) のそれぞれの名称を変更することができます。名称は10文字まで入力できます。

1 SOUND SETTING調整メニュー を表示する

(※ 100ページ)

2 名称を変更したい設定のタブ (例：SETTING1) にタッチ する

選んだ設定内容の名称を変更します。

3 名称変更 にタッチする

設定名称変更画面に切り換わります。



4 </> にタッチする

入力する位置を選びます。


5 ABC にタッチする

入力文字種選択画面が表示されます。

6 好みの文字種にタッチする

文字の種類を選びます。
カタカナ、アルファベット、数字／記号から選ぶことができます。

7 文字や数字にタッチする

文字や数字が入力できます。
スペースを入れるときは、 にタッチします。

消去するときには、 にタッチします。

8 メモリにタッチする

入力した内容が登録され、SOUND SETTING調整メニューに戻ります。

- **メモリ** にタッチする前に画面を切り換えると、入力中の内容は消去されます。

メモ

- **終了** にタッチするか、**BAND** ボタンを押すと、ソース画面に戻ります。
- **戻る** にタッチするか、**BACK** ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

DVDの設定

DVD設定メニューを表示する

DVD

音声、字幕や視聴制限などの、内蔵プレーヤーの設定を行います。

1 ソースを内蔵プレーヤーに切り換える

(☞ 27ページ)

2 AVメニューにタッチする

メインメニューが表示されます。

3 DVD設定 タブにタッチする

DVD設定メニューが表示されます。



メモ

- **終了** にタッチするか、**(BAND)** ボタンを押すと、ソース画面に戻ります。
- **戻る** にタッチするか、**(BACK)** ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

DVD設定モード一覧

DVD

基本字幕

字幕言語を設定する
(☞ 126ページ)

基本音声

音声言語を設定する
(☞ 127ページ)

メニュー言語

メニュー言語を設定する
(☞ 128ページ)

アシスト字幕 非表示

アシスト字幕の表示/非表示を切り換える
(☞ 129ページ)

マルチアングル 表示

マルチアングルマークの表示/非表示を切り換える
(☞ 129ページ)

テレビアスペクト 16:9

テレビアスペクトを設定する
(☞ 130ページ)

視聴制限

視聴制限 (パレンタルロック) を設定する
(☞ 130ページ)

ポーズモード 自動

ポーズモードを切り換える
(☞ 132ページ)

ボーナスグループ

ボーナスグループを再生する
(☞ 132ページ)

DivX VOD

DivX VODの登録コードを確認する
(☞ 133ページ)

字幕言語を設定する

DVD

基本字幕 から操作します

字幕として優先的に表示したい言語を設定します。

字幕言語の一覧から選択する

1 DVD設定メニューを表示する

(※ 125ページ)

2 基本字幕 にタッチする

基本字幕選択画面が表示されます。



3 希望の言語にタッチする

メモ

- 設定した言語がディスクに収録されていないときは、ディスクで指定されている言語が表示されます。

「その他」から選択する

「その他」を選択すると、言語コードを入力できます。言語コード表 (※ 164ページ) を参照して、言語コードを入力してください。

1 DVD設定メニューを表示する

(※ 125ページ)

2 基本字幕 にタッチする

基本字幕選択画面が表示されます。

3 その他 にタッチする

言語コード入力画面が表示されます。

4 言語コードを入力して、決定 にタッチする

入力した言語コードの言語が設定されます。

メモ

- C (クリア) にタッチすると、入力した数字を消して、現在設定されている言語コードを表示します。

音声言語を設定する

DVD

基本音声

から操作します

音声として優先したい言語を設定します。

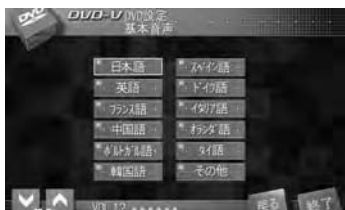
音声言語の一覧から選択する

1 DVD設定メニューを表示する

(※ 125ページ)

2 基本音声 にタッチする

基本音声選択画面が表示されます。



3 希望の言語にタッチする

メモ

- 設定した言語がディスクに収録されていないときは、ディスクで指定されている言語が出力されます。

「その他」から選択する

「その他」を選択すると、言語コードを入力できます。言語コード表 (※ 164ページ) を参照して、言語コードを入力してください。

1 DVD設定メニューを表示する

(※ 125ページ)

2 基本音声 にタッチする

基本音声選択画面が表示されます。

3 その他 にタッチする

言語コード入力画面が表示されます。

4 言語コードを入力して、決定 にタッチする

入力した言語コードの言語が設定されます。

メモ

- C** (クリア) にタッチすると、入力した数字を消して、現在設定されている言語コードを表示します。

メニュー言語を設定する

DVD

メニュー言語 から操作します

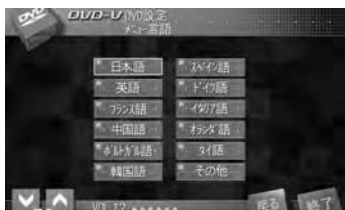
メニューとして優先したい言語を設定します。

メニュー言語の一覧から 選択する

1 DVD設定メニューを表示する (※ 125ページ)

2 **メニュー言語** にタッチする

メニュー言語選択画面が表示されます。



3 希望の言語にタッチする

メモ

- 設定した言語がディスクに収録されていないときは、ディスクで指定されている言語が表示されます。

「その他」から選択する

「その他」を選択すると、言語コードを入力できます。言語コード表 (※ 164ページ) を参照して、言語コードを入力してください。

1 DVD設定メニューを表示する (※ 125ページ)

2 **メニュー言語** にタッチする

メニュー言語選択画面が表示されます。

3 **その他** にタッチする

言語コード入力画面が表示されます。

4 言語コードを入力して、**決定** に タッチする

入力した言語コードの言語が設定されます。

メモ

- **C** (クリア) にタッチすると、入力した数字を消して、現在設定されている言語コードを表示します。

アシスト字幕の表示／非表示を切り換える

DVD


 アシスト字幕
非表示

で操作します

アシスト字幕の表示／非表示を設定します。

アシスト字幕とは

- 耳の不自由な方などのために、場面の状況を説明する字幕です。ただし、アシスト字幕は、ディスクに収録されている場合にだけ表示できます。

1 DVD設定メニューを表示する

(※ 125ページ)

2 **アシスト字幕** にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

非表示 → 表示

マルチアングルマークの表示／非表示を切り換える

DVD


 マルチアングル
表示

で操作します

マルチアングルで収録されたディスクで、アングル切り換えができる場面を再生している間、マルチアングルマークを表示することができます。ここでは、マルチアングルマークの表示／非表示を設定します。

1 DVD設定メニューを表示する

(※ 125ページ)

2 **マルチアングル** にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

表示 → 非表示

テレビアスペクトを設定する

DVD

テレビアスペクト
16:9

で操作します

画面の表示比率を設定します。ディスクに収録された映像（画像）の比率に合わせて設定します。

テレビアスペクトの種類

16:9

ワイドモニターに最適な設定です。

レターボックス

上下に黒い帯のある画面になります。通常、4:3のモニターで使用します。

パンスカン

左右の切れた画面になります。通常、4:3のモニターで使用します。

1 DVD設定メニューを表示する

(※ 125ページ)

2 テレビアスペクトにタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

16:9 → レターボックス

→ パンスカン



メモ

- ・パンスカン指定されていないディスクを再生したときは、「パンスカン」に設定しても「レターボックス」での再生になります。
- ・ディスクによっては、テレビアスペクトの変更ができないものもあります。詳しくは、ディスクの説明書をご覧ください。
- ・DivXファイル再生時は、テレビアスペクトの設定によっては、画像の左右および上下に黒帯が付くことがあります。

視聴制限（パレンタルロック）を設定する

DVD

視聴制限

で操作します

ディスクによっては、成人向けの内容や暴力シーンなど、子供に見せたくない場面の視聴を制限できるものがあります。視聴制限は、レベルによって段階的に設定できます。



視聴制限レベルのめやす

レベル8

すべてのディスクを再生します。

レベル7～2

成人向けのディスクの視聴を制限します。子供向けや、一般向けのディスクを再生します。

レベル1

子供向けディスクのみ再生します。



メモ

- ・はじめて視聴制限を設定するときは、まず暗証番号を設定します。暗証番号を設定しないと、視聴制限は設定できません。
- ・視聴制限レベルは、ディスクに記録されています。ディスクのパッケージなどでご確認ください。なお、視聴制限レベルが記録されていないディスクでは、レベル設定しても視聴制限は設定できません。
- ・ディスクによっては、視聴制限された場面だけを飛ばして再生するものもあります。詳しくは、ディスクの説明書をご覧ください。

暗証番号とレベルを設定する

1 DVD設定メニューを表示する

(※ 125ページ)

2 **視聴制限** にタッチする

暗証番号入力画面が表示されます。



3 暗証番号を入力する

- **C** (クリア) にタッチすると、入力した数字を消すことができます。
- 登録した暗証番号は、忘れないようにメモしておくことをお勧めします。

4 **決定** にタッチする

暗証番号が設定され、レベル設定画面が表示されます。

5 希望のレベルの数字にタッチする

視聴制限レベルが設定されます。

メモ

- **終了** にタッチするか、**(BAND)** ボタンを押すと、ソース画面に戻ります。
- **戻る** にタッチするか、**(BACK)** ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

レベルを変更する

1 DVD設定メニューを表示する

(※ 125ページ)

2 **視聴制限** にタッチする

暗証番号入力画面が表示されます。

3 暗証番号を入力して、**決定** にタッチする

レベル設定画面が表示されます。

- 間違った暗証番号を入力すると、BEEP音が鳴り、番号が間違っていることを知らせます。正しい暗証番号を入力してください。
- 暗証番号を忘れてしまったときは、「暗証番号を忘れたときは(下記)」をご覧ください。

4 希望のレベルの数字にタッチする

視聴制限レベルが変更されます。

メモ

- **終了** にタッチするか、**(BAND)** ボタンを押すと、ソース画面に戻ります。
- **戻る** にタッチするか、**(BACK)** ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

視聴制限されたディスクを再生するとき

視聴制限されたディスクを再生しようとしたとき、暗証番号の入力画面が表示されることがあります。この場合、暗証番号を入力しないと再生は始まりません。

暗証番号を忘れたときは

「レベルを変更する」の手順3で、**C** (クリア) に10回タッチします。登録した暗証番号が解除されるので、新しい暗証番号を入力します。

ポーズモードを切り換える

DVD

ポーズモード
自動

で操作します

DVDビデオ、DVDオーディオ（VOB）およびDivX再生時の、一時停止時の画質を変更できます。

▶ ポーズモードの種類

自動

フィールドとフレームを自動的に切り換えます。通常はこの設定にしておきます。

フィールド

静止画面が常にブレないようにしたいときに設定します。ただし、映像情報がフレームの半分になるため、画質は落ちます。

フレーム

静止画面を常によい画質にしたいときに設定します。ただし、フィールドが交互に映し出されるため、画面がブレることがあります。

1 DVD設定メニューを表示する

(※ 125ページ)

2 **ポーズモード**にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

自動 → フィールド → フレーム

ボーナスグループを再生する

DVD

ボーナスグループ

から操作します

DVDオーディオには、「ボーナスグループ」と呼ばれるグループを収録したディスクがあります。ボーナスグループを再生するには、4桁の暗証番号を入力します。

1 DVD設定メニューを表示する

(※ 125ページ)

2 **ボーナスグループ**にタッチする

暗証番号入力画面が表示されます。



3 暗証番号を入力する

- 暗証番号は、ディスクのパッケージなどで確認してください。
- **C** (クリア) にタッチすると、入力した数字を消すことができます。

4 **決定**にタッチする

ボーナスグループの再生が可能になります。

DivX VODの 登録コードを確認する

DVD

DivX VOD

で操作します

DivX VODとは、「DivX Video On Demand (ビデオ オン デマンド)」の略です。

DivX VODファイルを再生する場合、そのDivX VODファイルの配信先に対して、本機の登録コードが必要な場合があります。そのような場合に、本機の登録コードを確認できます。



メモ

- DivX VODファイルは、DRMコピープロテクションがかかっています。DivX VODファイルは、登録されたプレーヤーでのみ再生ができます。
- 本機の登録コードが承認されていないDivX VODファイルを再生すると、警告メッセージが表示され、再生できません。
- DivX VODファイルには、視聴回数が設定されているものがあります。そのようなDivX VODファイルを本機で再生すると残りの視聴可能回数が表示されます。残りの視聴可能回数が0になったファイルを本機に挿入すると、警告メッセージが表示され、再生できません。
- 視聴回数の設定されていないDivX VODファイルは、何度でも再生できます。

1 DVD設定メニューを表示する

(※ 125ページ)

2 DivX VOD にタッチする

DivX VODの登録コードが表示されます。登録コードは8桁の英数字になっています。



登録コード

システム設定

システム設定メニューを表示する

本機に接続したシステムに関する設定を行います。また、本機のサブディスプレイなどの設定もここでを行います。

1 **AVメニュー** にタッチする

メインメニューが表示されます。

2 **システム設定** タブにタッチする









システム設定メニューが表示されます。



メモ

- **終了** にタッチするか、**[BAND]** ボタンを押すと、ソース画面に戻ります。
- **戻る** にタッチするか、**[BACK]** ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

システム設定モード一覧

- | | |
|---|---|
|  | AV入力を設定する
(※ 135ページ) |
|  | AV入力を設定する
(※ 135ページ) |
|  | バックカメラの極性を設定する
(※ 135ページ) |
|  | モニターの自動開閉を設定する
(※ 136ページ) |
|  | モニターのセットバックを設定する
(※ 136ページ) |
|  | 時計を設定する
(※ 137ページ) |
|  | リアモニターの表示を設定する
(※ 137ページ) |
|  | 夜間のサブディスプレイの明るさを切り換える
(※ 138ページ) |
|  | サブディスプレイのコントラストを切り換える
(※ 138ページ) |

AV入力を設定する



で操作します

ビデオやDVDプレーヤー、バックカメラなどの外部機器を本機に接続した場合、機器にあった設定に切り換えます。

設定の内容

OFF

AV入力に何も接続しない場合、この設定にします。

ビデオ

ビデオ機器を接続した場合、この設定にします。(ソースを「AV」にしたときに、ビデオ機器の映像を見ることができます。)

S-DVD

DVDプレーヤーをRCAコードで接続した場合、この設定にします。(ソースを「S-DVD」にしたときに、DVDプレーヤーの映像を見ることができます。)

バックカメラ

別売のバックカメラ(例:「ND-BC2」)を接続した場合、この設定にします。車のシフトレバーをR(リバース)の位置にしたとき、バックカメラの映像をモニターに映します。

1 システム設定メニューを表示する

(※ 134ページ)

2 **AV INPUT1** または **AV INPUT2** にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

AV INPUT1

OFF → ビデオ → S-DVD

AV INPUT2

OFF → ビデオ → バックカメラ

メモ

- 市販のバックカメラを使用する場合は、鏡像タイプをおすすめします。

バックカメラの極性を設定する



で操作します

車種によって、車のシフトレバーをR(リバース)にしたときの電圧が異なります。車のシフトレバーがR(リバース)の位置でバックカメラの映像が正しく表示されるように設定します。

設定の内容

HIGH

車のシフトレバーをR(リバース)にしたときに、バック信号線の電圧が「HIGH」になる場合、この設定にします。

LOW

車のシフトレバーをR(リバース)にしたときに、バック信号線の電圧が「LOW」になる場合、この設定にします。

1 システム設定メニューを表示する

(※ 134ページ)

2 **バックカメラ極性設定** にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

HIGH → LOW

メモ

- バックカメラの映像に正しく切り換わるように、必ずバック信号線を接続してください。
- 通常走行時、バックカメラ映像が表示されたり、シフトレバーをR(リバース)にいれても、バックカメラ映像が表示されない場合は、極性設定を確認してください。
- バックカメラ映像表示中に、【V.ADJUST】ボタンを長く押しすと、バックカメラの映像を解除します。

モニターの自動開閉を設定する



で操作します

車のエンジンスイッチをACC（またはON）やOFFにしたとき、モニターが自動で開閉するかを設定します。

1 システム設定メニューを表示する

(※ 134ページ)

2 オートフラップ設定にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

オート（自動開閉）

→ マニュアル（手動開閉）



メモ

- シフトレバーなどにモニターが当たってしまうときは、「マニュアル」に設定し、【OPEN/CLOSE】ボタンを押してモニターを開閉してください。

モニターのセットバックを設定する



で操作します

立ち上がったモニターを後ろに下げることができます。

1 システム設定メニューを表示する

(※ 134ページ)

2 フラップセットバックにタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

OFF → ON



メモ

- 設定を切り換えると同時にモニターが動きます。

時計を設定する

時刻設定

で操作します

サブディスプレイに表示される時計の設定ができます。

1 システム設定メニューを表示する

(☞ 134ページ)

2 時刻設定 にタッチする

時刻設定画面が表示されます。



3 時刻を入力する

- 入力は、24時間単位で行います。
- **C** (クリア) にタッチすると、入力した数字を消し、設定されている時刻を表示します。

4 メモリ にタッチする

時刻が設定され、サブディスプレイに表示されます。

5 12h (24h) にタッチする

サブディスプレイに表示される時刻の設定が切り換わります。

設定の内容

12h

時間を12時間単位で表示します。

24h

時間を24時間単位で表示します。

リアモニターの表示を設定する

リア映像出力

セパレート

で操作します

リアモニターに表示される映像を設定します。リアモニターに、フロントモニターと同じ映像を表示させるか、フロントモニターとは別の映像を表示させるかを設定できます。

設定の内容

セパレート

フロントモニターとは別の、お好みのソースの映像を表示します。

フロントソース

フロントモニターと同じ映像を表示します。

1 システム設定メニューを表示する

(☞ 134ページ)

2 リア映像出力 にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

セパレート → フロントソース

メモ

- 「フロントソース」を選択した場合に、音声ソース（ラジオやCDなど）を選択すると、リアモニターには何も表示されません。
- 「フロントソース」を選択すると、リアモニター出力からは音声が出されません。

夜間のサブディスプレイの明るさを切り換える



で操作します

車のヘッドライトに連動して、サブディスプレイを暗くできます。夜間の運転中など、周囲が暗くなったときにサブディスプレイのまぶしさを抑えることができます。

1 システム設定メニューを表示する

(※ 134ページ)

2 サブディスプレイ DIMMER にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

ON → OFF

- ONにすると、車のライトに連動して、サブディスプレイが暗くなります。

サブディスプレイのコントラストを切り換える



で操作します

サブディスプレイのコントラストを切り換えます。サブディスプレイが見つらいときなどに切り換えてください。

設定の内容

高

サブディスプレイのコントラストが強くなります。

低

サブディスプレイのコントラストが弱くなります。

1 システム設定メニューを表示する

(※ 134ページ)

2 サブディスプレイコントラスト にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

高 → 低

初期設定

初期設定メニューを表示する

デタッチの設定や、AUXの設定など、本機の初期設定を行います。また、DSPモードの設定や、オーディオ設定リセット、オートTA&EQなどもこのメニューから操作します。

1 ソースをOFFにする

(☞ 29ページ)

2 AVメニューにタッチする

メインメニューが表示されます。

3 初期設定 タブにタッチする

初期設定メニューが表示されます。



メモ

- **終了** にタッチするか、**(BAND)** ボタンを押すと、ソース画面に戻ります。
- **戻る** にタッチするか、**(BACK)** ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

初期設定モード一覧

- | | |
|--|---|
| | フロントパネルの外し忘れを警告する
(☞ 140ページ) |
| | 外部機器を使う
(☞ 140ページ) |
| | 外部機器を使う
(☞ 140ページ) |
| | 音の歪みを補正する
(☞ 141ページ) |
| | ミュート時の音量を切り換える
(☞ 142ページ) |
| | ディスクの自動再生を設定する
(☞ 142ページ) |
| | オーディオの設定をリセットする
(☞ 143ページ) |
| | DSPモードを切り換える
(☞ 143ページ) |
| | 光デジタルの入力設定を切り換える
(☞ 144ページ) |
| | 音響特性を最適に自動補正する
(☞ 144ページ) |
| | Bluetoothのパスコードを変更する
(☞ 147ページ) |
| | セキュリティインジケータのON/OFFを切り換える
(☞ 147ページ) |

フロントパネルの 外し忘れを警告する



で操作します

デタッチワーニングは、車を離れるときに、フロントパネルの外し忘れを警告ブザーで知らせる機能です。

デタッチワーニングについて

- ・イグニッションスイッチをOFFにしたときに、フロントパネルを外し忘れていたら、約4秒後に警告ブザーが鳴り、フロントパネルの外し忘れを知らせてくれます。

1 初期設定メニューを表示する

(139ページ)

2 **デタッチワーニング** にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

OFF → ON

外部機器を使う

外部機器の音声を聞く



で操作します

市販のポータブル機器やVTRなどを2台まで接続することができます。また、それぞれの機器の音声を外部機器(AUX1、AUX2)ソースとして車両のスピーカーから出力させることができます。

外部機器を接続した場合は、外部機器(AUX1、AUX2)ソースの設定をONにしてください。

外部機器との接続について

- ・外部機器の接続には、次の2通りがあります。
 - ①市販の3.5mmステレオミニプラグを使用する場合(AUX1)
 - ②別売のRCA/IP-BUSインターコネクターを使用する場合(AUX2)

①市販の3.5 mmステレオミニプラグを使用する場合

本体背面のマイク/外部入力端子に、市販の3.5 mmステレオミニプラグを差し込み、接続します。接続した外部機器はAUX1ソースになります。

②別売のRCA/IP-BUSインターコネクターを使用する場合

接続する外部機器にRCA出力がある場合、別売のRCA/IP-BUSインターコネクター「CD-RB10」または「CD-RB20」を使用して、本機のIP-BUS入力端子に接続します。接続した外部機器は、AUX2ソースになります。

1 初期設定メニューを表示する

(139ページ)

2 **AUX1** または **AUX2** にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

OFF → ON

3 ソースを**AUX1**または**AUX2**にする

(27ページ)

外部機器の名称を入力する

外部機器の名称を10文字まで入力できます。

- 1 ソースをAUX1またはAUX2にする
(※ 27ページ)
- 2 **AVメニュー** にタッチする
メインメニューが表示されます。
- 3 **機能設定** タブにタッチする
機能設定メニューが表示されます。
- 4 **名称変更** にタッチする
名称変更画面に切り換わります。
- 5 「SOUND SETTINGの名称を変更する (※ 124ページ)」の手順
4～7を参照して、文字や数字を入力する
- 6 **メモリ** にタッチする
機能設定メニューに戻ります。

音の歪みを補正する



で操作します

イコライザーカーブの調整により、レベルを高く設定した周波数の音域が歪むことがあります。

デジタルアッテネーターを使うと、この音の歪みを抑えることができます。

デジタルアッテネーターの設定

- ・イコライザーを調整して、音が歪んだように感じたときは、デジタルアッテネーターを「LOW」に切り換えてください。

- 1 初期設定メニューを表示する
(※ 139ページ)
- 2 **デジタルアッテネーター** にタッチする
タッチするたびに、以下のように切り換わります。
HIGH → LOW

ミュート時の音量を切り換える



で操作します

ミュート機能のある製品からミュート信号を受け取ったときの音量を設定できます。

それぞれの音量について

- ミュート機能のあるパイオニアナビゲーションシステムと本機を接続すると、その製品からミュート信号を受け取っているときだけミュートまたはアッテネートが働きます。

MUTE

音量が“0”になります。

MIXING

音量は変化しません。音声をミキシングします。

-10dB

もとの音量の1/3になります。

-20dB

もとの音量の1/10になります。

1 初期設定メニューを表示する

(※ 139ページ)

2 消音設定 にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

MUTE → MIXING

→ -10dB → -20dB

ディスクの自動再生を設定する



で操作します

本機にディスクが挿入されたとき、自動的にソースを内蔵プレーヤーに切り換えて、再生を開始させることができます。

1 初期設定メニューを表示する

(※ 139ページ)

2 DVDディスクオートにタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

ON → OFF

- ONにすると、本機にディスクが挿入されたとき、自動再生します。

オーディオの設定を リセットする

オーディオ
設定リセット

で操作します

オーディオの設定をリセットして、出荷時の設定に戻します。

1 初期設定メニューを表示する

(※ 139ページ)

2 **オーディオ設定リセット**にタッチする

リセットの確認画面が表示されます。



3 **リセット**にタッチする

再度、確認画面が表示されます。

4 **リセット**にタッチする

オーディオの設定がリセットされます。リセットを中止したいときは、**キャンセル**にタッチします。



メモ

- 音量の設定は、出荷時の状態には戻りません。

DSPモードを切り換える

DSPモード
スタンダード

から操作します

本機はスタンダードモード、ネットワークモードの2種類のDSPモードがあります。それぞれのDSPモードは、必要に応じて切り換えて使用できます。出荷時はスタンダードモードに設定されています。



ご注意

- DSPモードを切り換えると、設定中の内容(LAST MEMORY)は消去されます。必要に応じてCUSTOM1~3に登録しておくことをおすすめします。

1 初期設定メニューを表示する

(※ 139ページ)

2 **DSPモード**にタッチする

DSPモードの選択画面が表示されます。



3 **スタンダード**または

ネットワークにタッチする

確認画面が表示されます。

4 **チェンジ**にタッチする

DSPモードが変更されます。DSPモードの変更を中止したいときは、**キャンセル**にタッチします。

光デジタルの入力設定を切り換える

光デジタル
入力設定
OFF

で操作します

本機の光デジタル端子に接続したソースにあわせて、光デジタル端子の入力設定を切り換えます。

それぞれの設定について

OFF

本機の光デジタル端子に何も接続しないときは、この設定にします。

ナビゲーション

本機の光デジタル端子に、別売のパイオニア製ナビゲーションユニットを接続したときは、この設定にします。

デジタルTV

本機の光デジタル端子に、別売のパイオニア製地上デジタルTVチューナーを接続したときは、この設定にします。

S-DVD

本機の光デジタル端子に、別売のパイオニア製DVDプレーヤーを接続したときは、この設定にします。

1 初期設定メニューを表示する

(※ 139ページ)

2 **光デジタル入力設定** にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

OFF → ナビゲーション

→ デジタルTV → S-DVD

音響特性を最適に自動補正する

Standard **Network**

Multi-Channel

2-Channel

音響特性を自動補正する前に

音響特性を最適に自動補正する前に、必ずお読みください。

ご注意

- この機能は、本機のDSPモードがスタンダードモードのときだけ使用できます。

音響特性の自動補正とは

- 車内空間には、その形状や材質、スピーカーの取付位置、聞く位置など、さまざまな制約があります。このため、ホームオーディオに比べて音響特性が大きく乱れています。この乱れを補正するには一般的に、イコライザーなどを使用します。また、音質特性を最適にする場合は、音響測定器などの道具や音質調節の熟練した技術が必要です。

音響特性を最適に自動補正するために、本機はオートTA&EQという機能を備えています。オートTA&EQを使うと、ユーザーが専用のマイクを所定の位置に取り付けるだけで、複雑で難しい音響調整を本機が自動で行います。

オートTA&EQのうち、車室内の音響特性を乱れが少なく滑らかな状態に最適化するのがオートEQです。また、各スピーカーから乗車位置までの距離を測定し、音声の到達時間を補正するのがオートTAです。これらの機能によって、それぞれの車にとって最良の音響特性を手軽に実現できます。

警告

走行中にオートTA&EQ設定を行わない



自動車が走行中にオートTA&EQ設定を行わないでください。オートTA&EQ設定は車室内の音響特性を測定するために、スピーカーから大音量の計測音を出すことがあります。この場合、運転の妨げになり事故の原因となることがあります。

📌 スピーカーの破損防止のために

- ・次の状態でオートTA&EQを設定を行うと、スピーカーが破損することがあります。オートTA&EQ設定を行う前に、よく確認してください。
 - ・スピーカーの接続を誤っている。
 - （例：サブウーファー出力にリアスピーカーを出力している場合）
 - ・スピーカーの耐入力を超える出力のパワーアンプを接続している。

📌 オートTA&EQ設定を行う前に

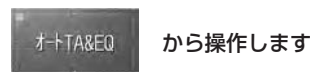
- ・オートTA&EQ設定を効果的に行うために、いくつかの準備が必要です。以下を参照して、正しく準備してください。
 - ・なるべく静かな場所に車を停車する。
 - ・車のエンジン／エアコン／ヒーターをOFFにする。（エアコンやヒーターのファンの騒音によって、オートTA&EQが実行できないことがあります。）
 - ・携帯電話や車載電話の電源を切る。または車外に持ち出す。
 - ・本機に付属の音響特性測定用マイクを用意する。それ以外のマイクでは、正しく測定できません。
 - ・フロントスピーカーを接続する。
 - ・フロントスピーカーのミュートを解除する。
 - ・入力レベルコントロール付きのパワーアンプを接続している場合は、入力レベルを推奨位置に合わせる。
 - ・ローパスフィルター付きのパワーアンプを接続している場合は、ローパスフィルターをOFFにする。
 - ・ローパスフィルター付きのパワードサブウーファーを接続している場合は、ローパスフィルターのカットオフ周波数を最も高い値に設定する。

📌 ご注意

- ・オートTA&EQは、以下の内容を自動的に設定します。
 - ・フェダー／バランスはセンターに戻る
 - ・イコライザーカーブはFLATIに設定される
 - ・フロント／センター／リア／サラウンドバックのスピーカー設定、カットオフ周波数、タイムアライメント、スピーカー出力レベルを調整します。

- ・オートTA&EQ設定測定されたタイムアライメントの値は、コンピューターが算出した正確な遅延時間に基づくものです。次のような場合に、実際の距離と異なることがあります。
 - ・そのままご使用ください。
 - ・車室内の反射音が直接音より強く、かつ遅延を生じている。
 - ・パワードサブウーファーや外部アンプのローパスフィルターの影響により、低音に遅延が生じている。

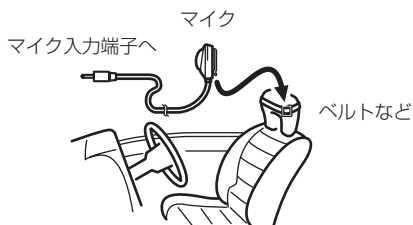
音響特性を最適に自動補正する



まず、「音響特性を自動補正する前に」をよく読んで、準備をしてください。

1 音響特性測定用マイクをセットする

ベルトなどを使用して、運転席のヘッドレストの中央に、音響特性測定用マイクを前向きに固定します。

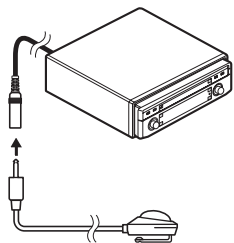


- ・音響特性測定用マイクの取付位置が悪いと、測定音が大きくなったり測定に時間がかかったりして、車のバッテリーが上がるおそれがあります。マイクは必ず指定の位置に取り付けてください。
- ・音響特性測定用マイクを取り付ける位置により、オートTA&EQ設定の調整内容が変化します。助手席にセットすることもできます。

次ページへ続く

2 音響特性測定用マイクを本機にセットする

音響特性測定用マイクを、本機のマイク入力端子にセットします。



- 音響特性測定用マイクを確実に挿入して、オートTA&EQ設定を行ってください。マイク入力端子に、音響特性測定用マイクが確実に挿入されていない状態でオートTA&EQ設定を行うと、エラーメッセージが表示されます。

3 初期設定メニューを表示する

(※ 139ページ)

4 オートTA&EQにタッチする

ポジション選択画面に切り換わります。

5 フロントレフト または フロントライト にタッチして、次へ にタッチする

6 START にタッチする

オートTA&EQが開始されます。中止したいときは、STOP にタッチします。

- オートTA&EQ設定が測定を始めてから終了するまでの時間は最長で約9分です。ただし、周囲の騒音状態や車両形状、スピーカーの数などにより測定時間は異なります。

7 車外に出る

「ピッ」という音で10秒のカウントダウンが始まります。10秒以内に車外に出て、ドアを閉めてください。

- オートTA&EQ設定を途中でやめるときは、STOP にタッチしてください。

8 測定が開始される

測定音（ノイズ）が各スピーカーから出力され、測定が始まります。

9 オートTA&EQ設定が自動で終了する

計測が終わると、オートTA&EQ設定は自動で終了します。

オートTA&EQ設定が正常に終了すると、「設定を終了しました」と表示されます。


10 音響特性測定用マイクを取り外す

音響特性測定用マイクは、グローブボックスなどに入れて、大切に保管してください。

ご注意

- 音響特性測定用マイクを直射日光の当たる場所に長時間放置すると、高温による変形や変色、故障の原因となります。

Bluetoothのパスコードを 変更する


 パスワード編集

で操作します

Bluetooth接続時に使用する暗証番号（パスコード）を変更できます。（初期設定では「0000」になっています。）

ご注意

- この機能は、本機に別売のBluetoothアダプター（例：「CD-BTB10」）を接続しているときだけ使用できます。
- パスコードを変更するときは、Bluetoothの自動接続の設定をあらかじめOFFにしてください。自動接続中は、パスコードを変更できません。

1 初期設定メニューを表示する

 139ページ

2 **パスワード編集** にタッチする

パスワード編集画面に切り換わります。

3 パスコード入力して、**決定** にタッチする

新しいパスコードが登録されます。

メモ

- **C**（クリア）にタッチすると、入力した数字を消すことができます。

セキュリティインジケータ のON/OFFを切り換える


 セキュリティ
インジケータ
OFF

で操作します

本機のフロントパネルを取り外したときに、赤いLEDの盗難防止警告灯（セキュリティインジケータ）を点滅させるかどうかを設定します。

1 初期設定メニューを表示する

 139ページ

2 **セキュリティインジケータ** にタッチする

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

OFF → ON

- ONにすると、デタッチしたときに、赤いLEDの盗難防止警告灯が点滅します。


便利な機能

瞬時に音量を小さくする (ATT)

アッテネーターを使うと、車内の会話が聞き取りにくい時に、瞬時に音量を小さくできます。

1 本体の【ATT】ボタンまたは リモコンの ボタンを押す

アッテネーター機能が働き、音量が小さくなります。

サブディスプレイに“ATT”が点滅します。アッテネーターを解除するには、もう一度【ATT】ボタンまたは  ボタンを押します。

交通情報を受信する (TI)

高速道路などで放送されている交通情報ラジオを瞬時に受信します。


この機能は、ソースがOFFのときでも、どのソースからでも操作可能なので、情報を逃さず受信できます。


1 【TI】ボタンを押す

交通情報を受信します。

受信をやめるときは、【TI】ボタンをもう一度押します。交通情報を受信する前の状態に戻ります。

2 / にタッチして、周波数を切り換える

1 629 kHzを選ぶとき: 

1 620 kHzを選ぶとき: 

メモ

- 交通情報を受信しているときに音量を調節すると、交通情報用の音量として設定できます。
- 交通情報を受信すると、イコライザーカーブが交通情報用になります。交通情報の受信をやめると、もとの状態に戻ります。

背景画面を設定する (エンタテインメント)

音楽などを聞いているときに、モニターの表示をいろいろなエンタテインメント表示に切り換えることができます。

1 【ENT】ボタンを押す

エンタテインメント選択画面に切り換わります。



2 好みのタッチキーにタッチして、 エンタテインメントを切り換える

BGP1、**BGP2**、**BGP3** :

バックグラウンドピクチャー

BGV1、**BGV2**、**BGV3** :

バックグラウンドビジュアル

DVD :

内蔵プレーヤー (DVD) の画像

AV1、**AV2** :

AVソースの画像

TV :

テレビの画像

DTV :

地上デジタルテレビの画像

メモ

- 本機にディスクがセットされていないときは、内蔵プレーヤー (DVD) には切り換わりません。(CDやWMA/MP3/AAC再生時に切り換えると、ブルーバックになります。)
- AV入力の設定 (※ 135ページ) を行っていないと、AVソースの画像には切り換わりません。

ワイド画面の拡大方法を切り換える

テレビ、ビデオCD、DVDなどの映像は、通常の映像をワイド映像に拡大できます。

メモ

- 通常映像は表示比率4：3、ワイド映像は表示比率16：9です。
- ワイドモードの設定内容は、映像ごとに登録されます。
- ナavigーションの映像は、ワイドモードの切り換えはできません。

ワイドモードの種類

フル

4：3の映像の左右だけを拡大します。映像の欠けがなく、ワイド画面で楽しめます。

ジャスト

画面の両端に近づくほど、横に伸びる比率が高くなります。画面の中央付近は通常の映像とほとんど同じ大きさで表示されるため、ワイド映像を違和感なく楽しめます。

シネマ

フルとズームの中間の比率で、上下を拡大します。字幕が映像の外の黒い部分に表示されるものに適しています。

ズーム

4：3の映像を上下左右とも同じ比率で拡大します。映画など横長の映像のうち、字幕が映像の上にかぶって表示されるものに適しています。

ノーマル

4：3の映像をそのまま表示します。テレビの通常の映像と同じです。

オート

内蔵プレーヤーまたはナavigーションユニットのプレーヤーで映像ソースを再生している場合、映像に合わせて最適なワイドモードを自動設定します。

1 【WIDE】 ボタンを押す

タッチするたびに、以下のように切り換わります。

FULL (フル)

- JUST (ジャスト)
- CINEMA (シネマ)
- ZOOM (ズーム)
- NORMAL (ノーマル)
- AUTO (オート)

メモ

- ナavigーションユニットを組み合わせている場合、【WIDE】 ボタンを長く（約2秒）押すごとに、ワイドモードが切り換わります。
- 通常のテレビ以外の番組でズーム、ノーマル以外の、映像の表示比率が異なるモードを選ぶと、本来の映像と見えかたに差がでます。
- シネマ、ズームで映像を見るときは、画質が粗くなります。
- 営利目的、または公衆に視聴させることを目的として、本機のワイドモード切り替え機能を利用すると（フル、ズームなどで画面の圧縮や引き延ばしなどを行うと）、著作権法上で保護されている著作者の権利を侵害するおそれがありますので、ご注意ください。
- ワイド設定は、映像ソースだけで可能です。

画質調整

明るさやコントラストなどを調整します。

メモ

- DVDやテレビなどで別々に設定内容を登録します。
- 明るさ、黒の濃さ、およびコントラストは、外光センサーで周囲の明るさを感知し、明るいとき（☀）と暗いとき（🌙）で調整内容を別々に登録します。
- 走行中は、画質は調整できません。

1 [V.ADJUST] ボタンを押す

画質調整メニューが表示されます。



2 調整したい項目のタッチキーにタッチする

黒の濃さ：

黒の濃さを調節する

コントラスト：

コントラストを調節する

色の濃さ：

色の濃さを調節する

色合い：

色合い（赤・緑）を調節する

明るさ：

明るさの自動調整
（3点式インテリジェントディマー）

黒の濃さ、コントラスト、色の濃さ、および色合いは-24 ~ +24の範囲で調整できます。

メモ

- **バックカメラ**の画質を調整しているときだけ、色合いの調整ができます。
- **バックカメラ**は、AV入力の設定でバックカメラが設定（※ 135ページ）されているときに選択できます。
- **バックカメラ**にタッチすると、バックカメラの画質調整メニューに切り換わります。ソース画面の画質調整メニューに戻るには、**ソース**にタッチします。
- 接続したバックカメラによっては、画質調整はできません。
- 音楽ソースやナビゲーションの地図の場合は、色の濃さの調整はできません。
- テレビ、バックカメラ、またはAVソース以外では、色合いの調整はできません。

モニターのみぶしさを抑える

夜間運転中など、周囲が暗いときに、画面がまぶしく感じられることがあります。本機は、周囲の明るさに応じて、画面の明るさを自動的に調整します（3点式インテリジェントディマー）。3点式インテリジェントディマーの調整内容は、お好みに合わせて設定しておくことができます。

1 [V.ADJUST] ボタンを押す

画質調整メニューが表示されます。

2 明るさのタッチキー（暗/明）にタッチして、明るさを調節する

赤い太陽（☀）：

明るいとき（昼間）

橙色の太陽（🌅）：

中間の明るさ（夕方）

黄色い月（🌙）：

暗いとき（夜間）

メモ

- 現在の外光レベルに設定されている画面の明るさが調節できます。
- 昼間/夕方/夜間のそれぞれの外光レベルで調節・登録できます。

リアモニターを使う

リアモニターを接続すると、DVDやビデオの映像を後部座席でも楽しむことができます。



警告



運転中に見える場所に設置しない



リアモニターは、運転者が走行中に映像を見ることができる位置には、絶対に設置しないでください。



メモ

- DVDビデオやビデオCDをリアモニターだけで見るときは、リモコンの操作モードをDVDモードに切り換えます (※ 19ページ)。
- テレビをリアモニターだけで見るときは、リモコンの操作モードをTVモードに切り換えます (※ 19ページ)。
- 地上デジタルテレビをリアモニターだけで見るときは、地上デジタルTVチューナーに付属のリモコンで操作してください。
- 【REAR ON】 ボタンまたは  ボタンを押して、リアモニターに映像を表示した場合は、ソースOFF (※ 29ページ) にしても、リアモニターの表示は消えません。リアモニターの映像が消えるまで、【REAR ON】 ボタンまたは  ボタンを押し続けてください。

TVM-W1100を組み合わせた場合

- 別売の11.0型 ワイドVGAモニター「TVM-W1100」と本機をコンポーネントケーブルで接続した場合、パワーコントロール機能に対応しています。詳しくは、「TVM-W1100」の取扱説明書をご覧ください。

リアモニターの映像を切り換える

1 【REAR ON】 ボタンまたは

 ボタンを押す

ボタンを押すたびに、映像が以下のように切り換わります。

リアソース：フロントソース


→ リアソース：DVD

→ リアソース：TV

→ リアソース：デジタルTV

→ リアソース：AV1

→ リアソース：AV2

リアモニターの映像を消すには、【REAR ON】 ボタンまたは  ボタンを長く (約1秒) 押しします。



メモ

- 「リアモニターの表示を設定する (※ 137ページ)」で「フロントソース」を選択すると、リアモニターの映像はフロントソースの映像以外には切り換わりません。
- 「リアモニターの表示を設定する (※ 137ページ)」で「フロントソース」を選択すると、リアモニター出力から音声は出力されません。
- リアモニターで映像を表示しているときは、【REAR ON】 ボタンのインジケーターが赤く点灯し、リアモニターが作動中であることを知らせます。
- 本機にディスクがセットされていないときは、「リアソース：DVD」には切り換わりません。
- 「AV入力を設定する (※ 135ページ)」で「ビデオ」を選択していないときは、「リアソース：AV1」または「リアソース：AV2」には切り換わりません。
- 「リアソース：フロントソース」を選択して、音声ソースを選択すると、リアモニターには何も表示されません。
- フロントモニターとリアモニターの両方で内蔵プレーヤーの映像を見ている場合、リアモニター出力から音声は出力されません。

エクスターナルユニットの 操作

本機は、マルチMDプレーヤーなどをエクスターナルユニットとして操作できます。

エクスターナルユニットとは

- エクスターナルユニットとは、本機がソースとして対応していないパイオニア製品（将来発売される製品など）の基本的な機能をコントロールできるように用意している特別なソースです。

メモ

- 本機では、エクスターナルユニットを最大2台まで接続、コントロールできます。ただし、EXT1、EXT2のどちらに切り換えても“EXT”が表示されます。2台のエクスターナルユニットを接続した場合、本機によって、EXT1、EXT2が自動的に設定されます。
- 本機に映像ソースのエクスターナルユニットを接続した場合、「AV入力を設定する（※ 135ページ）」で「ビデオ」を選択する必要があります。

基本操作

1 ソースをエクスターナルユニット (EXT1、EXT2) に切り換える

(※ 27ページ)

2 画面にタッチする

タッチキーが表示されます。

機能設定メニューの操作

1 **AVメニュー** にタッチする

メインメニューが表示されます。

2 **機能設定** タブにタッチする

機能設定メニューが表示されます。

3 **FUNC1** ~ **FUNC4** にタッチ する

タッチするたびに機能設定モードの設定内容が切り換わります。

メモ

- **終了** にタッチするか、**[BAND]** ボタンを押すと、ソース画面に戻ります。
- **戻る** にタッチするか、**[BACK]** ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

操作例

■マルチMDプレーヤー 「MD-P100II」の場合

ディスク切り換え

▲/▼にタッチ

ディスク番号選択

1～6にタッチ

曲の頭出し

◀/▶にタッチする*

曲の早戻し/早送り

◀/▶にタッチし続ける*

表示の切り換え

FUNCTION1にタッチ

ランダム再生の設定

FUNCTION2にタッチし続ける

スキャン再生の設定

FUNCTION3にタッチ

リピート再生の設定

FUNCTION4にタッチ

AUTO/MANUALの切り換え

AUTO/MANUALにタッチ



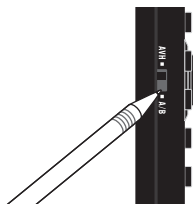
メモ

* **AUTO/MANUAL** で **AUTO** を選んでいる場合は、曲の頭出しになります。**MANUAL** を選んでいる場合は、曲の早戻し/早送りになります。

リモコンコードの設定

付属のリモコンには、コードAVH、コードAおよびコードBの3種類のリモコンコードがあります。リモコンコードを正しく切り換えることで、本機に接続されたDVDプレーヤーを、付属のリモコンで操作できるようになります。本機を操作するときは、AVHに設定してください。

1 リモコンの左側面にあるリモコンコード切り換えスイッチを、ペン先などで切り換える



2 コードA/Bに設定したときは、リモコンの数字ボタン①と②を同時に押す

数字ボタン①と②を同時に押すたびに、コードAとコードBが順に切り換わります。(初期設定はコードAです。)



メモ

- ・リモコンの操作モード切り換えスイッチをDVDモードに切り換える(※19ページ)と、パイオニア製DVDプレーヤーを操作できます。
- ・マルチDVDプレーヤー(例:「XDV-P70」)を操作する場合は、コードAに切り換えてください。
- ・DVDプレーヤー(例:「SDV-P7」)を操作する場合は、DVDプレーヤーの初期設定メニューと、本機に付属のリモコンのコードは同じ設定にしてください。設定が異なっていると、操作できません。
- ・本機に付属のリモコンには、ナビゲーションユニット(例:「AVIC-H009」)を操作するためのコードは用意されていません。ナビゲーションユニットは、本機のタッチキー、またはナビゲーションユニットに付属のリモコンで操作してください。

タッチパネルの誤差を補正する

タッチパネルに触れたとき、触れた位置と反応する位置がずれることがあります。このようなときは、タッチパネルの位置の誤差を補正してください（キャリブレーション設定）。補正には、2種類の方法があります。ひとつは、画面の四隅を設定する簡易設定、もうひとつは画面の16カ所を設定する詳細設定です。

キャリブレーション設定について

簡易設定

画面の四隅に現れる矢印の先端を、タッチパネル用調整ペンでタッチします。

詳細設定

画面の16カ所に現れる十字マークの中心を、タッチパネル用調整ペンでタッチします。

ご注意

- 必ず、付属のタッチパネル用調整ペンを使用して行ってください。付属のタッチパネル用調整ペン以外を使用すると、液晶画面の故障の原因となります。
- タッチパネル用調整ペンで画面を強く押さないでください。強く押すと、画面の故障の原因となります。

1 **【V.ADJUST】ボタンを押す**

画質調整メニューが表示されます。

2 **【V.ADJUST】ボタンを長く押す**

キャリブレーション設定画面が表示されます。

3 **付属のタッチパネル用調整ペンを使って、キャリブレーション設定を行う**

画面の指示に従って、キャリブレーション設定を行ってください。

メモ

- キャリブレーション設定を途中でやめるときは、【V.ADJUST】ボタンを長く押ししてください。
- キャリブレーション設定が終わったら、【V.ADJUST】ボタンを長く押ししてください。設定内容が保存され、ソース画面に戻ります。

再生できるディスクの種類

- 下記マークはディスクのタイトル面、パッケージ、またはジャケットに付いています。
- 本機はNTSC（日本のテレビ方式）に適合していますので、ディスクやパッケージに「NTSC」と表示されているディスクをご使用ください。
- **DVD** はDVDフォーマットロゴライセンス（株）の商標です。

DVDオーディオ



DVDビデオ



ビデオCD



CD



ディスクの操作について

DVDによっては、ディスク制作者の意図により、特定の操作を禁止している場合があります。また、メニュー操作や、再生中に対話式の操作が可能なディスクでは、タイトル／チャプターの構成上、リピートなど一部の操作ができないことがあります。

このような場合、本機では画面に「禁止マーク」が表示されます。ディスクによっては、表示されないこともあります。

DVDに表示されているマークの意味

DVDディスクのタイトル面やパッケージには、以下のようなマークが表示されています。それぞれのマークは、そのディスクに記録されている映像または音声のタイプ、使える機能を表しています。

マーク	意味
	音声の数を表します。
	字幕の数を表します。
	アングルの数を表します。
	画面サイズ（アスペクト比：横と縦の比率）の種類を表します。
	再生可能な地域番号（リージョン番号）を表します。本機のリージョン番号は、「2」です。リージョン番号が「2」や「ALL」など「2」を含んでいるディスクを再生できます。



メモ

- DVDビデオディスクによっては、一部の機能でご使用になれない場合があります。
- DVDビデオディスクによっては、再生できない場合があります。
- DVDビデオディスクでも、リージョン番号(※ **175ページ**)が異なるディスクは再生できません。
- DVD-R/RWディスクは、ビデオフォーマット(ビデオモード)で記録されたものに限って、再生できます。ビデオレコーディングフォーマット(VRモード)で記録されたDVD-RWディスクは再生できません。
- ビデオフォーマット(ビデオモード)で記録されたDVD-R/RWディスクでも、ディスクの特性やキズ・汚れ、または本機内部のレンズの汚れ・露などにより、本機では再生できない場合があります。
- 本機は音楽CD規格に準拠して設計されています。コピーコントロールCDなどのCD規格外ディスクの動作保証および性能保証は致しかねます。
- DVD-ROM、DVD-RAMディスクの再生には対応していません。
- 音楽用CDレコーダーまたはパソコンで記録したCD-R/RWディスクは、ディスクの特性やキズ・汚れ、または本機内部のレンズの汚れ・露などにより、本機では再生できない場合があります。
- パソコンで記録したディスクは、アプリケーションの設定および環境によって再生できない場合があります。(詳細は、アプリケーションの発売元にお問い合わせください。)
- 直射日光や高温等、車内での保管状況により、CD-R/RWディスクは再生できなくなる場合があります。
- CD-R/RWディスクに記録されているタイトルなどの文字情報は、本機では表示されない場合があります。(音楽データ(CD-DA)再生時)
- ファイナライズされていないCD-R/RW、DVD-R/RWディスクには対応していません。
- CD-RWディスクは、ディスクを挿入してから再生が始まるまで、通常のCDやCD-Rディスクより時間がかかります。
- CD-R/RW、DVD-R/RWディスクの取り扱いについては、ディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。

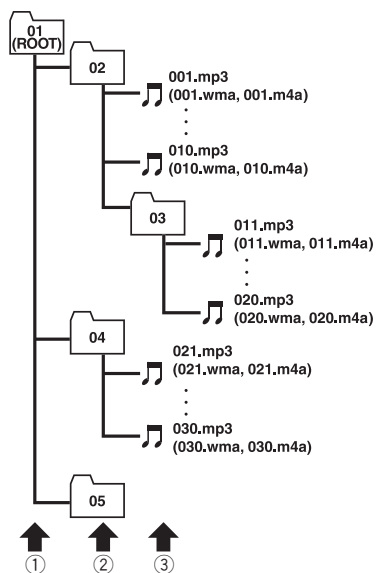


「Dual Disc」の再生について

- 「Dual Disc」は、片面にDVD規格準拠の映像やオーディオが、もう片面にCD再生機での再生を目的としたオーディオがそれぞれ収録されています。
- 「Dual Disc」のDVDの面は再生可能です。
- DVD面ではないオーディオ面は、一般的なCDの物理的規格に準拠していないために、再生できないことがあります。
- 「Dual Disc」を再生機器に挿入したり、取り出しをしたりするときに再生面の反対側の面に傷がつく場合があります。傷が付いた面は再生すると不具合が出る場合があります。
- ディスクを取り出せないといった不具合が起こる可能性がありますので「Dual Disc」はご使用にならないでください。
- 「Dual Disc」の仕様や規格などの詳細に関しては、ディスクの発売元または販売元にお問い合わせください。

フォルダーと WMA/MP3/AAC ファイルについて

- WMA/MP3/AACファイルを収録したCD-R/CD-RW/CD-ROMのイメージは下図のようになります。



1階層 2階層 3階層

- 本機はWMA/MP3/AACファイルが記録されたCD-R/CD-RW/CD-ROMの再生に対応しています。ISO9660のレベル1、レベル2、および拡張フォーマット (Joliet, Romeo) に準拠して記録されたディスクが再生可能です。(※ 177ページ)
- 本機はマルチセッション (※ 175ページ) 方式で記録したディスクの再生に対応しています。
- パケットライト (※ 174ページ) には対応していません。
- m3u (※ 178ページ) のプレイリストには対応していません。

- MP3i (MP3 interactive) フォーマット、およびMP3 PROフォーマットには対応していません。
- ファイル名の最大表示文字数は、拡張子 (.mp3, .wma, .m4a) を含めて半角で64文字、全角で32文字までです。また、フォルダー名の最大表示文字数は半角で64文字、全角で32文字までです。
- 拡張フォーマット (Romeo) (※ 177ページ) に準拠して記録されたファイルの場合、半角で先頭から64文字、全角で先頭から32文字までの表示に対応しています。
- 再生などの操作でフォルダーが選択される順番は、ライティングソフトで書き込まれた順番になります。ただし、ライティングソフトによっては、再生の順番を設定できるものもあります。
- 曲間 (トラック間) にブランクがないCDを、WMA/MP3/AACファイルとしてCD-R/CD-RW/CD-ROMに記録して再生した場合、曲間が音飛びしたように聞こえます。



メモ

- フォルダー番号は本機が割り当てます。お客様が割り当てることはできません。
- CD-R、CD-RW、CD-EXTRA、MIXED-MODE CDディスクに、WMA/MP3/AACファイルと音楽データ (CD-DA) が混在しているときは、WMA/MP3/AACファイルと、音楽データ (CD-DA) を切り換えることができます (※ 41ページ)。WMA/MP3/AACファイルと、音楽データ (CD-DA) を切り換えた場合、再生は一番先頭の曲から始まります。
- WMA/MP3/AACファイルを含まないフォルダーは認識しません。(フォルダー番号を表示せず、スキップします。)
- 8階層までのWMA/MP3/AACファイルの再生に対応しています。ただし、多くの階層を持つディスクは、再生が始まるまでに時間がかかります。ディスク作成時には、階層を2つ以下にすることをおすすめします。
- ディスクに含まれるフォルダーの合計が255個まで再生可能です。

再生できるWMAファイル について

ご注意

- WMAファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、正常に動作しないことがあります。
 - WMAファイルをエンコードしたWindows Media Playerのバージョンによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
 - 画像データを含むWMAファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。
 - WMAファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.wma) を付けてください。
 - 本機は、拡張子 (.wma) が付いているファイルをWMAファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、WMAファイル以外には拡張子 (.wma) を付けないでください。
 - 本機では、Windows Media Player Ver. 7/7.1/8/9を使用してエンコードしたWMAファイルを再生することができます。
- 再生可能なWMAファイルのサンプリング周波数は8 kHz～48 kHzです。
 - 一般的にWMAファイルは、ビットレート (📄 175ページ) が高いほど音質は良くなります。本機は、5 kbps～320kbps (CBR) のビットレートで記録されたWMAファイルの再生に対応しています。また、本機はVBRで記録されたディスクの再生にも対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、できるだけ高いビットレートで記録されたディスクの使用を推奨します。
- デジタル著作権保護 (DRM) で保護されたファイルを再生したときは、“再生できない曲をスキップしました”と表示され、そのファイルの再生がスキップされます。
 - ディスク内のすべてのファイルがデジタル著作権保護 (DRM) で保護されている場合は、“PROTECT”と表示され、そのディスクは再生できません。
 - 本機は、下記の形式には対応していません。
 - ・ Windows Media Audio 9 Professional (5.1ch)
 - ・ Windows Media Audio 9 Lossless (可逆圧縮)
 - ・ Windows Media Audio 9 Voice

再生できるMP3ファイル について

ご注意

- MP3ファイルをライティングしたiTunesのバージョンによっては、ファイル名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
 - MP3ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.mp3) を付けてください。
 - 本機は、拡張子 (.mp3) が付いているファイルをMP3ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、MP3ファイル以外には拡張子 (.mp3) を付けないでください。
 - ID3 Tag (▶▶▶ 177ページ) のVer. 1.0/1.1/2.2/2.3のアルバム名 (ALBUM TITLEとして表示)、曲名 (TRACK TITLEとして表示)、およびアーティスト名 (ARTIST NAMEとして表示) の表示に対応しています。なお、ID3 tagのVer. 1.XとVer. 2.Xが混在している場合は、Ver. 2.Xが優先されます。
 - サンプルング周波数が8 kHz～48 kHzのMP3ファイルの再生に対応しています。また、上記のサンプルング周波数で、エンファシスに対応しています。
 - 一般的にMP3ファイルは、ビットレート (▶▶▶ 175ページ) が高いほど音質は良くなります。本機は、8kbps～320kbps (CBR) のビットレートで記録されたMP3ファイルの再生に対応しています。また、本機はVBRで記録されたディスクの再生にも対応しています。
- ただし、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、128kbps以上のビットレートで記録されたディスクの使用を推奨します。

再生できるAACファイル について

ご注意

- AACファイルをライティングしたiTunesのバージョンによっては、ファイル名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
 - AACファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.m4a) を付けてください。
 - 本機では、Ver. 4.8以前のiTunesを使用してエンコードされたAACファイルの再生に対応していません。
 - 本機は、iTunesで作成された拡張子 (.m4a) が付いているファイルをAACファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、AACファイル以外には拡張子 (.m4a) を付けないでください。
 - 画像データを含むAACファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。
- AACファイルをエンコードしたiTunesのバージョンによっては、正しく再生されないことがあります。
 - 再生可能なAACファイルのサンプルング周波数は、8kHz～48kHzです。
 - 一般的にAACファイルは、ステレオビットレートが高いほど音質は良くなります。本機は、8kbps～320kbpsのステレオビットレートで記録されたAACファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、できるだけ大きいステレオビットレートで記録されたディスクの使用を推奨します。
 - 本機は、下記の形式には対応していません。
 - ・ Apple ロスレス・エンコーダ

再生できるDivXビデオ ファイルについて

ご注意

- DivXファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.aviまたは.divx) を付けてください。
- 本機は、拡張子 (.aviまたは.divx) が付いているファイルをDivXファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、DivXファイル以外には拡張子 (.aviまたは.divx) を付けしないでください。
- 本機は、DivX規格に準拠した、DivX®ビデオフォーマット（コンテンツ）を再生することができます。また、DivX® Ultraには対応していません。
- 映像データが収録されていない場合、DivX®ファイルと認識できません。
- DivX®ファイル内の構成により、特殊再生などが禁止されることがあります。
- DivX®のパートナーサイト以外からダウンロードしたDivX®ファイルの再生は保証していません。
- DivX®VODファイルのうち、DRMレンタルファイルを再生している場合は、再生選択後から実際に再生が始まるまでの間、操作ができません。
- 本機では、最大で1590分43秒のDivX®ファイルの表示に対応しています。
- 4GBを超えるファイルの場合、ファイルの途中までしか再生しません。
- DivX®VODファイルを再生する場合、そのDivX®VODファイルの配信先に対して、本機の登録コードが必要な場合があります。登録コードは「DivX VODの登録コードを確認する (133ページ)」で確認してください。
- DivX®について詳しくは、<http://www.divx.com/>を参照してください。

再生できるJPEGファイル について

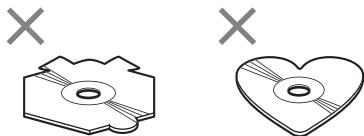
ご注意

- JPEGファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.jpg、.jpegまたは.jpe) を付けてください。
- 本機は、拡張子 (.jpg、.jpegまたは.jpe) が付いているファイルをJPEGファイルとして再生します。故障の原因となりますので、JPEGファイル以外には拡張子 (.jpg、.jpegまたは.jpe) を付けしないでください。
- 解像度が8 192 × 7 680までのベースラインJPEGと、EXIF2.1に対応しています。（EXIF形式は、デジタルカメラで一般的に使用されているファイル形式です。）
- パソコンで加工されたEXIFファイルは、再生できないことがあります。
- プログレッシブJPEGの再生には対応していません。

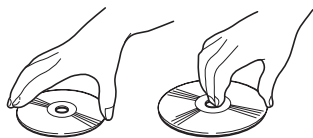
使用上の注意

取り扱い上のご注意

- ひび、キズ、そりのあるディスクは使用しないでください。
- 特殊形状のディスクは、使用しないでください。故障の原因になります。



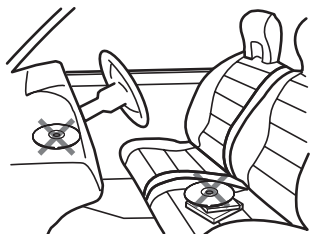
- ディスクは、下図のように、信号記録面（虹色に光っている面）をさわらないように持ってください。



- ディスクにキズを付けないでください。
- ディスクにシールなどを貼り付けないでください。

保管上のご注意

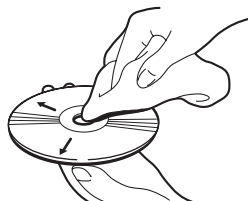
- 直射日光の当たるところや高温になるところには、ディスクを保管しないでください。



- ディスクがそらないように、必ずケースに入れて保管してください。

お手入れについて

- ディスクが汚れたときは、柔らかいきれいな布でディスクの内周から外周方向へ軽くふいてください。



- アナログ式レコード用のクリーナー、静電気防止剤などは使用しないでください。また、ベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。

ディスク再生の環境について

- 走行中、振動のショックで音飛びを起こすことがあります。
- 寒いとき、ヒーターを入れた直後に再生を始めると、本機内部の光学系レンズやディスクに露が生じて、正常な再生ができないことがあります。

このようなときは、1時間ほど放置して自然に露がとれるのをお待ちください。ディスクに付いた露は柔らかい布でふいてください。

✎ メモ

- 製品設計上配慮していますが、機構上あるいは使用環境・ディスクの取り扱いなどにより、ディスク面に、実使用上支障のない程度のキズが付くことがあります。これは、製品の故障ではありません。一般的な消耗としてご理解ください。

モニターの正しい使いかた

取り扱い上のご注意

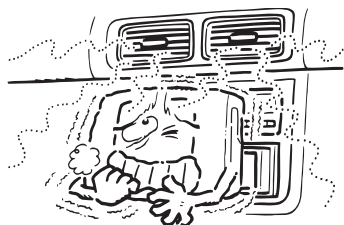
- 温度が-10度以下または+50度以上になるところでは、お使いにならないでください。
- 直射日光の当たる状態で長時間使用すると、高温になり、モニターの液晶画面が故障するおそれがあります。できる限りモニターに直射日光が当たらないようにしてください。また、本機を使用していないときは、本体にモニターを収納してください。



- モニターの液晶画面は、車内での視認性向上のためにむき出しになっています。故障するおそれがありますので、液晶画面を強く押さないでください。
- モニターを立ち上げたときに、モニターの上に物を置いたり、モニターの角度調節や立ち上げ、収納を手動で行わないでください。モニターに強い力が加わると故障することがあります。



- モニターを立ち上げたときに、モニターがエアコンの吹き出し口の近くに来る場合は、エアコンの風がモニターに当たらないようにしてください。ヒーターの熱で液晶が壊れたり、クーラーの冷気でモニター内部に水滴がついて故障するおそれがあります。



- モニターの立ち上げや収納のときに、物をはさまないように注意してください。物をはさまると、モニターが動かなくなることがあります。モニターが動かなくなった場合は、はさまった物を取り除いてもう一度【OPEN/CLOSE】ボタンを押してください。



- エアバッグなどの安全装置装着車の場合は、安全装置の作動に支障のないようにご注意ください。

液晶画面について

- モニター画面の中に小さな黒い点や明るく光る点（輝点）がでることがあります。これは液晶モニター特有の現象で故障ではありません。
- 寒いところでお使いになるときは、電源を入れた後、しばらく画面が暗いことがあります。時間がたつと正常な明るさに戻ります。
- モニター画面に直射日光が当たると、光が反射し画面が見づらくなりますので、直射日光をさえぎってください。

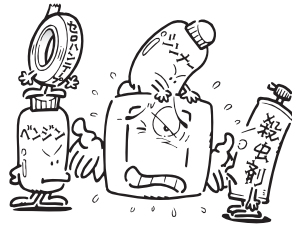
小型蛍光管について

液晶画面を光らせるために、モニター内部に小型蛍光管を使用しています。この蛍光管は消耗品で寿命があります。

- 蛍光管の寿命は約1万時間ですが、寒いところでお使いになると、寿命が短くなることがあります。
- 蛍光管が寿命になると、画面が暗くなったり、映像が映らなくなったりします。このときはお買い上げの販売店に、蛍光管の交換を依頼してください。

お手入れについて

- 画面に付いたホコリやモニターの汚れを清掃するときは、電源を切ってから、付属の布でから拭きしてください。
- 画面をふくときは、ツメで引っかかないように注意してください。画面にキズが付くと映像が見づらくなります。
- 化学ぞうきんをお使いの場合は、化学ぞうきんに添付の注意事項をよくお読みください。
- ぬれたぞうきんは使用しないでください。また、ベンジンやアルコールなどの揮発性の薬品は使用しないでください。



言語コード表

言語名 (言語コード)	入力コード
日本語 (ja)	1001
英語 (en)	0514
フランス語 (fr)	0618
スペイン語 (es)	0519
ドイツ語 (de)	0405
イタリア語 (it)	0920
中国語 (zh)	2608
オランダ語 (nl)	1412
ポルトガル語 (pt)	1620
スウェーデン語 (sv)	1922
ロシア語 (ru)	1821
韓国語 (ko)	1115
ギリシャ語 (el)	0512
アファル語 (aa)	0101
アブバジア語 (ab)	0102
アフリカーンス語 (af)	0106
アムハラ語 (am)	0113
アラビア語 (ar)	0118
アッサム語 (as)	0119
アイマラ語 (ay)	0125
アゼルバイジャン語 (az)	0126
バシキール語 (ba)	0201
ベラルーシ語 (be)	0205
ブルガリア語 (bg)	0207
ビハーリー語 (bh)	0208
ビスラマ語 (bi)	0209
ベンガル語 (bn)	0214
チベット語 (bo)	0215
ブルトン語 (br)	0218
カタロニア語 (ca)	0301
コルシカ語 (co)	0315
チェコ語 (cs)	0319
ウェールズ語 (cy)	0325
デンマーク語 (da)	0401
ブータン語 (dz)	0426
エスペラント語 (eo)	0515
エストニア語 (et)	0520
バスク語 (eu)	0521
ペルシア語 (fa)	0601
フィンランド語 (fi)	0609
フィジー語 (fj)	0610
フェロー語 (fo)	0615
フリジア語 (fy)	0625
アイルランド語 (ga)	0701
スコットランドゲール語 (gd)	0704
ガルシア語 (gl)	0712
グアラニ語 (gn)	0714

言語名 (言語コード)	入力コード
グジャラート語 (gu)	0721
ハウサ語 (ha)	0801
ヒンディー語 (hi)	0809
クロアチア語 (hr)	0818
ハンガリー語 (hu)	0821
アルメニア語 (hy)	0825
国際語 (ia)	0901
Interlingue (ie)	0905
イヌピアック語 (ik)	0911
インドネシア語 (in)	0914
アイスランド語 (is)	0919
ヘブライ語 (iw)	0923
イディッシュ語 (ji)	1009
ジャワ語 (jw)	1023
グルジア語 (ka)	1101
カザフ語 (kk)	1111
グリーンランド語 (kl)	1112
カンボジア語 (km)	1113
カンナダ語 (kn)	1114
カシミール語 (ks)	1119
クルド語 (ku)	1121
キルギス語 (ky)	1125
ラテン語 (la)	1201
リンガラ語 (ln)	1214
ラオス語 (lo)	1215
リトアニア語 (lt)	1220
ラトビア語 (lv)	1222
マダガスカル語 (mg)	1307
マオリ語 (mi)	1309
マケドニア語 (mk)	1311
マラーラム語 (ml)	1312
モンゴル語 (mn)	1314
モルダビア語 (mo)	1315
マラータ語 (mr)	1318
マライ語 (ms)	1319
マルタ語 (mt)	1320
ビルマ語 (my)	1325
ナウル語 (na)	1401
ネパール語 (ne)	1405
ノルウェー語 (no)	1415
プロバンス語 (oc)	1503
オロモ語 (om)	1513
オリヤー語 (or)	1518
パンジャブ語 (pa)	1601
ポーランド語 (pl)	1612
アフガニスタン語 (ps)	1619
ケチュア語 (qu)	1721

言語名 (言語コード)	入力コード
レートロマン語 (rm)	1813
キルンディ語 (rn)	1814
ローマ語 (ro)	1815
キニヤルワンダ語 (rw)	1823
サンスクリット語 (sa)	1901
シンド語 (sd)	1904
サンド語 (sg)	1907
セルボクロアチア語 (sh)	1908
セイロン語 (si)	1909
スロバック語 (sk)	1911
スロベニア語 (sl)	1912
サモア語 (sm)	1913
シヨナ語 (sn)	1914
ソマリ語 (so)	1915
アルバニア語 (sq)	1917
セルビア語 (sr)	1918
シスワティ語 (ss)	1919
セストゥ語 (st)	1920
スンダ語 (su)	1921
スワヒリ語 (sw)	1923
タミル語 (ta)	2001
テルグ語 (te)	2005
タジク語 (tg)	2007
タイ語 (th)	2008
チグリス語 (ti)	2009
ツルキ語 (tk)	2011
タガログ語 (tl)	2012
セツワナ語 (tn)	2014
トンガ語 (to)	2015
トルコ語 (tr)	2018
ツォンガ語 (ts)	2019
タタール語 (tt)	2020
トウィ語 (tw)	2023
ウクライナ語 (uk)	2111
ウルドゥー語 (ur)	2118
ウスベク語 (uz)	2126
ベトナム語 (vi)	2209
ボラビュク語 (vo)	2215
ウォルフ語 (wo)	2315
コーサ語 (xh)	2408
ユルバ語 (yo)	2515
ズルー語 (zu)	2621

* 言語表記はISO639:1988 (E/F)に準拠 (1999年9月現在)

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら

修理を依頼される前に、次の表の内容をチェックしてください。



チェックしても直らないときは

本機をリセットしてください。
(☞ 17ページ)



それでも直らないときは

『保証書とアフターサービス』(☞ 173ページ)をお読みになり、修理を依頼してください。

共通項目

症状	原因	処置
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクターが正しく接続されていない。	正しく確実に接続されているかどうか、もう一度確認してください。 (☞ 『取付説明書』)
	ヒューズが切れている。	ヒューズが切れた原因を解決し、切れたヒューズを同じ容量のヒューズと交換してください。 (☞ 『取付説明書』)
	ノイズなどが原因で内蔵のマイコンが誤動作している。	リセットボタンを押してください。 (☞ 17ページ)
リモコンで操作できない。 操作にあった正しい動作をしない。	リモコンの操作モードが間違っている。	リモコンの操作モードを正しく切り換えてください。 (☞ 19ページ)
	リモコンコードが異なっている。	リモコンコード切り換えスイッチを正しく切り換えてください。 (☞ 153ページ)
	電池が弱っている。	新しい電池に交換してください。 (☞ 19ページ)
ディスクを再生できない	ディスクによっては、禁止している操作があります。	別のディスクで確認してください。
	ディスクが汚れている。	汚れをふき取ってください。 (☞ 161ページ)
	本機で再生できない種類のディスクが入っている。	ディスクを確認してください。

症状	原因	処置
音が出ない。	音量を下げている。	音量を調節してください。 (P. 30)
	アッテネーターがONになっている。	アッテネーターを解除してください。 (P. 148)
	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。 (P. 93)
	接続が間違っている。	正しく確実に接続されているかどうか、もう一度確認してください。 (P. 『取付説明書』)
前または後ろのスピーカーから音が出ない。	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。 (P. 93)
左または右のスピーカーから音が出ない。	左右の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。 (P. 93)
音が出ないスピーカーがある。	スピーカーサイズの設定がOFFになっている。	接続しているスピーカーのサイズを正しく設定してください。 (P. 111)
	スピーカーのレベル設定が極端に小さくなっている。	他のスピーカーのレベルとバランスをとってください。 (P. 120)
	センタースピーカーを接続していない状態で、センタースピーカーのサイズを「SMALL」や「LARGE」にしている。	センタースピーカーのサイズ設定を「OFF」にしてください。 (P. 111)
映像が出ない。	パーキングブレーキコードが接続されていない。 パーキングブレーキをかけていない。	パーキングブレーキコードを接続し、パーキングブレーキをかけてください。 (P. 『取付説明書』)
 (禁止マーク) が画面に出て操作できない。	ディスクが禁止している操作です。	この操作はできません。
	ディスクの構成上対応できない操作をしている。	この操作はできません。
画面が止まり、操作を受け付けない。	ディスク再生中にデータを読みとれなくなった。	一度、リモコンの  ボタンを押してから、もう一度再生してください。
音や映像が飛ぶ。	本機がしっかり固定されていない。	本機をしっかり固定してください。
画面が伸びる、アスペクトが合わない。	モニターに対しての設定が正しくない。	ご使用のモニターに合った設定にしてください。

症状	原因	処置
エンジンスイッチをONまたはACCにすると、モーター音がする。	本機がディスクの有無を確認しています。	正常な動作です。
何も表示されない。	バックカメラが接続されていない。	バックカメラを接続してください。 (<small>図3</small> 「取付説明書」)
	バックカメラの設定が間違っている。	正しく設定してください。 (<small>図3</small> 135ページ)
電源をOFFにしても映像が出ている	デモがONになっている。	デモを解除してください。 (<small>図3</small> 16ページ)
サブディスプレイに何も表示されない。 警告音が鳴る。	フロントパネルがしっかり固定されていない。	一度、フロントパネルを外してから、再度付け直してください。
ディスク挿入口が開かない。 警告音が鳴る。	ナビゲーションユニット (「AVIC-H009」) のディスク挿入口から、ディスクがイジェクトされた状態になっている。	ナビゲーションユニットのディスク挿入口からディスクを取り出すか、完全に挿入してください。

内蔵プレーヤー：DVD

症状	原因	処置
ディスクを再生できない。	PAL方式のディスクを挿入している。 本機のリージョン番号と異なるディスクを挿入した。	NTSC方式のディスクに交換してください。 本機と同じリージョン番号のディスクに交換してください
視聴制限のメッセージが表示され、再生ができない。	視聴制限がかかっている。	視聴制限を解除またはレベルを変更してください。 (P.130ページ)
視聴制限を解除できない。	暗証番号が間違っている。 暗証番号を忘れてしまった。	正しい暗証番号を入力してください。 (P.131ページ) クリア (C) ボタンを10回押しして、暗証番号を解除してください。 (P.131ページ)
音声 (または字幕) 言語が切り換えられない。	ディスクのメニューでしか切り換えできないように制限されている。	ディスクのメニューで切り換えてください。 (P.57ページ)
字幕が出ない。	字幕が収録されていないDVDを再生している。 ディスクのメニューでしか切り換えできないように制限されている。	字幕が収録されていないDVDでは、字幕を表示できません。 ディスクのメニューで切り換えてください。 (P.57ページ)
DVDセットアップメニューで選んだ音声言語、字幕言語にならない。	DVDセットアップメニューで選んだ言語が収録されていないDVDを再生している。	DVDセットアップメニューで選んだ言語が収録されていないDVDでは、選んだ言語には切り換わりません。
アングルを切り換えて見ることができない。	複数のアングルが収録されていないDVDを再生している。 複数のアングルが収録されていない場面で操作している。	複数のアングルが収録されていないDVDでは、切り換えるできません。 複数のアングルが収録されている場面で、操作してください。
ディスク再生中に映像が乱れる。 映像が暗い。	ディスクコピー禁止信号が入っている。(ディスクによって入っている場合があります。)	本製品はアナログコピープロテクト方式のコピーガードに対応しているため、コピー禁止信号が入っているディスクを再生した場合、一部のモニターでは横縞が入るなどの症状が出るものもあります。これは、正常な動作です。

内蔵プレーヤー：ビデオCD

症状	原因	処置
PBCのメニュー画面を呼び出せない。	PBCの付いていないビデオCDを再生している。	PBCの付いていないビデオCDでは操作できません。
リピート再生、トラック／タイムサーチができない。	PBCの付いているビデオCDを再生している。	PBCの付いているビデオCDでは操作できません。

内蔵プレーヤー：CD

症状	原因	処置
CD再生中、大きな雑音が出る。	CDに大きなキズやそりがある。	他のCDと交換してください。良くなればCDの不良です。
CDの再生が途中で止まる。CDが自動的に出てくる。	CDが極端に汚れている。	CDの汚れをふき取ってください。 (☞ 161ページ)
	CDに曇りや水滴がついている。	CDの曇りや水滴をふき取ってください。 (☞ 161ページ)

ラジオ

症状	原因	処置
ラジオの受信中、“ジージー、ザーザー”という雑音が多い。	放送局の周波数が合っていない。	周波数を正しく合わせてください。 (☞ 34、35、53ページ)
	放送局の電波が弱い。	他の放送局を選局してみてください。 (☞ 34、35、53ページ)
	周りに障害物があるなど、受信状態が良くない。	受信状態が良くなると、雑音も少なくなります。
自動選局できない。	強い電波の放送局がない。	手動で選局してください。 (☞ 34、35、53ページ)

テレビ

症状	原因	処置
テレビの映りが悪い。 “ジージー、ザーザー”と いう雑音が多い。	チャンネルが合っていない。	チャンネルを正しく合わせてください。 (☞ 42、43、53ページ)
	放送局の電波が弱い。	他のチャンネルを選局してみてください。 (☞ 42、43、53ページ)
	周りに障害物があるなど、受信状態が良くない。	受信状態が良くなると、映りが良くなり、雑音が少なくなります。
自動選局できない。	強い電波の放送局がない。	手動で選局してください。 (☞ 42、43、53ページ)

こんなメッセージが表示されたら

内蔵プレーヤーのエラー表示

メッセージ (エラー番号)	メッセージが表示される時	処置
"ERROR-029E"	ディスクが汚れているとき。	ディスクの汚れをふき取ってください。 (☞ 161ページ)
	ディスクの裏表を逆にしてセットしているとき。	ディスクのタイトル面を上にしてセットしてください。 (☞ 31ページ)
	ディスクにキズやひびがあるとき。	ディスクを交換してください。
"ERROR-059E"	電気系、機構系の故障が考えられるとき。	リセットボタンを押してください。 (☞ 17ページ)
"TEMP"	本機の内部温度に異常があるとき。	本機が正常に動作する温度になるまでお待ちください。
"リージョンコードが違います"	リージョン番号が異なるディスクを挿入したとき。	リージョン番号「2」を含むDVDに交換してください。
"再生できないディスクです"	本機では再生できないディスクを使用しているとき。	本機で再生できるディスクに交換してください。 (☞ 155ページ)
"再生できない曲をスキップしました"	デジタル著作権保護 (DRM) で保護されたWMAファイルを再生しているとき。	デジタル著作権保護 (DRM) で保護されていないファイルを再生してください。
"PROTECT"	ディスク内のすべてのファイルが、デジタル著作権保護 (DRM) で保護されているとき。	ディスクを交換してください。
"DRM保護されたレンタルファイルです。レンタルは終了しました。"	DivX® VODファイルの視聴回数制限をオーバーしている。	本機で再生できるファイルに切り換えてください。
"認証エラー" "Authorization Error"	DivX® VODファイルの認証ができていない。	DivX® VODファイルをダウンロードする前に、ファイルの配信元へIDコードの認証を行ってください。 (☞ 133ページ)

メモ

- マルチCD再生中に、上記以外のエラーメッセージが表示されたときは、マルチCDの取扱説明書をご覧ください。

オートイコライジングのエラー表示

メッセージ	メッセージが表示されるとき	処置
“マイクを確認してください”	音響特性測定用マイクが接続されていない。	付属の音響特性測定用マイクをきちんと差し込んでください。 (☞ 145ページ)
“フロントレフトスピーカーを確認してください” “フロントライトスピーカーを確認してください” “フロントスピーカーを確認してください” “センタースピーカーを確認してください” “サブウーファーを確認してください” “リアレフトスピーカーを確認してください” “リアライトスピーカーを確認してください” “リアスピーカーを確認してください” “サラウンドバックスピーカーを確認してください”	スピーカーの計測音が音響特性測定用マイクで拾えない。	本機の電源を入れて、スピーカーから音が出るか確認してください。音が出ない場合は、スピーカーリード線の接続を確認してください。 (☞ 「取付説明書」) 音が著しく小さい場合は、接続したスピーカーに問題がないか、確認してください。 付属の音響特性測定用マイクを正しくセットしてください。 なるべく静かな所に車を停車し、車のエンジン、およびエアコンやヒーターを止めてください。
“騒音が大きすぎます”	周囲の騒音レベルが高すぎる。	なるべく静かな所に車を停車し、車のエンジン、およびエアコンやヒーターを止めてください。 付属の音響特性測定用マイクを正しくセットしてください。

保証書とアフターサービス

保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることをお確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。

保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。所在地、電話番号は本機に付属の『ご相談窓口・修理窓口のご案内』をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。(性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

用語解説

アスペクト比

テレビ画面の横と縦の比率をいいます。ノーマルモニターは4：3ですが、ワイドモニターは16：9の比率となっており、臨場感あふれる映像が楽しめるようになっていきます。

視聴制限（パレンタルロック）

成人向けの内容や暴力シーンなどを含むDVDの中には、視聴制限が記録されているものがあります。このようなディスクでは、本機の視聴制限レベルを設定することで、再生できなくなったり、過激なシーンを飛ばして再生したりできます。

静止画

DVDには、音声や動画だけでなく、静止画が入っている場合があります。DVDオーディオの静止画には、以下の2種類があります。

スライドショー

ディスクの設定にしたがって自動的に静止画が切り換わります。

ブラウザブル静止画

お好みの静止画を選択して表示できます。

ダイナミックレンジコントロール

ドルビーデジタルには音の強弱の幅を圧縮する機能があります。この機能がダイナミックレンジコントロールです。ダイナミックレンジの広い音声を小さな音量で聞く場合でも、良好な聴感が得られるようにコントロールします。

ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは最大5.1チャンネルの独立したマルチチャンネルオーディオを提供します。このシステムは、映画館にサラウンドシステムとして装備されているドルビーデジタルと同一のシステムです。

ドルビーデジタルEX

ドルビーデジタルEXは、「ドルビーデジタルサラウンドEX」を家庭で楽しむために開発された方式です。5.1chサラウンドシステムに「サラウンドバック」チャンネルが加わります。これにより、真後ろへの音像定位を容易に実現できるようになり、空間表現力、定位感が大幅に向上します。

ドルビープロロジックII

ドルビープロロジックIIは、2チャンネル信号を5.1チャンネルに拡張できます。CDのような通常のステレオ音楽でも立体音場効果、包囲感、より明確な定位感を実現します。

パケットライト

フロッピーやハードディスクと同じように、必要なファイルを必要な時点で、CD-Rなどに書き込む方式の総称です。

ビットレート

1秒当たりの情報量を表し、単位はbps (bit per second) です。この数字が大きいかほど、音楽を再現するために多くの情報を持つことになるため、同じ符号化方式 (MP3など) での比較では、一般的に数字が大きい方が良い音となります。(MP3とATRAC3のように、異なる符号化方式の場合、単純な比較はできません。)

プレイバックコントロール (PBC)

ビデオCD (バージョン2.0) に記録されている再生をコントロールするための信号です。PBC付きビデオCDに記録されているメニュー画面を使って、簡単な対話形式のソフトや検索機能のあるソフトの再生が楽しめます。また、高/標準解像度の静止画も楽しむことができます。

ボーナスグループ

DVDオーディオには、4桁の暗証番号を入力することで再生できる「ボーナスグループ」というグループが収録されている場合があります。

マルチアングル

通常のテレビ番組などはテレビカメラからの映像を見ているので、画像は撮影しているカメラの位置の視点になります。テレビ番組などでは、数台のカメラで同時に撮影した映像のうち1つを各家庭のテレビに送っています。もし、すべてのカメラの映像が同時に送られてくれば、見たい視点の映像を見ることも可能になります。DVDには、同時に複数のカメラで撮影した映像をすべて収録しているものがあり、視点を自由に選ぶことができます。

マルチ音声

DVDやDivXの中には、1枚のディスクの中に複数の音声を収録しているものがあります。DVDやDivXでは、音声を最大8言語 (8ストリーム) まで記録することができます。その中からお好みの言語を選ぶことができます。

マルチ字幕 (サブタイトル)

映画などでおなじみの字幕です。DVDやDivXでは、1枚のディスク (1つのファイル) に複数の字幕を収録しているものがあります。DVDでは最大32言語まで、DivXでは最大8言語まで記録でき、その中からお好みの言語を選ぶことができます。

マルチセッション

マルチセッションは、データの追加ができる記録方式です。CD-ROMやCD-R、CD-RWにデータを記録するとき、その記録の始めから終わりまでをひとまとめにした単位をセッションといいます。マルチセッションとは、1枚のディスクに2つ以上のセッションデータを記録する方法のことです。

リージョン番号

DVDプレーヤーとDVDディスクは発売地域ごとに再生可能な地域番号 (リージョン番号) が設けられており、再生するディスクに記載されている番号にプレーヤーの地域番号が含まれていない場合は再生できません。本機のリージョン番号は「2」です。(本体底面に表記されています。)

リニアPCM (LPCM)

音楽CDに用いられている信号記録方式で、「Linear Pulse Code Modulation」の略です。音楽CDでは、44.1 kHz/16 bitで記録されているのに対し、DVDでは、48 kHz/16 bit~96 kHz/24 bitで記録されているため、音楽CDよりも高音質の再生が可能です。

量子化ビット数

量子化ビット数は、音質を定義する要素の1つです。この数が大きいほど、音質が良くなります。ただし、量子化ビット数が大きくなるほどデータサイズも大きくなるため、より多くの記憶容量が必要となります。

AAC

「Advanced Audio Coding」の略で、MPEG2、MPEG4で使用される音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。

AOB (エーオービー)

「Audio Object」の略です。DVDオーディオは、実際のオーディオデータをヘッダー情報などの管理情報などとパック化し、多重化したうえで、Object (オブジェクト)としてディスクに記録します。AOBはDVDオーディオのObject (オブジェクト)のひとつで、主に音声の再生を目的としたObject (オブジェクト)です。

DivX

DivXは、DivX, Inc.が開発した評価の高いメディア技術です。DivXのメディアファイルは、高音質を維持しながら、高い圧縮率でコンパクトに圧縮できます。DivXで圧縮するファイルには、メニューや字幕、サブオーディオトラックなども含めることができます。DivX.comでは、DivXメディアファイルを多数掲載しています。これらのメディアをダウンロードしてDivXの専用ツールを使えば、オリジナルのコンテンツを作成できます。

DivX Certified

DivX Certified製品は、DivXのクリエイターによって、全てのバージョンのDivX (DivX 6も含む)でも再生できることが正式にテスト、認定された製品です。DivX Certifiedの認定ロゴが付いている製品は、DivX Profiles規格に準拠したポータブルビデオやHDビデオであることを示します。

DTS

「Digital Theater Systems」の略です。DTSは、サラウンドシステムで、最大6チャンネルの独立したマルチチャンネルオーディオを提供します。

DTS 96/24

5.1chすべてを96 kHz/24 bitで再生するサラウンドフォーマットです。スタジオのマスター音源の音質を踏襲しています。DVDの限られた記憶領域で、高音質/高画質を両立させます。従来のDTSデコーダーでは通常のDTS信号として再生されるため、完全互換性を持っています。

DTS Neo:6

すべての2chステレオソースと5.1chソースを6.1ch化する、マトリックスデコード技術です。CINEMAモードとMUSICモードがあります。

CINEMAモード

6.1ch化します。映画再生に適したモードで、2chステレオのソースでも、映画館特有の移動感などをお楽しみいただけます。

MUSICモード

6.1ch化します。フロントからは、原音をそのまま再生するため、音質の変化がなく、音楽再生に適しています。また、センター／サラウンド／サラウンドバックのそれぞれのチャンネルの音声が、音場に自然な広がり感を与えます。

DTS-ES

「DTS Extended Format」の略です。従来の5.1chにサラウンドバックチャンネルを加えたもので、音像・定位感の向上が可能となりました。「DTS-ES ディスクリート6.1」と「DTS-ES マトリックス6.1」の2種類があり、それぞれサラウンドバックチャンネルの処理が異なります。どちらの方式も、従来のDTSデコーダーでは、通常のDTS信号として処理されるため、完全互換性を持っています。

EXIF

「Exchangeable Image File Format」の略です。富士フィルムが提唱した、デジタルカメラ用の画像ファイルの規格です。各社のデジタルカメラでの標準仕様として採用されています。画像データだけでなく、縮小画像（サムネイル）や、画像についての情報、撮影日時などの付加情報を記録できます。

ID3 Tag

曲の関連情報をMP3ファイルの中に埋め込む方式です。埋め込むことのできる情報は、曲名、アーティスト名、アルバム名、ジャンル、製作年、コメントなどがあります。この内容はID3 Tag編集機能のあるソフトを利用して自由に編集できます。通常は文字数などに制限がありますが、曲の再生時に情報を見ることができるようになっています。

ISO9660フォーマット

CD-ROMのファイルおよびフォルダーに関する論理フォーマットの国際基準です。ISO9660フォーマットには、次のようなレベルに関する規制があります。

レベル1

ファイル名は、8.3形式（名前は半角英大文字と半角数字、“_”で8文字以下、拡張子は3文字）で、各フォルダーの階層は8つ以下

レベル2

ファイル名は、最大31文字（区切り文字、“.”と拡張子を含む）で、各フォルダーの階層は8つ以下

拡張フォーマット

Joliet

ファイル名は、最大で64文字

Romeo

ファイル名は、最大で128文字

JPEG

「Joint Photographic Expert Group」の略で、画像圧縮技術に関する基本フォーマットです。

m3u

プレイリストファイルの拡張子 (.m3u) で、「WINAMP」などのソフトで作成したプレイリストに付きます。

MP3 (エムピースリー)

「MPEG Audio Layer3」の略で、ISO (国際標準化機構)のワーキンググループ (MPEG) の定めた音声圧縮の規格です。MP3は、音声データを元のデータの約1/10のサイズに圧縮できます。

MPEG

「Moving Picture Experts Group」の略で、「エムペグ」と読みます。これは動画圧縮の国際標準です。DVDでは、この方式でデジタル音声を圧縮して記録している場合もあります。

MS ADPCM

「Microsoft Adaptive Differential Pulse Code Modulation」の略で、米国Microsoft Corporationのマルチメディア・ソフトウェアで使用される信号記録方式です。

PPCM (Packed PCM)

DVDオーディオに用いられている信号方式で、ロスレス圧縮により、信号データを損うことなく収録効率を向上させています。

VBR (バイビーアール)

「Variable Bit Rate (可変ビットレート)」の略です。一般的にはCBR (固定ビットレート) が多く使われていますが、音声圧縮では圧縮状況に合わせてビットレートを可変することで、音質を優先した圧縮が可能となります。

VOB (バイオビー)

「Video Object」の略です。DVDオーディオは、実際のオーディオデータをヘッダー情報などの管理情報などとパック化し、多重化したうえで、Object (オブジェクト) としてディスクに記録します。VOBはDVDオーディオのObject (オブジェクト) のひとつで、主に音声と映像の再生を目的としたObject (オブジェクト) です。VOBでのレコーディング方式は、DVD Videoの規格に準拠しており、互換性が保たれています。























WMA

「Windows Media™ Audio」の略で、米国Microsoft Corporationによって開発された音声圧縮技術です。WMAデータはWindows Media Player Ver.7以降を使用してエンコードすることができます。Microsoft、Windows Media、Windowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
















アイコン一覧

地上デジタルTV、携帯電話、およびBTオーディオを操作中に表示されるアイコンとその内容は以下の通りです。

地上デジタルTV

-  HV : ハイビジョン放送受信中
-  SD : 標準画質放送受信中
-   : ワンセグ受信中
-  d : データ連動放送受信中
-  ∞ : ステレオ放送受信中
-   : サラウンド放送受信中
-   : 多国語放送受信中
-   : マルチ編成のTV番組受信中
-   : 通常放送とワンセグ切替可能
(ワンセグ → 通常)
-   : 通常放送とワンセグ切替可能
(通常 → ワンセグ)
-   : マルチビュー放送受信中
-   : 未読メッセージあり
-   : 受信レベル

携帯電話・BTオーディオ

-   : 音声認識操作中
-   : 不在着信あり
-  [AUTO] : 自動着信設定
-   : 着信拒否設定
-   : バッテリー残量
-   : 電界強度
-   : Bluetooth接続中(携帯電話)
点灯: 接続中
点滅: 自動接続処理中
-   : Bluetooth接続中(BTオーディオ)

データ記録シート

入力したデータは、書き込んでおくことをおすすめします。

シートは必要に応じてコピーしてお使いください。

3バンドパラメトリックイコライザー (Mch (マルチチャンネル) モード)

スピーカー	バンド	周波数	レベル	Qファクター
フロントレフト	LOW			
	MID			
	HIGH			
フロントライト	LOW			
	MID			
	HIGH			
リアレフト	LOW			
	MID			
	HIGH			
リアライト	LOW			
	MID			
	HIGH			
センター	LOW			
	MID			
	HIGH			
サラウンドバック	LOW			
	MID			
	HIGH			

13バンドグラフィックイコライザー (2ch (2チャンネル) モード)

スピーカー	50	80	125	200	315	500	800	1.25k	2k	3.15k	5k	8k	12.5k
レフト													
ライト													

スピーカー設定 (スピーカーの有無とサイズの設定)

スピーカー	フロント	センター	リア	サラウンド バック	サブ ウーファー
設定	SMALL LARGE	OFF SMALL LARGE	OFF SMALL LARGE	OFF SMALL LARGE	ON OFF

カットオフ周波数設定

スピーカー		カットオフ周波数	スロープ	PHASE
フロントライト (HIGH)				
フロントレフト (HIGH)				
フロントライト (MID)	LPF			
	HPF			
フロントレフト (MID)	LPF			
	HPF			
リアライト				
リアレフト				
センター				
サラウンドバック				
サブウーファー				

フロントレフト (HIGH)、フロントライト (HIGH)、フロントMIDスピーカーのLPFは、ネットワークモードで操作しているときに使用できます。

スタンダードモードで使用しているときは、フロントスピーカーの設定内容は、フロントレフト (MID) およびフロントライト (MID) の項目に記入してください。

タイムアライメント

スピーカー	距離	レベル
フロントライト (HIGH)		
フロントレフト (HIGH)		
フロントライト (MID)		
フロントレフト (MID)		
リアライト		
リアレフト		
センター		
サラウンドバック		
サブウーファー		

フロントレフト (HIGH)、フロントライト (HIGH) は、ネットワークモードで操作しているときに使用できます。

スタンダードモードで使用しているときは、フロントスピーカーの設定内容は、フロントレフト (MID) およびフロントライト (MID) の項目に記入してください。

仕様

DVDプレーヤー部

形式：

DVDオーディオ、DVDビデオ、
ビデオ CD、CD、MP3、WMA、AAC、
DivX、JPEG プレーヤー

リージョン番号：

2

使用ディスク：

DVDオーディオ、DVDビデオ、ビデオ
CD、CD、dts CD、CD-R、CD-RW、
DVD-R、DVD-RW

信号フォーマット：

サンプリング周波数：

16 kHz/22.05 kHz/24 kHz/
44.1 kHz/48 kHz/88.2 kHz/
96 kHz/176.4 kHz/192 kHz

量子化ビット数：

16/20/24ビット直線

周波数特性：

5 Hz ~ 96 000 Hz
(DVD、サンプリング周波数192 kHz時)

S/N比：

102 dB (1 kHz)
(IHF-A ネットワーク)
102 dB (1 kHz)
(IHF-A ネットワーク) : CD

ダイナミックレンジ：

100 dB (1 kHz)
98 dB (1 kHz) : CD

高調波歪率：

0.008 % (1 kHz)

出力レベル：

映像
1 Vp-p/75 Ω (± 0.2 V)
音声
1.1 V (1 kHz、0 dB)

チャンネル数：

2 (ステレオ)、デジタル 6 ch

MP3デコーディングフォーマット：

MPEG-1 & 2 Audio Layer-3

WMAデコーディングフォーマット：

Ver. 7、7.1、8、9、10
(2ch オーディオ)
(Window Media Player)

AACデコーディングフォーマット：

iTunes Ver. 4.6

FMチューナー部

受信周波数帯域：

76.1 MHz ~ 89.9 MHz

実用感度：

8 dBf (0.7 μV/75 Ω、
モノラル、S/N : 30 dB)

S/N 50 dB感度：

10 dBf (0.9 μV/75 Ω、モノラル)

S/N：

75 dB (IHF-A ネットワーク)

高調波歪率：

0.3 % (65 dBf入力、1 kHz、ステレオ)
0.1 % (65 dBf入力、1 kHz、モノラル)

周波数特性：

30 Hz ~ 15 000 Hz (±3 dB)

ステレオセパレーション：

45 dB (65 dBf入力、1 kHz)

AMチューナー部

受信周波数帯域：

522 ~ 1 629 kHz (9 kHz)

実用感度：

18 μV (S/N : 20 dB)

S/N：

65 dB (IHF-A ネットワーク)

TVチューナー部

受信チャンネル：

VHF1 ch ~ 12 ch
UHF13 ch ~ 62 ch

映像信号方式：

NTSC

実用感度：

6 dBμ (75 Ω、モノラル音声)

映像 S/N：

40 dB以上
(59 dBμRF入力、白100 %)

映像雑音制限感度：

40 dBμ

アンテナ入力：

4 chダイバシティ (φ3.5ミニプラグ)

アンテナケーブル長：

7.0 m

オーディオ部**最大出力：**

50W × 8

定格出力：

22W × 8

(50~15 000 Hz、5 % THD)

負荷インピーダンス：

4 Ω (4 Ω ~ 8 Ω 使用可能)

プリアウト：**最大出力レベル：**

5.0 V × 9 ch

出カインピーダンス：

100 Ω

デコーダー：

リニアPCM、ドルビーデジタル、
ドルビーデジタルEX、ドルビーEX、
ドルビープロロジックII、DTS、
DTS-CD、DTS-ES (マトリックス、
ディスクリット)、DTS-96/24、
DTS-Neo6、AAC

SOUND SETTING**リスニングポジション：**

フロントレフト、フロントライト、
フロント、オール、OFF

**3バンドパラメトリックイコライザー
(Multi CH mode)：****周波数：**

40 Hz、50 Hz、63 Hz、80 Hz、
100 Hz、125 Hz、160 Hz、
200 Hz、250 Hz、315 Hz、
400 Hz、500 Hz、630 Hz、
800 Hz、1 kHz、1.25 kHz、
1.6 kHz、2 kHz、2.5 kHz、
3.15 kHz、4 kHz、5 kHz、
6.3 kHz、8 kHz、10 kHz、
12.5 kHz

Qファクター：

1.2、3.6

調整幅：

± 12 dB (2 dB/ステップ)

**13バンドグラフィックイコライザー
(2 ch mode)：****周波数：**

50 Hz、80 Hz、125 Hz、
200 Hz、315 Hz、500 Hz、
800 Hz、1.25 kHz、2 kHz、
3.15 kHz、5 kHz、8 kHz、
12.5 kHz

Qファクター：

5.0

調整幅：

± 12 dB (2 dB/ステップ)

スピーカー設定：**フロント：**

LARGE/SMALL

センター：

LARGE/SMALL/OFF

リア：

LARGE/SMALL/OFF

サラウンドバック：

LARGE/SMALL/OFF

サブウーファー：

ON/OFF

カットオフ：**フロント (LR共通/独立調整)：**

スタンダード

HPF

周波数：

50 Hz、63 Hz、80 Hz、
100 Hz、125 Hz、160 Hz、
200 Hz

スロープ：

-6 dB/oct.、-12 dB/oct.
-18 dB/oct.

(スピーカーLARGE時スルー)

ミュート：

ON/OFF

ネットワーク**HI-HPF****周波数：**

1.25 kHz、1.6 kHz、2 kHz、
2.5 kHz、3.15 kHz、4 kHz、
5 kHz、6.3 kHz、8 kHz、
10 kHz、12.5 kHz

スロープ：

-6 dB/oct.、-12 dB/oct

MID-LPF

周波数:

1.25 kHz、1.6 kHz、2 kHz、
2.5 kHz、3.15 kHz、4 kHz、
5 kHz、6.3 kHz、8 kHz、
10 kHz、12.5 kHz

スロープ:

0 dB/oct.、-6 dB/oct.、
-12 dB/oct.
(0 dB/oct.時 スルー)

MID-HPF

周波数:

50 Hz、63 Hz、80 Hz、
100 Hz、125 Hz、160 Hz、
200 Hz

スロープ:

-6 dB/oct.、-12 dB/oct.
-18 dB/oct.
(スピーカーLARGE時 スルー)

ミュート

HI:

ON/OFF

LOW:

ON/OFF

センター:

HPF

周波数

50 Hz、63 Hz、80 Hz、
100 Hz、125 Hz、160 Hz、
200 Hz

スロープ:

-6 dB/oct.、-12 dB/oct.
-18 dB/oct.
(スピーカーLARGE時 スルー)

リア (LR共通/独立調整):

HPF

周波数

50 Hz、63 Hz、80 Hz、
100 Hz、125 Hz、160 Hz、
200 Hz

スロープ:

-6 dB/oct.、-12 dB/oct.
-18 dB/oct.
(スピーカーLARGE時 スルー)

ミュート:

ON/OFF

サラウンドバック:

HPF

周波数

50 Hz、63 Hz、80 Hz、
100 Hz、125 Hz、160 Hz、
200 Hz

スロープ:

-6 dB/oct.、-12 dB/oct.
-18 dB/oct.
(スピーカーLARGE時 スルー)

ミュート:

ON/OFF

サブウーファー:

LPF

周波数

50 Hz、63 Hz、80 Hz、
100 Hz、125 Hz、160 Hz、
200 Hz

スロープ:

0 dB/oct.、-6 dB/oct.、
-12 dB/oct. -18 dB/oct.

位相:

NORMAL/REVERSE

ミュート:

ON/OFF

タイムアライメント:

0 cm ~ 500 cm
(2.5 cm/ステップ)

スピーカー出カレベル:

-24 dB ~ +10 dB
(1 dB/ステップ)

共通部

- 使用電源：
DC 14.4 V
(10.8 V～15.1 V 使用可能)
- アース方式：
マイナスアース方式
- 最大消費電流：
本体：3.7 A
ハイドウェイ部：22 A
- 外形寸法：
(本体取付寸法 (W) × (H) × (D))：
178 mm × 50 mm × 165 mm
(本体ノーズ寸法 (W) × (H) × (D))：
170 mm × 46 mm × 31 mm
(ハイドウェイ部寸法 (W) × (H) × (D))：
280 mm × 37 mm × 171 mm
- 質量：
本体：2.5 kg (コードユニット含まず)
ハイドウェイ部：1.5 kg (コードユニット含まず)

モニター部

- 画面サイズ：
7.0 インチワイドモニター
- アスペクト比：
15 : 9
- 有効表示面積：
152.4 mm × 91.44 mm
- 有効画素数：
1 152 000 画素 (800 × 480 × 3)
- 方式：
TFTアクティブマトリクス方式
- 使用温度範囲：
-10 °C ~ +50 °C
- 保存温度範囲：
-20 °C ~ +80 °C
- スライド角度調整範囲：
50° ~ 110° (初期設定角度：90°)

付属品

- リモコン : 1
- リチウム電池 (CR2025) : 1
- コードユニット : 1式
- 取付ネジ類 : 1式
- 音響特性測定用マイク : 1
- ダイバシティフィルムアンテナ : 1式
- 取扱説明書 : 1
- 取付説明書 : 1
- 安全上のご注意 : 1
- 保証書 : 1
- ご相談窓口・修理窓口のご案内 : 1



メモ

- 上記の仕様および外観は予告なく変更することがあります。また、この説明書の中のイラストと実物が、一部異なる場合があります。



この説明書の印刷には、植物性大豆油インキを使用しています。

<各窓口へのお問い合わせ時のご注意>

市外局番「0070」で始まる ☎ フリーフォン、および「0120」で始まる ☎ フリーダイヤルは、PHS、携帯電話などからはご使用になれません。また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

ご相談窓口のご案内

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

商品についてのご相談窓口 ● 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求窓口

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーフォン）

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00、土曜・日曜・祝日 9:30～12:00、13:00～17:00（弊社休業日は除く）

● カーオーディオ／カーナビゲーション商品

電話 ☎ **0070-800-8181-11** 【一般電話】 **03-5496-8016**

ファックス **03-3490-5718**

インターネットホームページ <http://www.pioneer.co.jp/support/index.html>

※商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など

修理窓口のご案内

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の「故障かな？と思ったら」を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、① 型名、② ご購入日、③ 故障症状を具体的にご連絡ください。

修理についてのご相談窓口 ● お買い求めの販売店に修理の依頼ができない場合

修理受付センター（沖縄県を除く全国）

受付時間 月曜～金曜 9:30～19:00、土曜・日曜・祝日 9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

電話 ☎ **0120-5-81028** 【一般電話】 **03-5496-2023**

ファックス ☎ **0120-5-81029**

インターネットホームページ <http://www.pioneer.co.jp/support/repair.html>

※インターネットによる修理受付対象商品は、家庭用オーディオ／ビジュアル商品に限りです

沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

電話 【一般電話】 **098-879-1910**

ファックス **098-879-1352**

部品のご購入についてのご相談窓口 ● 部品（付属品・リモコン・取扱説明書など）のご購入について

部品受注センター

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00、土曜・日曜・祝日 9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

電話 ☎ **0120-5-81095** 【一般電話】 **0538-43-1161**

ファックス ☎ **0120-5-81096**

パイオニア株式会社

〒153-8654 東京都目黒区目黒 1-4-1

この説明書は、再生紙を使用しています。

©パイオニア株式会社 2006

< KSNZF > < 06D00000 > < CRA3861-B >